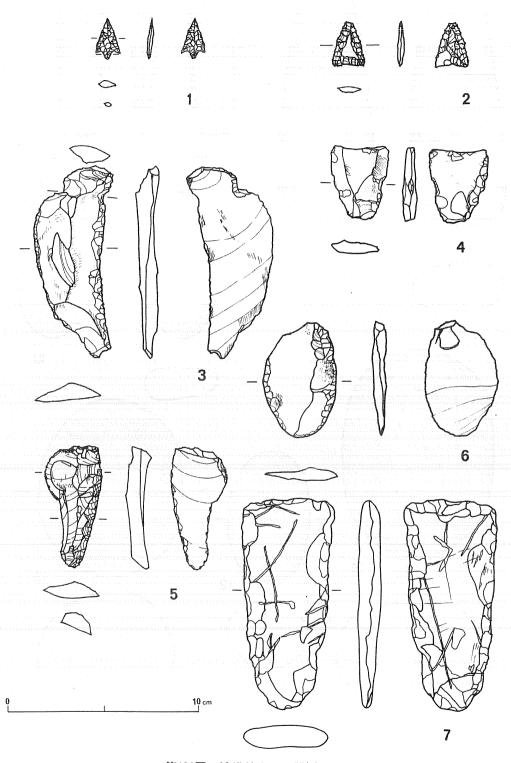
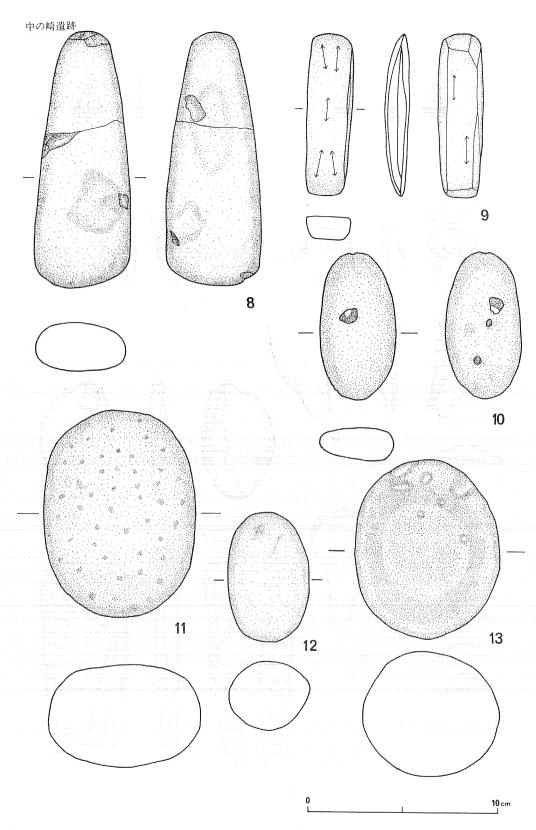


第130図 遺構外出土遺物(8)

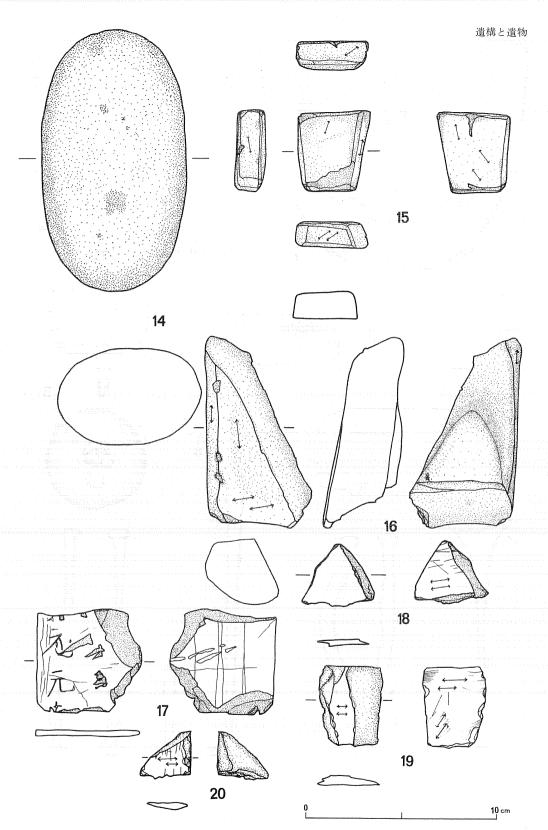
超貴部の中



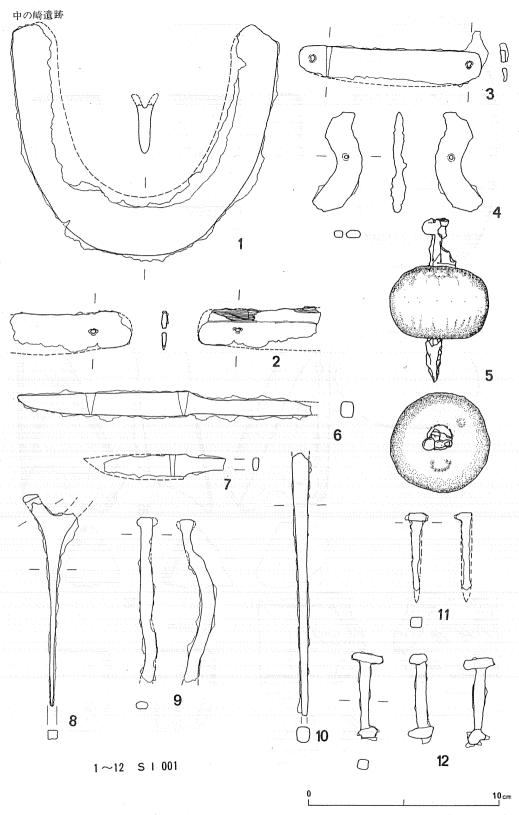
第131図 遺構外出土石器(1)



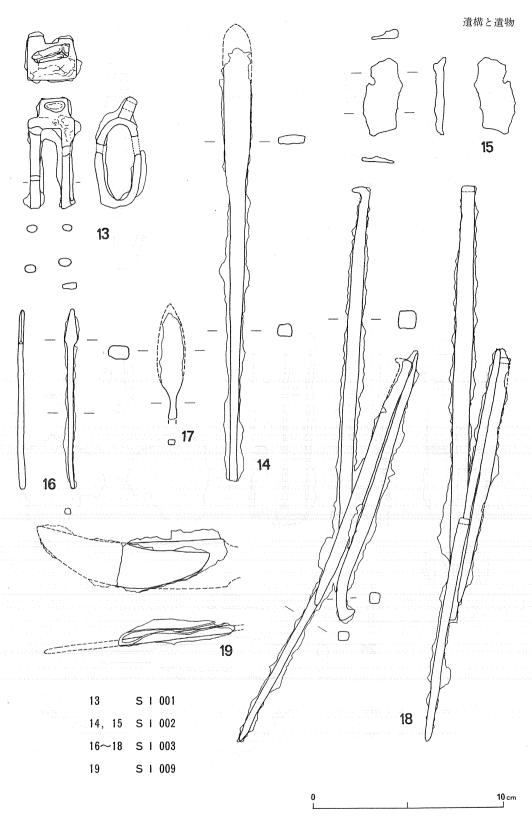
第132図 遺構外出土石器(2)



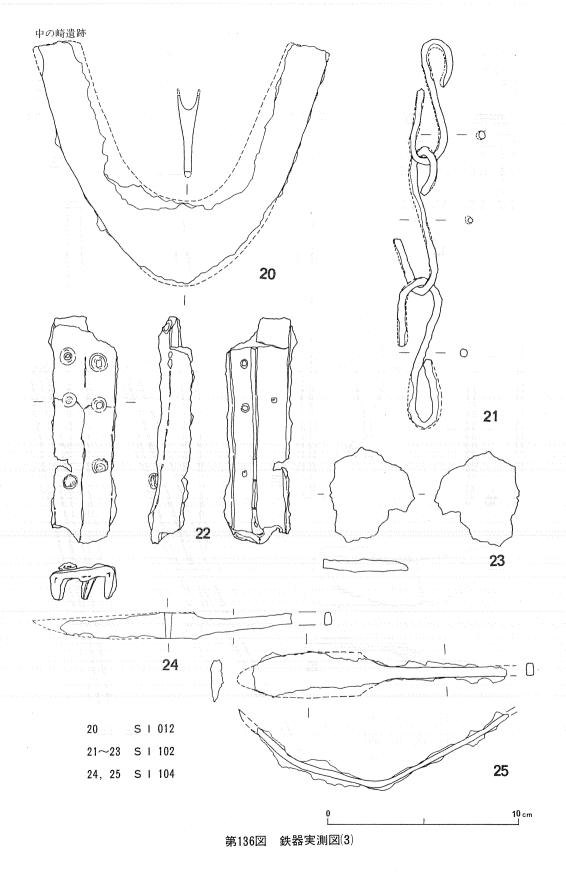
第133図 遺構外出土石器(3)



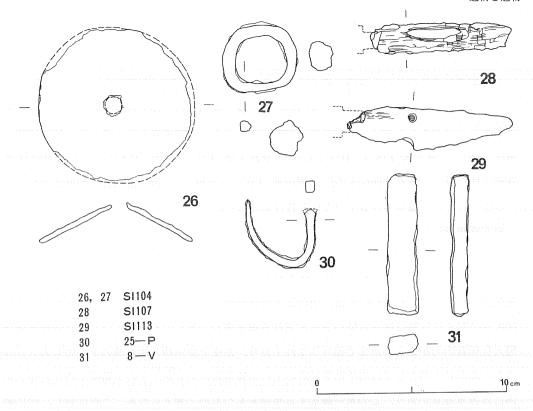
第134図 鉄器実測図(1)



第135図 鉄器実測図(2)



— 246 —



第137図 鉄器実測図(4)

もある。 $135 \sim 137$ は土師器甕で外面調整はヘラナデされている。139は須恵器甕の破片。140は鞴羽口の破片で上部は強い火熱をうけ、鉄が付着している。

b. 石器 (第131~133図)

石器の出土点数は少なく、20点の出土にとどまった。1、2は石鏃で、1は有茎である。3は石匙。 $4\sim6$ は掻器で、刃部に細かい調整がなされる。 $1\sim6$ の石質は頁岩。7は石箆で、石質は泥岩。 $8\cdot9$ は磨製石斧で、石質は8が凝灰岩、9が緑色凝灰岩。 $10\sim14$ は磨石で、石質は11が花崗閃緑岩、その他は安山岩。 $15\cdot16$ は砥石。石質は15が泥岩、16が緑色凝灰岩。 $18\sim20$ は石板で、17には「元」とおぼしき線刻がみられる。石質はいずれも粘板岩。

c. 鉄器 (第134~137図)

 $30\cdot 31$ を除いて、竪穴住居跡の床面から出土したものである。器種としては鍬 $(1\cdot 20)$ 、手鎌 $(2\cdot 3)$ 、紡錘車 $(5\cdot 26)$ 、刀子 $(6\cdot 7\cdot 19\cdot 24\cdot 28\cdot 29)$ 、釘 $(9\cdot 11\cdot 12\cdot 18\cdot 30)$ 、鉄鏃 $(16\cdot 17\cdot 25)$ などが出土している。5 ははずみ円盤部に丸い石を用いる。

6. まとめ

中の崎遺跡で検出された遺構は縄文時代と思われるものは、竪穴住居跡 1 棟(I 区)、フラスコ状ピット 1 基(II区)、 T ピット 1 基(II区)、土壙 1 基(II区)、焼土遺構 2 基(I 区) である。平安時代と思われるものは、竪穴住居跡20棟(I 区 8 のうち排水溝もつもの 3 棟、II区11棟、III区 1 棟)、土壙 5 基(I 区 3、II区 2)、合口甕棺 1 基(I 区)、中世と思われるものは掘立柱建物跡 4 棟(II区)、時期不明のものは土壙24基(I 区 11、II 区 13)、溝 1 条(II区)が検出された。

以下それぞれの遺構毎に若干の考察を付け加えたい。

竪穴住居跡について

竪穴住居跡は縄文時代のものが1棟、平安時代のものが20棟検出されている。縄文時代のものは石囲炉のみの検出であり、その時代を細かく定義づけることはできなかった。平安時代の竪穴住居跡のいくつかについては、次のような特徴がみられる。I区から検出されたSI001、003、009竪穴住居跡は壁から低い方へと流れる排水溝らしきものを持っている。この排水溝は竪穴住居跡内のかまどの前まで掘り込まれており、かまど使用時の排水溝のようにもみられる。これに類似した例としては岩手県安代町の上の山™遺跡があるが、上の山™検出の竪穴住居跡内には湧水地点があり、この水を排水する用途をもつものと考えられる。これに対し、中の崎遺跡検出のものは湧水箇所がない。しかし、溝は確実に低い方に掘り進められており、排水溝としての役目を十分に持つものである。

S I 104・112竪穴住居跡からは場とともに坏が多数出土している。S I 104竪穴住居跡出土の 場は調整も荒いのに対し、S I 112竪穴住居跡出土のものは口縁部が反っており、調整もていね いで、伴出遺物としての土師器甕もほとんどのものにロクロ使用が認められることなどから、 S I 112竪穴住居跡の方が新しいものと思われる。

土壙について

土壙は32基検出されているが、遺物の出土する土壙は少なく、時代を確定づけられるものは 少ない。形態をみても、平面不定形で浅いものが多く、これらの近似性もみられなかった。

フラスコ状ピットについて

フラスコ状ピットは1基のみ検出されており、遺物も出土しなかった。

Tピットについて

Tピットは1基のみの検出である。縦貫道路線上の検出例としては対の状態で検出されてい (註2) るものがあるが、中の崎遺跡のものは方向からみて、対の状態ではないと思われる。

合口甕棺について

I区から主軸方向をほぼ北に向けて1基検出された。今まで秋田県内で合口甕棺が検出され

(#3)

たのは、秋田城跡に検出された1例のみである。これと比較してみると、中の崎遺跡検出のものは壙底に木炭などはないものの、主軸方位はN19°Wであり、北をある程度意識して構築したものと思われる。土師器甕棺内からは炭化物が検出されており、これを¹⁴C分析したところ1150±60B.P.という値が出ている。また土壌の燐分析も行っており、その結果を付1第25表に示した。これをみると北側の甕内(B)と南側の甕内(A)の数値間には5倍以上の差があり、雨による燐分の流出等も考えられるが、南側の甕に埋葬した可能性が高い。

風倒木痕について

II 区からは、土壙と近接していくつかの風倒木痕が検出されたが、これについては第3図遺構配置図に位置のみを記した。遺物を出土したものもなかった。

- 註1. 岩手県埋蔵文化財センター『上の山Ⅷ遺跡現地説明会資料』1980年。
- 註 2 . 秋田県教育委員会「北の林Ⅰ遺跡」『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅲ』1981年。
- 註3. 秋田市教育委員会『秋田城跡第四次調査概報』1962年。

付1 土壌の燐酸分測定について

秋田県農業試験場

先般依頼された土壌の燐酸分の測定結果について別紙のように報告します。なお分析法は次のとおりです。

全リン酸:過塩素酸分解法。比色はモリブデン酸アンモン-アスコルビン酸法を用い日立製 光電光度計による。

Bray No.1 (0.03N-NH₄F可溶性): 0.03N-NH₄Fと0.025NHClの混液を使用し1分間振盪 浸出。比色は全リン酸の場合と同様。

第25表 土壌分析一覧表

単位(mg/100 g)

	試料番号	試米	名	試料状況	1	全リン酸	0.03N−NH₄F可溶性リン酸
Ī	N-1	S X 011	埋土A	合口甕棺内	可底部	54.3	0,18
1	N — 2	S X 011	埋土B	合口甕棺内	内底部	281.0	0.18
	N — 3	S X 011	外(下)	掘形底部	ton contribution (p. 1475)	119.0	
	N — 4	S X 011	外(側)	掘形側部		29.3	0.09
	N — 5	表	土	標準層位	I層	132.9	0.27
	N — 6	地表下	30cm	標準層位	II 層	344.1	0.27
	N — 7	地表下	50cm	標準層位	III層	277.1	0.26
	N — 8	地表下	80cm	標準層位	V層	291.8	0.26
	N — 9	地表下	90cm	標準層位	WI層	562.1	0.09

昭和57年2月5日に受取りましたC-14試料7個の測定結果ができましたのでご報告します。

当方のコード	依賴	者のコード		C - 1	14年代	
N - 4438	T W16	S X011	1150±60y B.	. P.	(1110±55y	B. P.)
N - 4439	T W16	S I 001カマド	1130±75y B.	. P.	$(1100 \pm 70y)$	B. P.)
N - 4440	T W16	S I 107床面	1100±75y B.	. P.	$(1070 \pm 70y)$	B. P.)
N - 4441	T W16	SI012床面	930±75y B.	. P.	(905±70y	B. P.)
N - 4442	T W16	SI301床面	1100±75y B.	. P.	$(1060 \pm 70y)$	B. P.)
N - 4443	T W16	S I 112床面	1130 ± 60 y B.	. P.	(1100±60y	B. P.)
N - 4444	T W16	S I 104床面	1260 ± 60 y B.	. P.	$(1220 \pm 55y)$	B. P.)

年代は $^{\rm H}$ C の半減期5730年(カッコ内はLibbyの値5568年)にもとづいて計算され、西暦1950年よりさかのぼる年数(years B.P.)として示されています。付記された年代誤差は、放射線計数の統計誤差と、計数管のガス封入圧力および温度の読取の誤差から計算されたもので、 $^{\rm H}$ C 年代がこの範囲に含まれる確率は約70%です。この範囲を 2 倍に拡げますと確率は約95%となります。なお $^{\rm H}$ C 年代は必らずしも真の年代とひとしくない事に御注意下さい。

発掘調査参加者 (中の崎遺跡)

浅石清一,浅石林一郎,浅利雄造,阿部金太郎,阿部国松,阿部藤次郎,阿部安五郎,阿部理一,岩沢公則,大信田学,小田藤次郎,海沼仁太郎,川又吉弥,川又喜代治,木村省三郎,木村留吉,工藤伊代治,斉藤五十二,佐藤清太郎,佐藤由蔵,関本芳雄、田中敬二,田中勇吉,田村勝弥,津江広,奈良慶治,奈良正次郎,根元市蔵,畠山市助,山崎清助,山本富恵,吉村明,秋本ミツ,秋本吉子,浅石イソ,浅石キガ,浅石サキ,浅石サト,浅石シヅ,浅石ヒサ,浅石ミサ,浅石ミョ,浅石幸枝,阿部キン,阿部恵子,阿部サダ,阿部好子,阿部弘子,安保ハルエ,安保ユキ子,安保ヨシ,石井イツ,石川一枝,大森栄子,海沼栄子,金沢良子,川又スエ,川又ソヨ,川又千代,川又リサ,神田フジエ、木村ソワ,木村ツギ,久慈チヤ,児玉ハツエ,児玉ミツエ,斉藤イエ,斉藤節子,斉藤久子,佐藤カン子,佐藤末子,佐藤スミ,佐藤正子,佐藤砂子,佐藤アミエ,佐藤ミツ,高田チオ,田中スミ,綱木ミヨ,豊田コヨ,豊田スミ,豊田チキ,中野ヨシ子,奈良ミワ,成田ウメ,成田笑理子,成田ヒサ,根本キヌ,根本キワ,根本シエ,根本スエ,橋場トシ,畠山サカエ,古家一子,古家カツ子,米田ノリ,前田エミ,松岡ヒサ,間藤美代,三ケ田ツヨノ,宮沢イサエ,宮沢カヨ,柳沢照子,柳沢光子,山口チョ子,山本エツヨ (50音順,敬称略)



図版1 中の崎遺跡航空写真 (上が北)





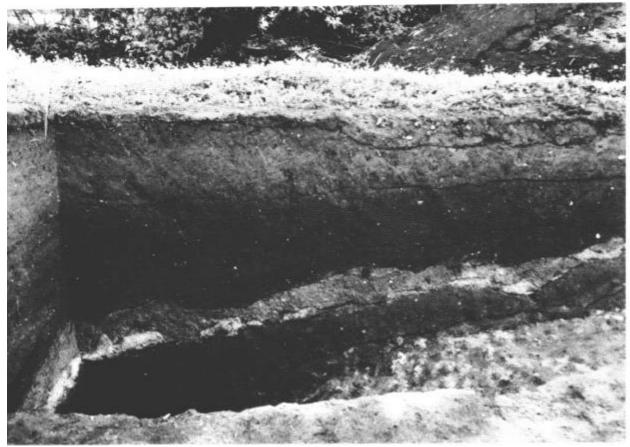
図版 2 遺跡遠景 (上) 発掘前 (西▶東) (下) 発掘後 (東▶西)



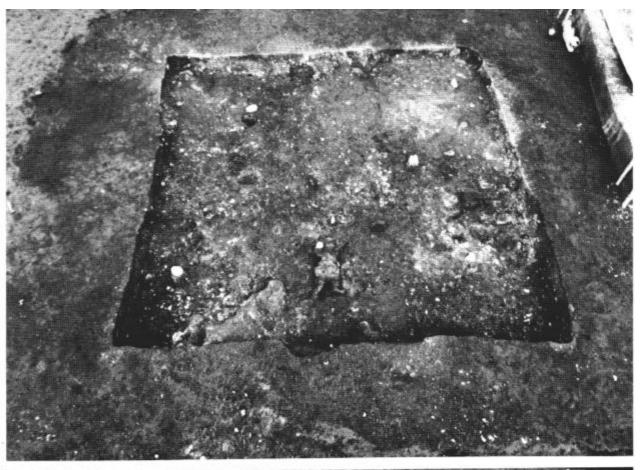


図版 3 (上) Ⅰ区近景 (西▶東) (下) Ⅱ区近景 (東▶西)



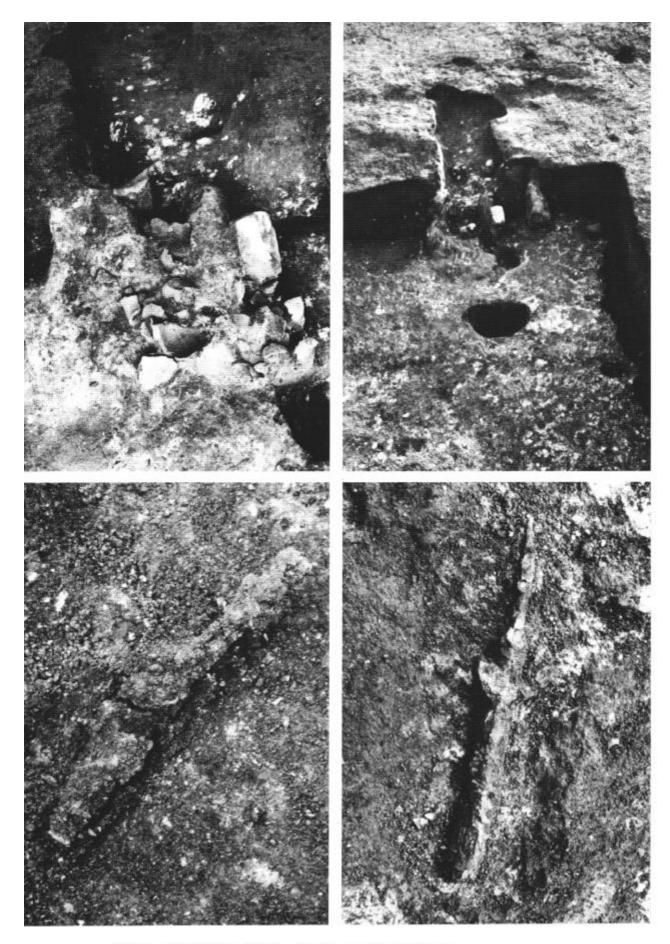


図版 4 (上) I 区機械排土状況 (北東▶南西) (下) I 区土層状態 (西▶東)



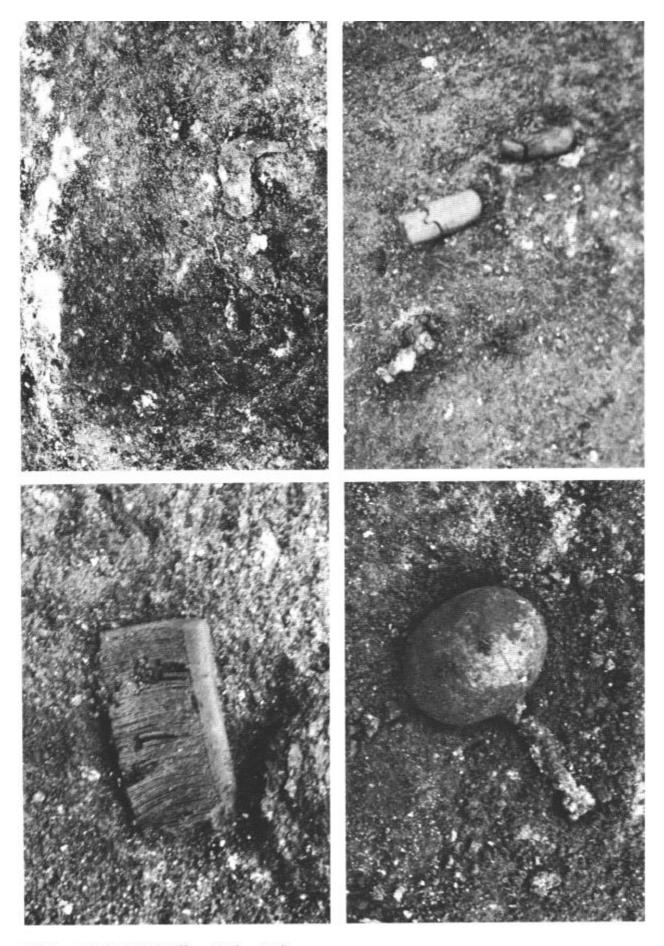


図版 5 S I 001竪穴住居跡 (上) 完据状態 (南▶北) (下) S D 006付属溝 (西▶東)



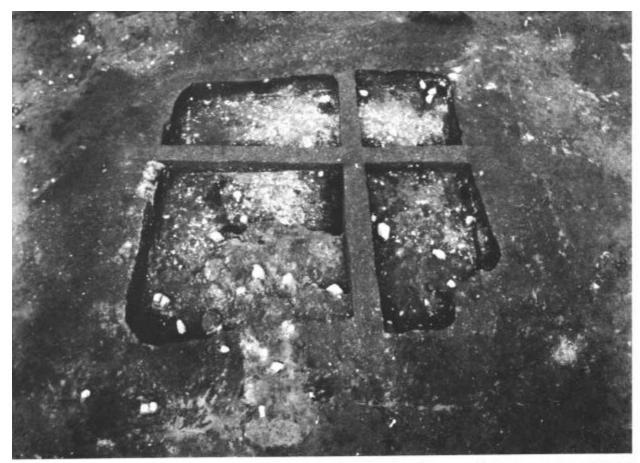
図版 6 S I 001竪穴住居跡

カマド内土器出土状態 カマド完媚状態 (北▶南) RM1 RM2



図版7 SI001竪穴住居跡

左上) RM2 右上) RW2 左下) RW1 右下) RX1





図版8 S 1 002竪穴住居跡 (上) 発掘中 (南▶北) (北▶南)





図版 9 (上) S I 002竪穴住居跡カマド (北▶南) (下) S I 003竪穴住居跡 (南▶北)



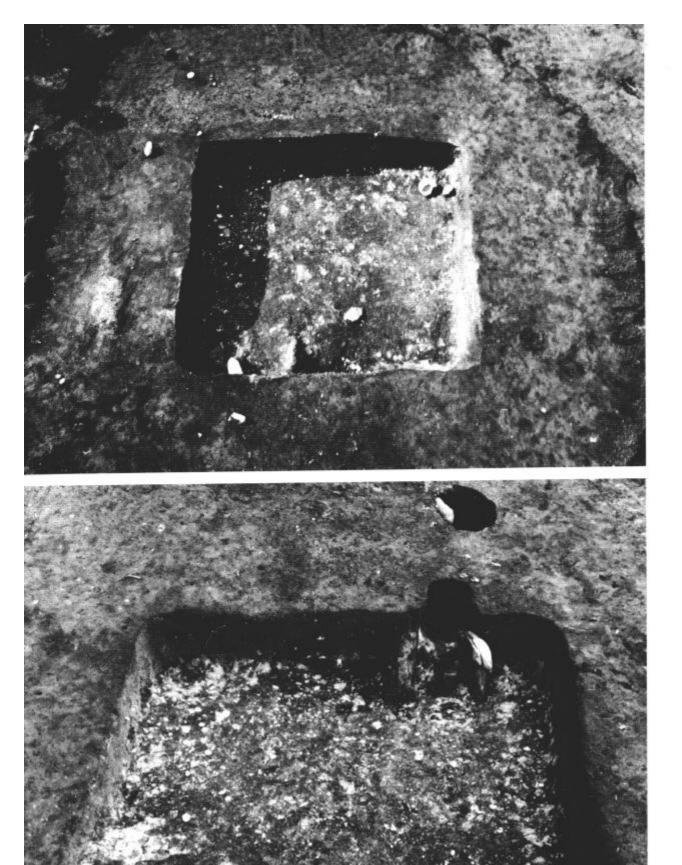


図版10 SI003竪穴住居跡 (上) 完振状態 (南▶北) (下) SD004付属溝 (西▶東)



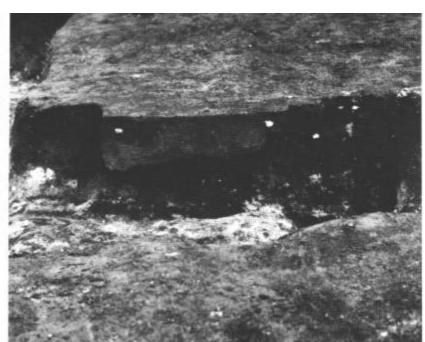
図版11 SI 003竪穴住居跡カマド

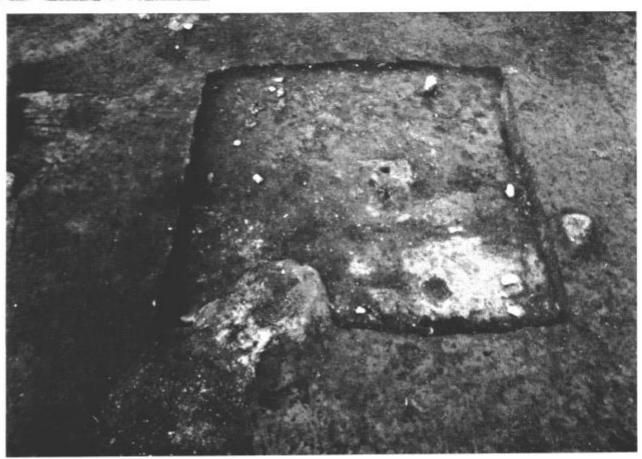
左上) 発掘中 (北▶南) 右上) 完掘状態 (南▶北) 左下) 土器出土出態 右下) 土器出土状態



図版12 SI 008竪穴住居跡 (上) 発掘中 (東▶西) (東▶西) 完揚状態 (西▶東)







図版13 (上) S I 008竪穴住居跡カマド 左 (西▶東) 右 (南▶北) (下) S I 009竪穴住居跡 (南▶北)





図版14 S I 009竪穴住居跡 S D 005付属溝 (上) 完擬状態 (南▶北) (下) 清內遺物出土状態







図版15 (上)

(中)

S I 009竪穴住居跡 カマド (北▶南) S D 005付属溝断面 (北▶南) S D 005、006付属溝 断面 (南▶北) (下)





図版16 SI 012竪穴住居跡 (上) 炭化材出土状態 (北▶南) (北▶南)

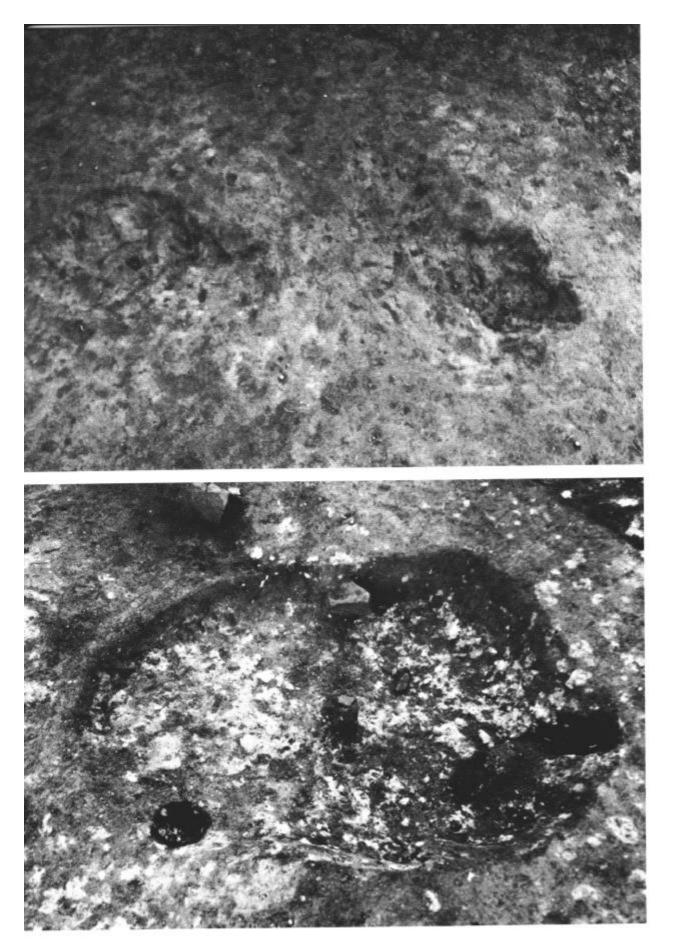




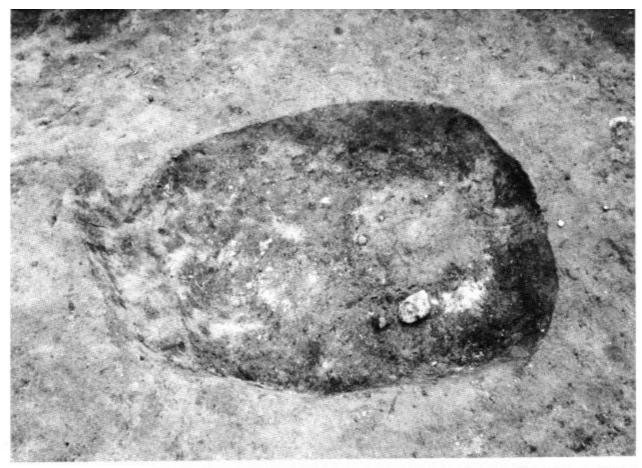


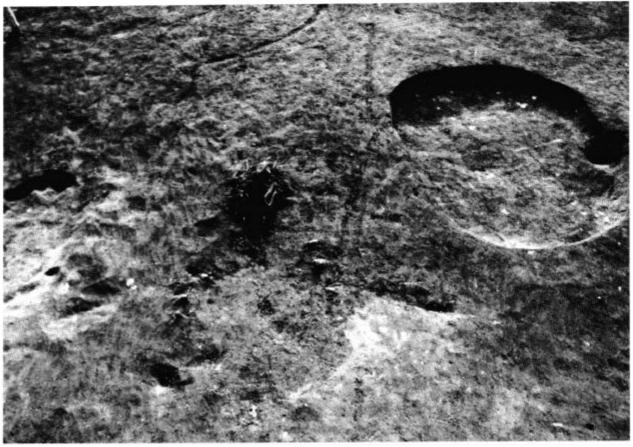
図版17 SI 012竪穴住居跡

(上) 完堀状態 (北▶南)(左下) カマド発掘中 (北▶南)(右下) カマド発掘後 (北▶南)

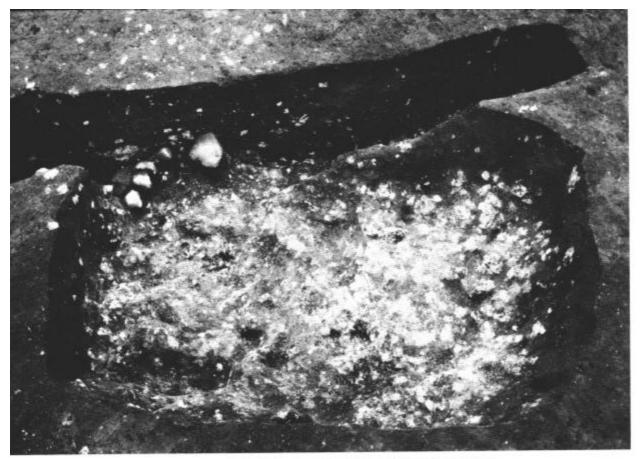


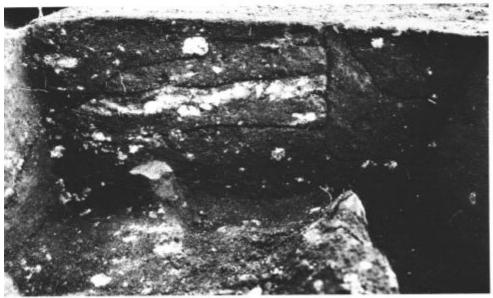
図版18 (上) SK 016、017土壙 (北▶南) (下) SK 021土壙 (北西▶南東)





図版19 (上) SK 024土壙 (北▶南) (下) SK 025、026土壙 (北▶南)



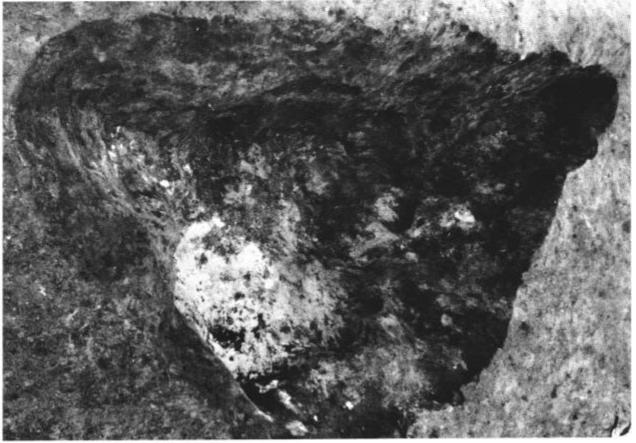




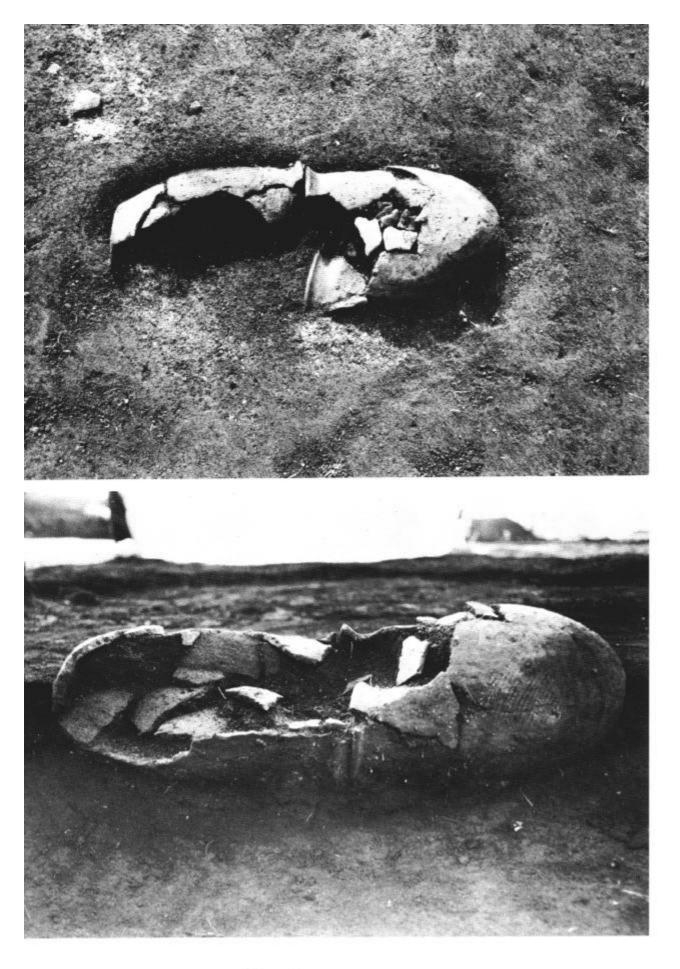
図版20 SK 027土壙 (上) 完振状

- (中) 断面 (南▶北)

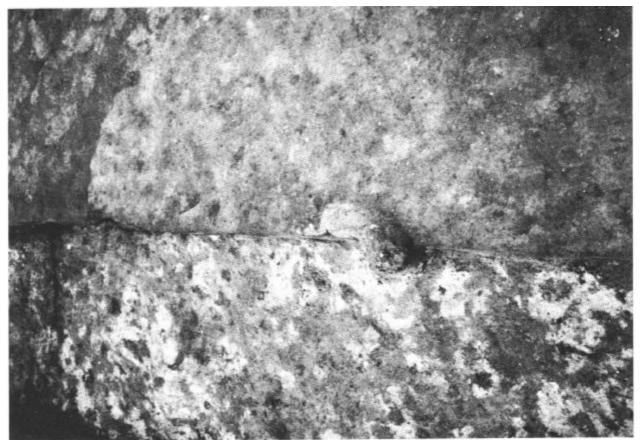




図版21 (上) S K 029、030土壙 (北▶南) (下) S K 032土壙 (北▶南)



図版22 SX011合口養棺 (上) 確認面 半載状態

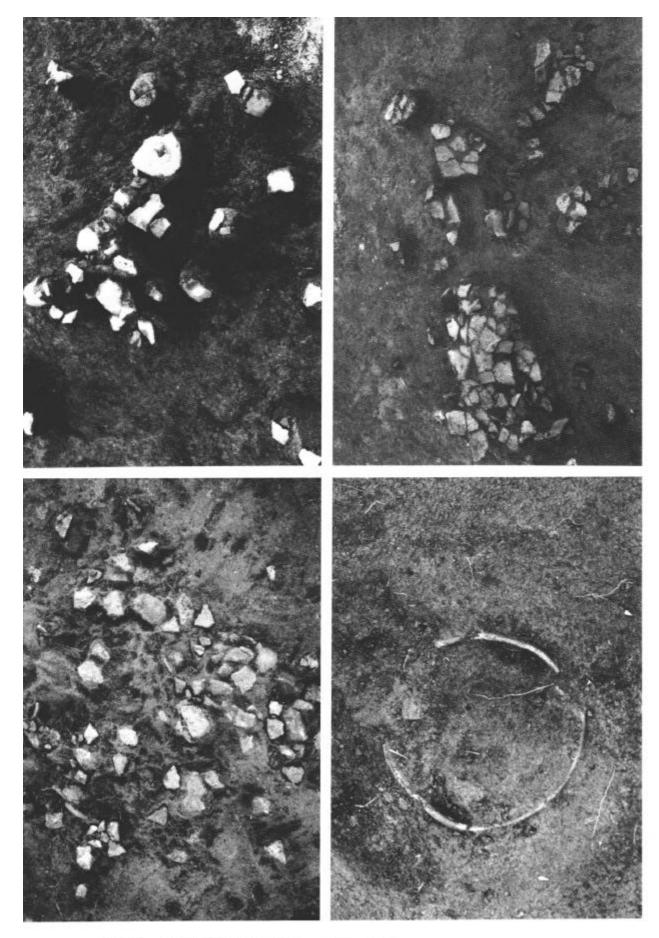




図版23 (上) S X F 035焼土遺構 (南▶北)

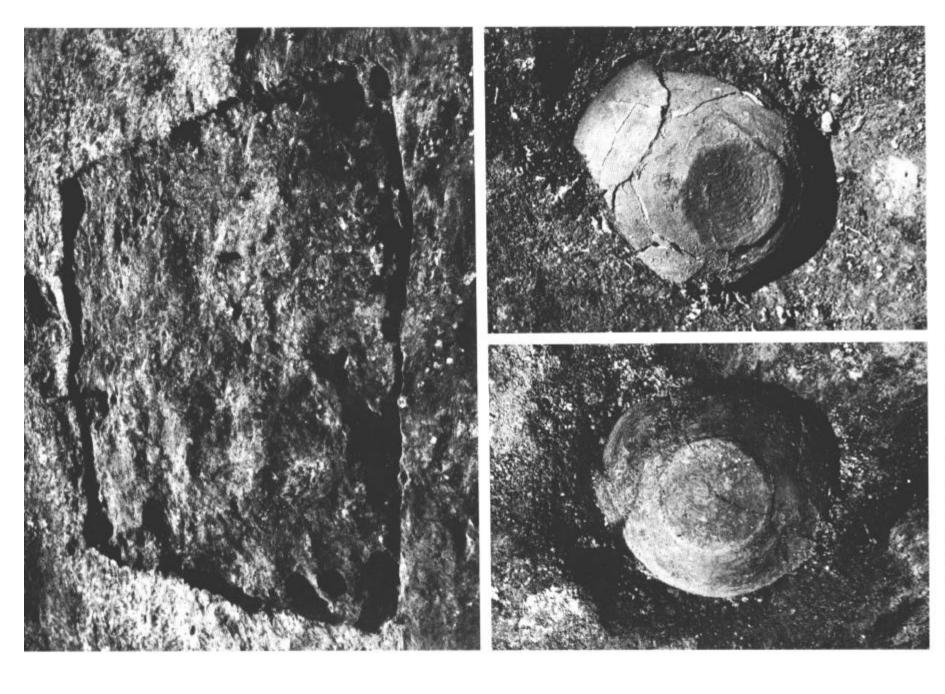
(下) SD 015溝跡

(北▶南)



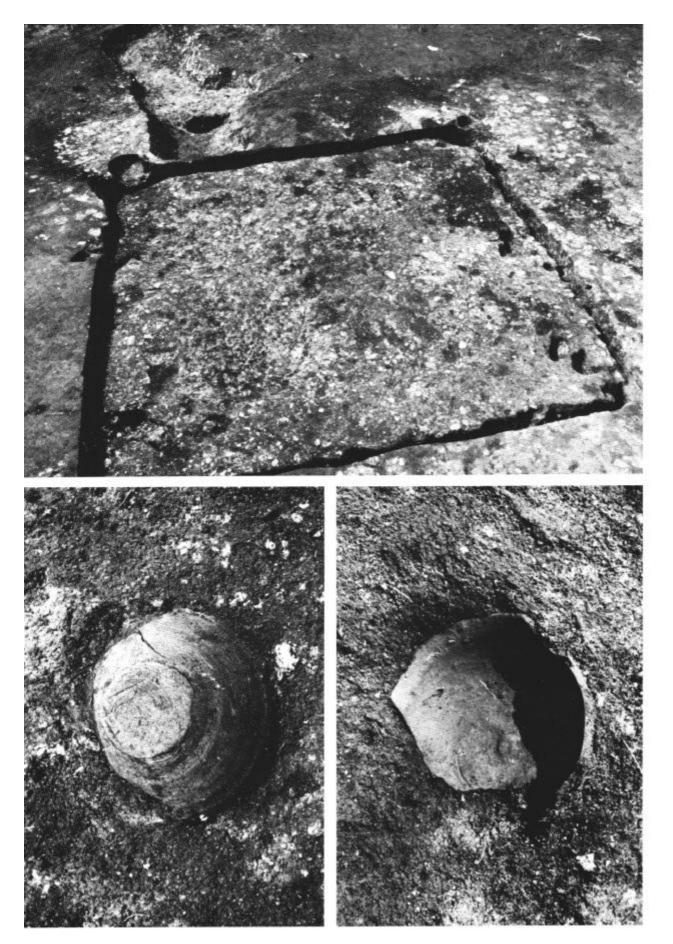
図版24 I区遺構外遺物出土状態

(左上) 6— (右上) 13— (左下) 14— (右下) 15—

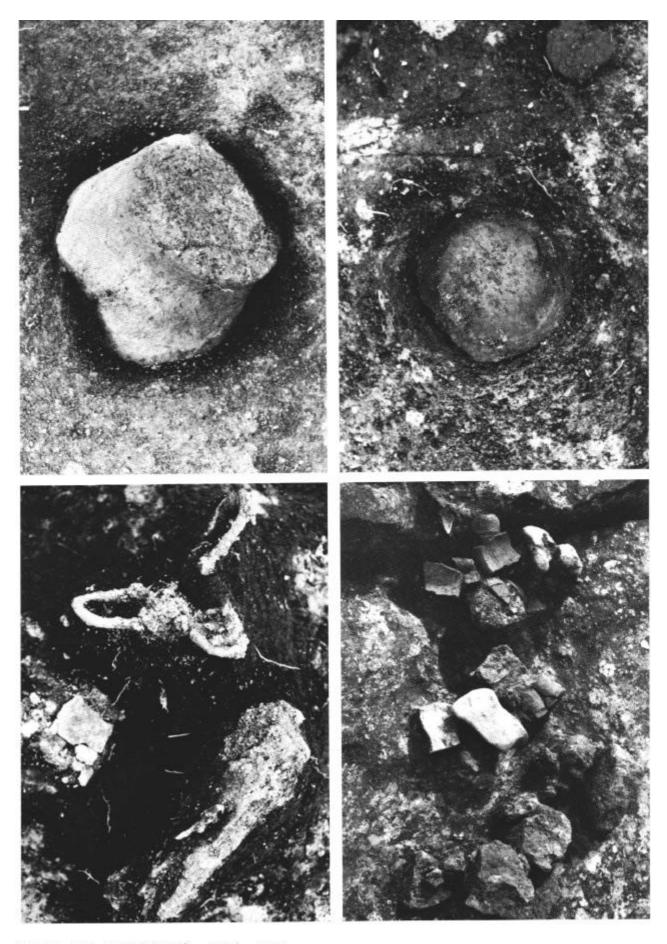


図版25 S I 101竪穴住居跡 《

2) 光描状験 EFF RP 1 SFF RP 2



図版26 S I 102竪穴住居跡 (上) 完縄状態 (東▶西) (左下) R P 1 (右下) R P 2



図版27 SI102竪穴住居跡

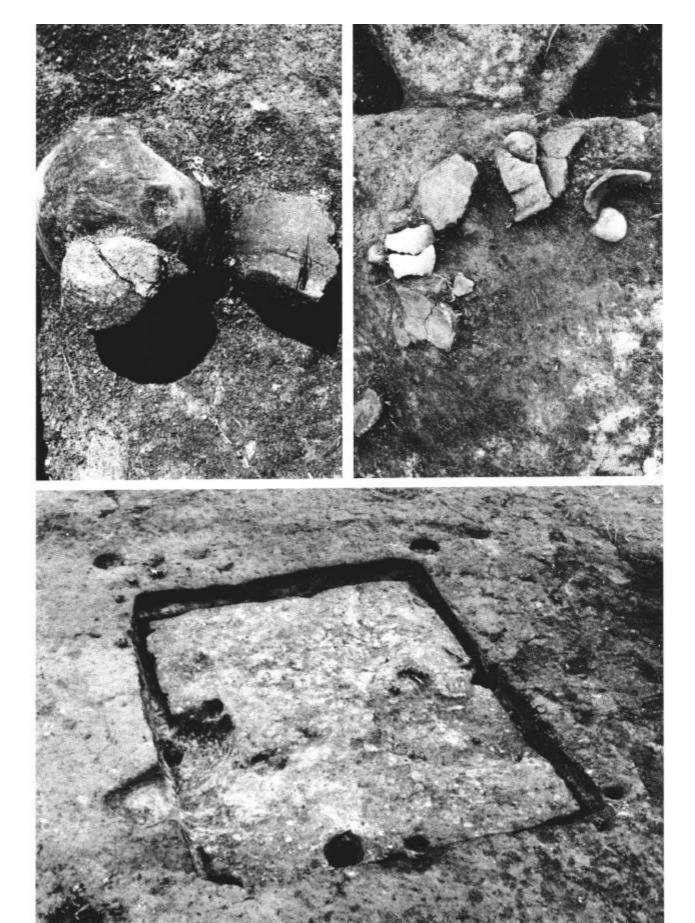
左上) RP 3 右上) RP 4 左下) RM 1, 2, 3 右下) 土器出土状態

図版28 S I 103竪穴住居跡

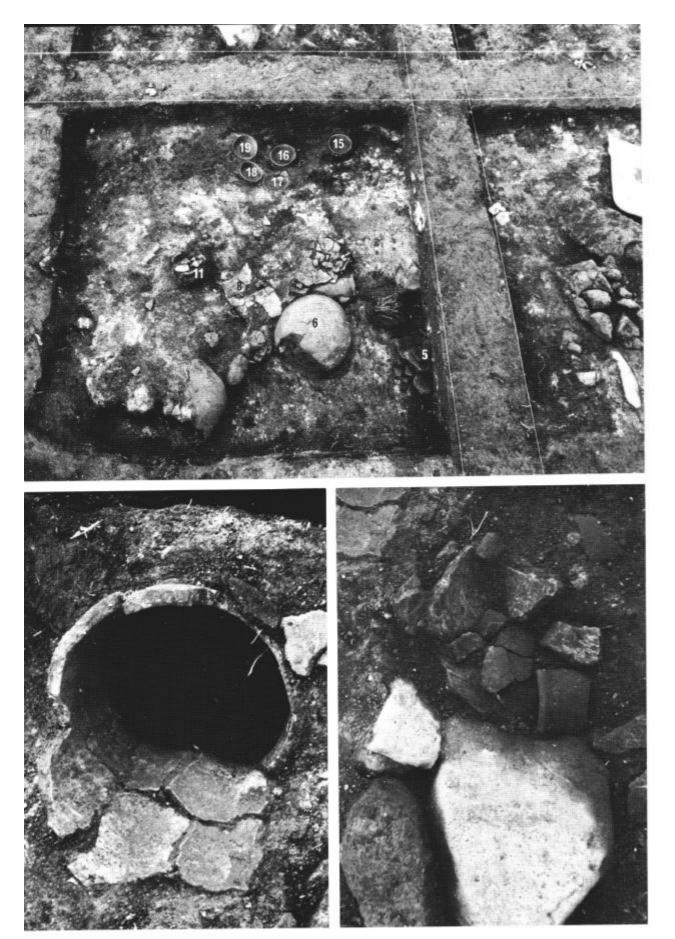
世界庁

RRR P 学 美

2 - 8

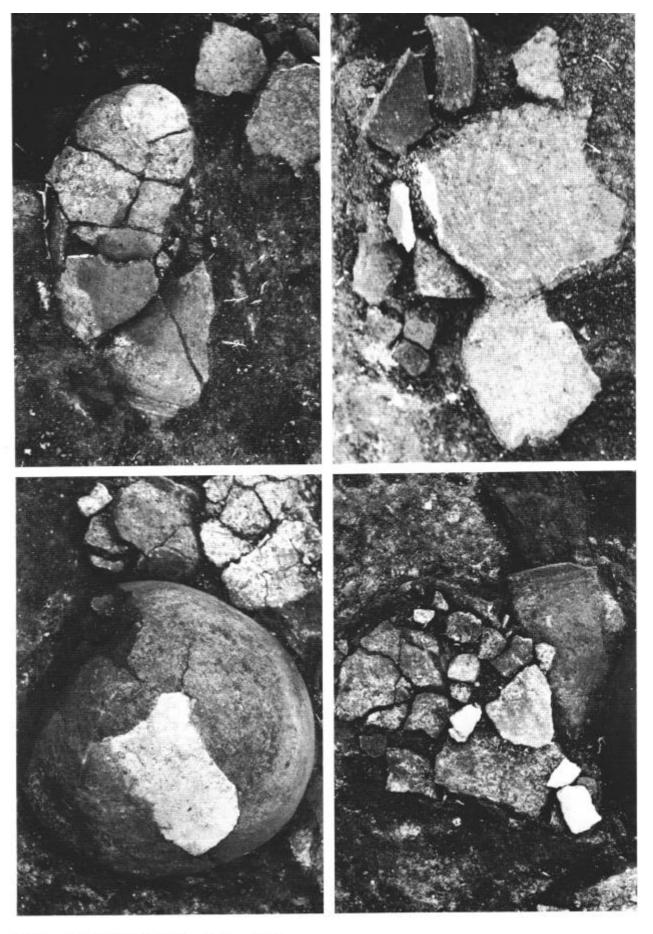


図版29 (上) S I 103竪穴住居跡 (左) RP 3 (右) RP 5 (下) S I 104竪穴住居跡 (東▶西)



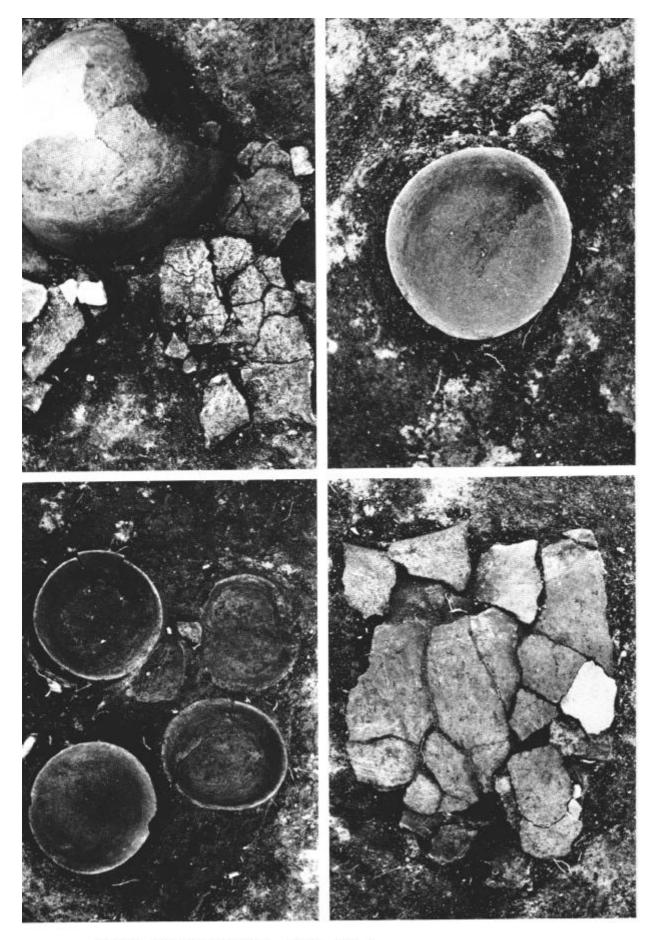
図版30 S I 104竪穴住居跡

(上) 遺物出土状態 数字はRP番号 (左下) RP 1 (右下) RP 2



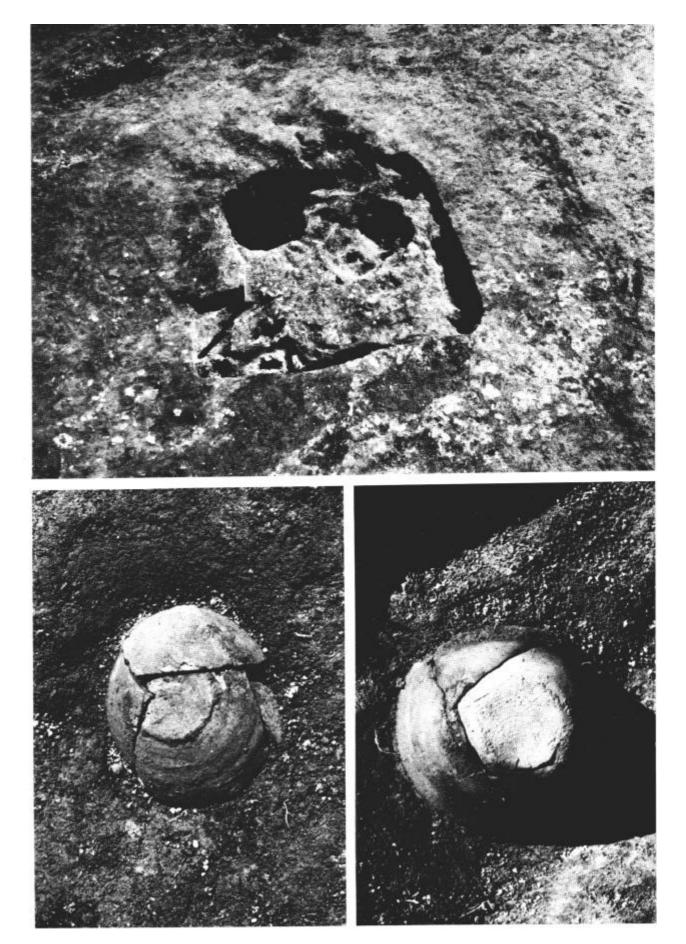
図版31 S I 104竪穴住居跡 (左 右 方

左上) RP 4 右上) RP 5 左下) RP 6 右下) RP 7



図版32 S I 104竪穴住居跡

左上) RP 8 右上) RP 15 左下) RP 16, 17, 18, 19 右下) RP 20



図版33 S I 106竪穴住居跡 (上) 完媚後 (北▶南) (左下) RP I (右下) RP 2

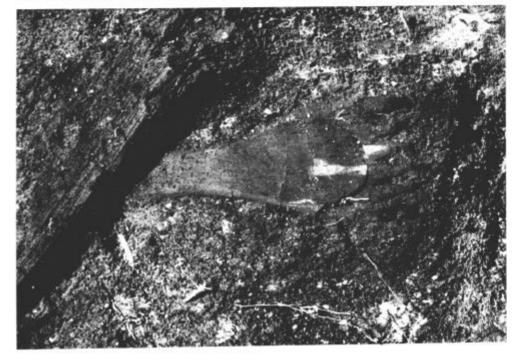


S | 107竪穴住居跡 $\widehat{\mathcal{H}}$ 聚化物出土状態 (東▼西) 完据後 (東▼西)

図版34







図版35 S I 107竪穴住居跡 (上) RP I (中) RP 2 (下) RW I







図版36 SI108竪穴住居跡

完据後 (西▶東 RP 1 RP 2





図版37 S I 112竪穴住居跡 (上) 炭化物出土状態 (西▶東) (下) 完組状態 (西▶東)







図版38 S I 112竪穴住居跡

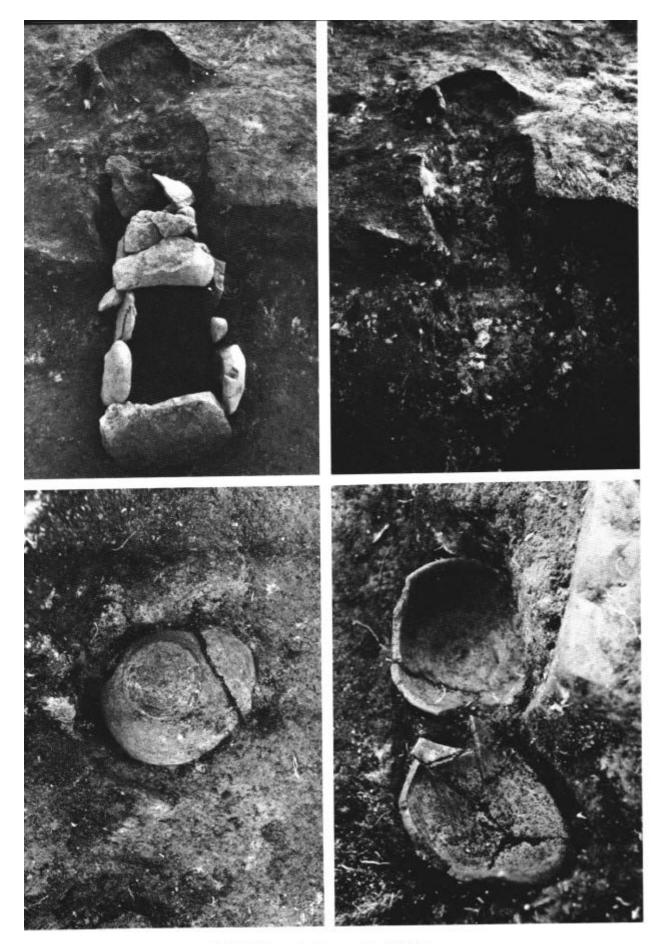
(左上) 第1カ (右上) 第2カ (下) RP

ド (北▶南) ド (北▶南)



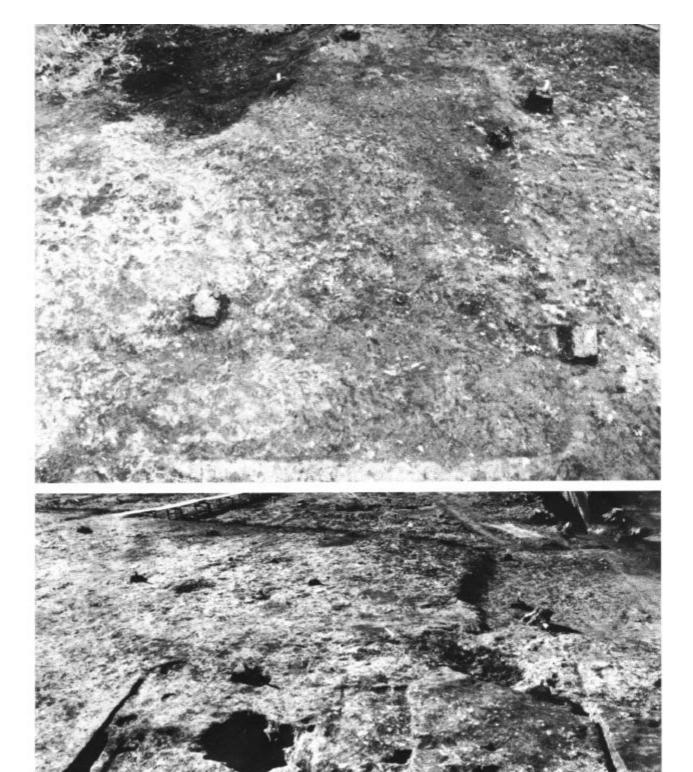


図版39 S I 113竪穴住居跡 〈上〉 炭化物出土状態 (南▶北) 完振状態 (北▶南)

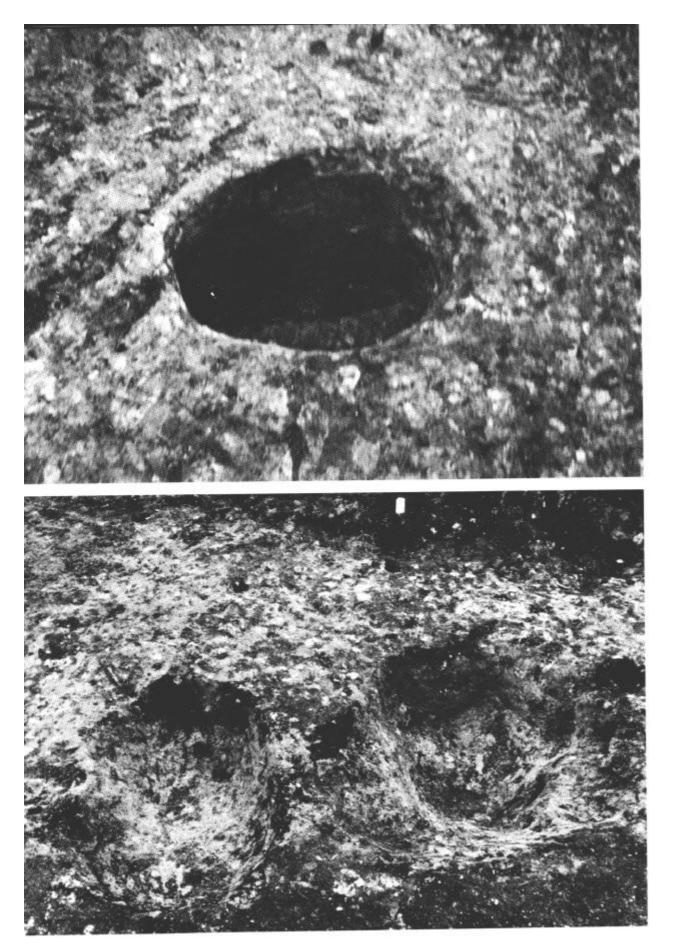


図版40 SI113竪穴住居跡

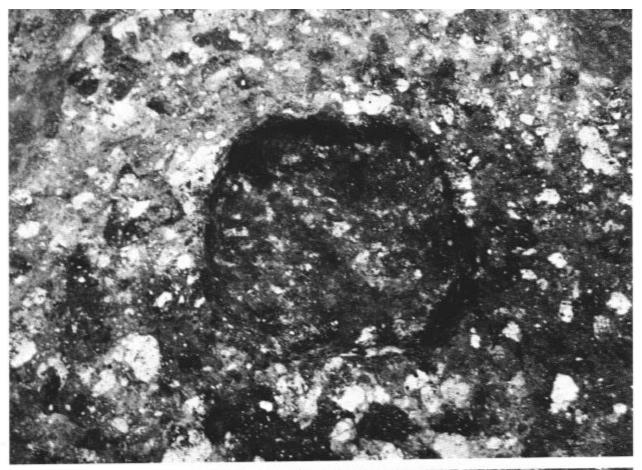
(上) カマド (北▶南) :上) カマド完振状態 (北▶南) :下) RP 1 下) RP 62, 63



図版41 SI 117, 117′竪穴住居跡 (上) 確認状態 (南▶≒



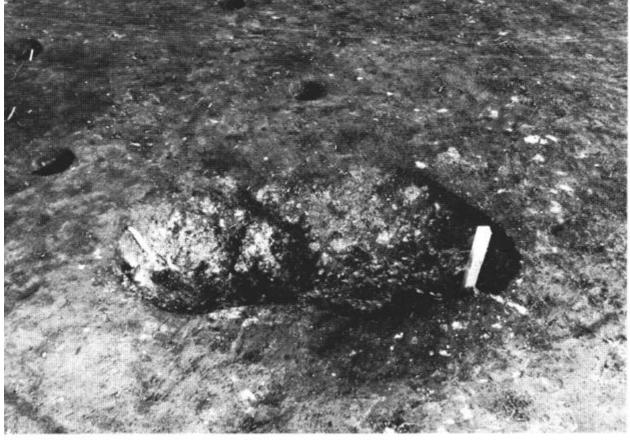
図版42 (上) SK 110土壙 (北東▶南西) (下) SK 114, 115土壙 (西▶東)



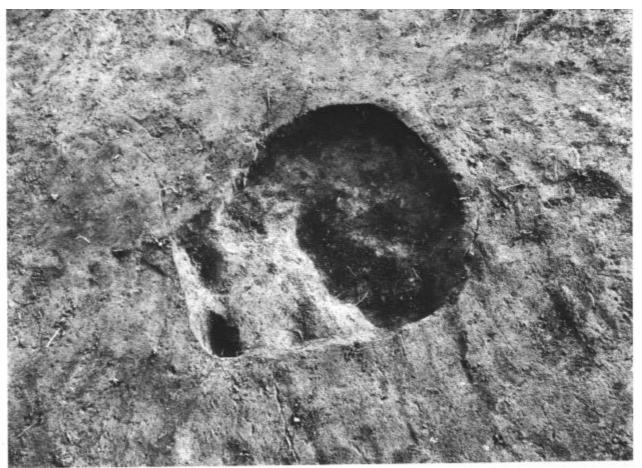


図版43 (上) SK 116土壙 (東▶西) (下) SK 119土壙 (西▶東)



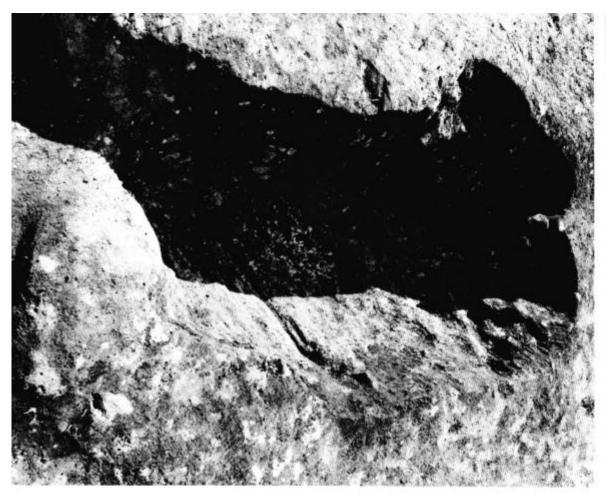


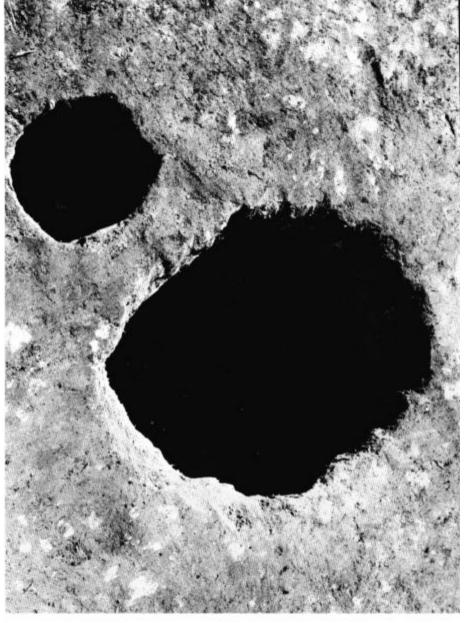
図版44 (上) SK 131土壙 (西▶東) (下) SK 132土壙 (西▶東)





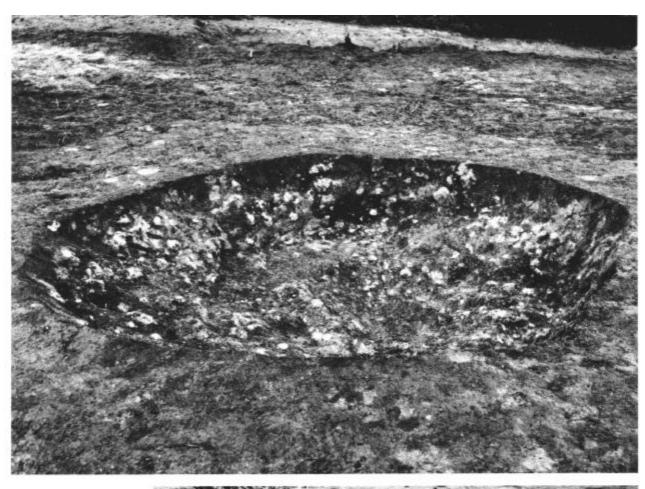
図版45 (上) S K 133土壙 (北▶南) S K 134土壙 (北▶南) (下)





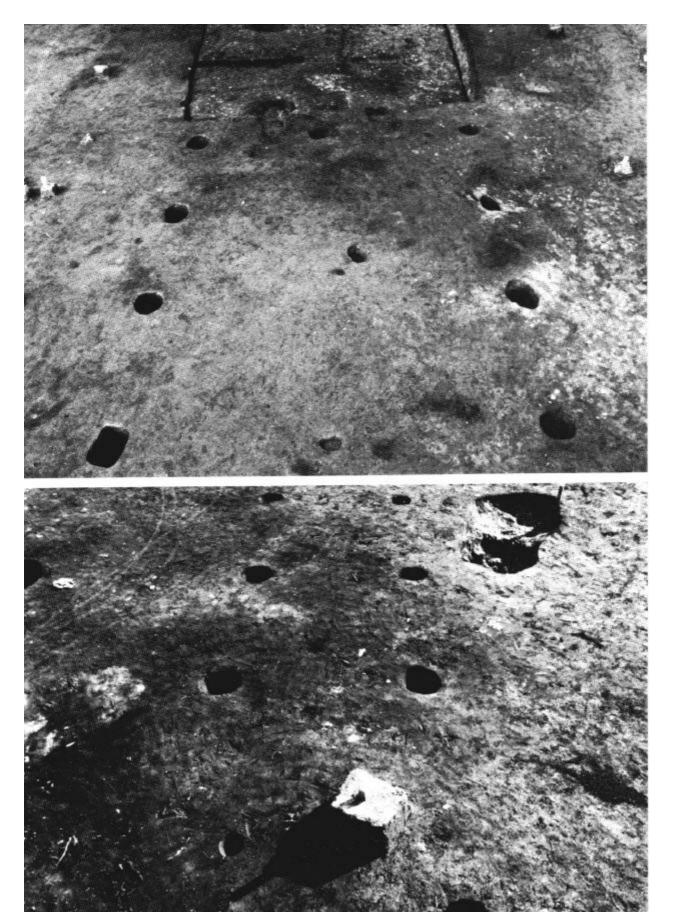
1707.4° (上) SK 140 土基 (卡) SK 141 土基 (下) SK 141 土基

THE RESIDENCE OF A STATE OF A STA

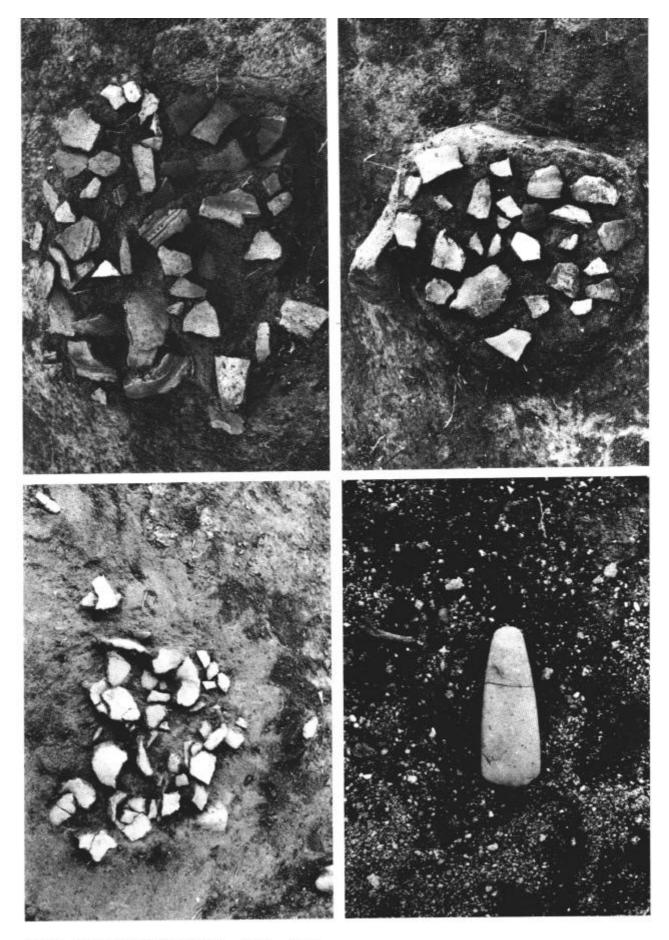




図版47 (上) SK147土壙 (南▶北) (下) II区ピット群 (北▶南)

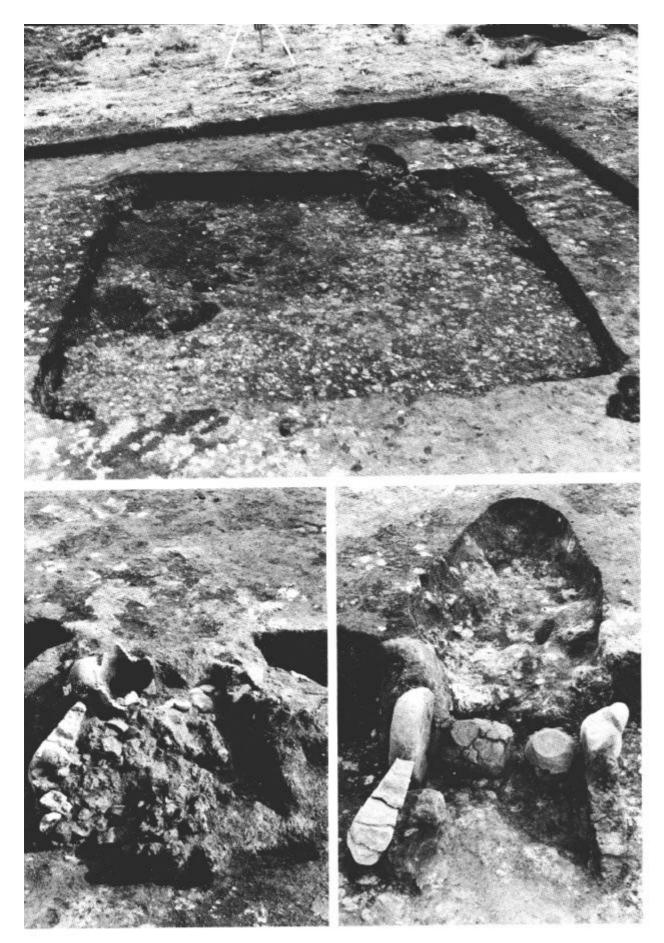


図版48 (上) SB 111掘立柱建物跡 (南▶北) (下) SB 136掘立柱建物跡 (北▶南)



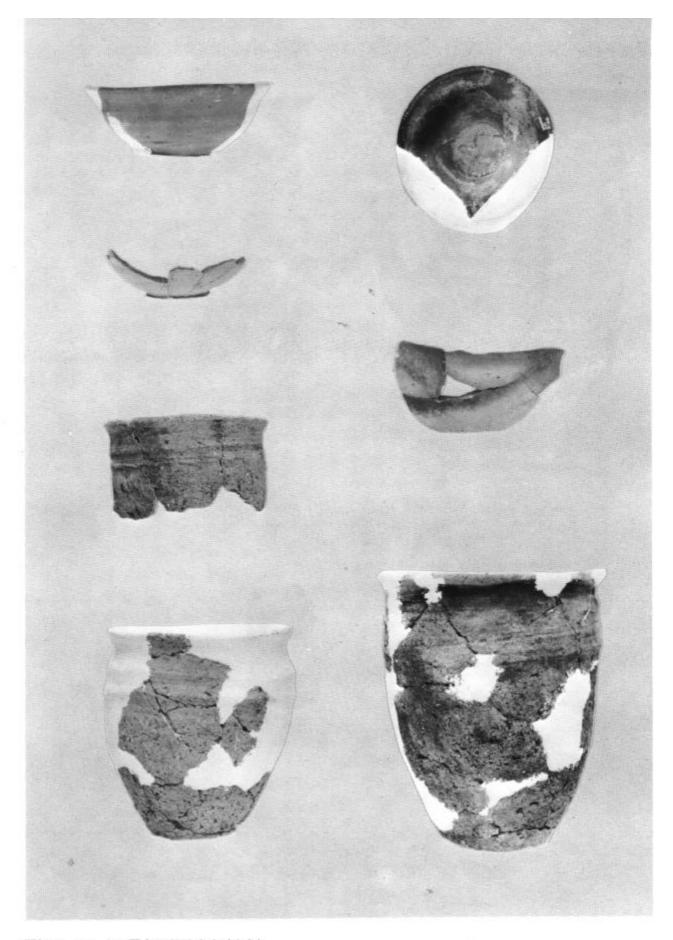
図版49 II区遺構外遺物出土状態

生上) 25— ち上) 27— 生下) 33— ち下) 石斧

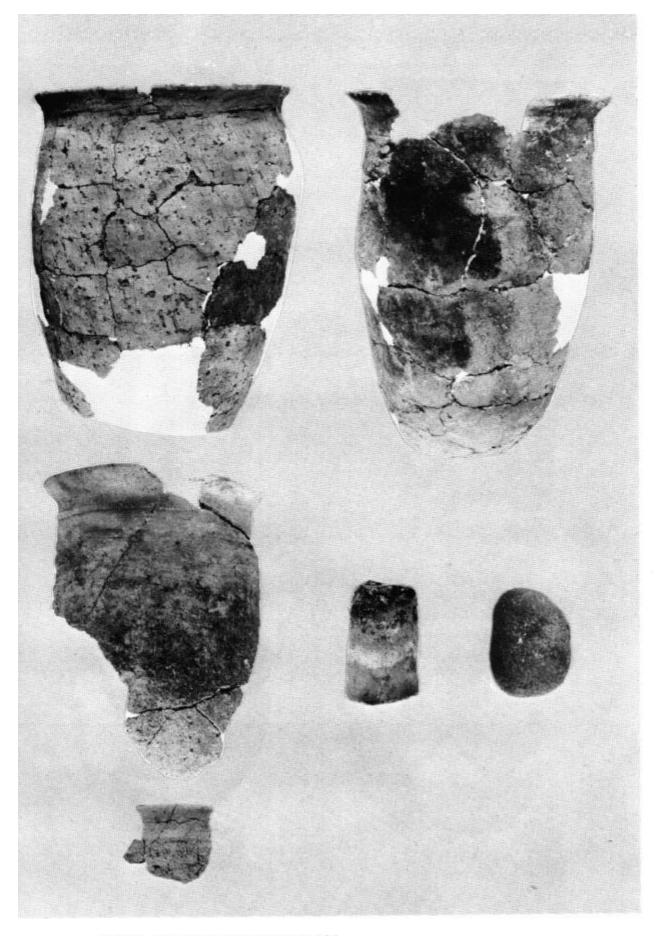


図版50 S I 301竪穴住居跡

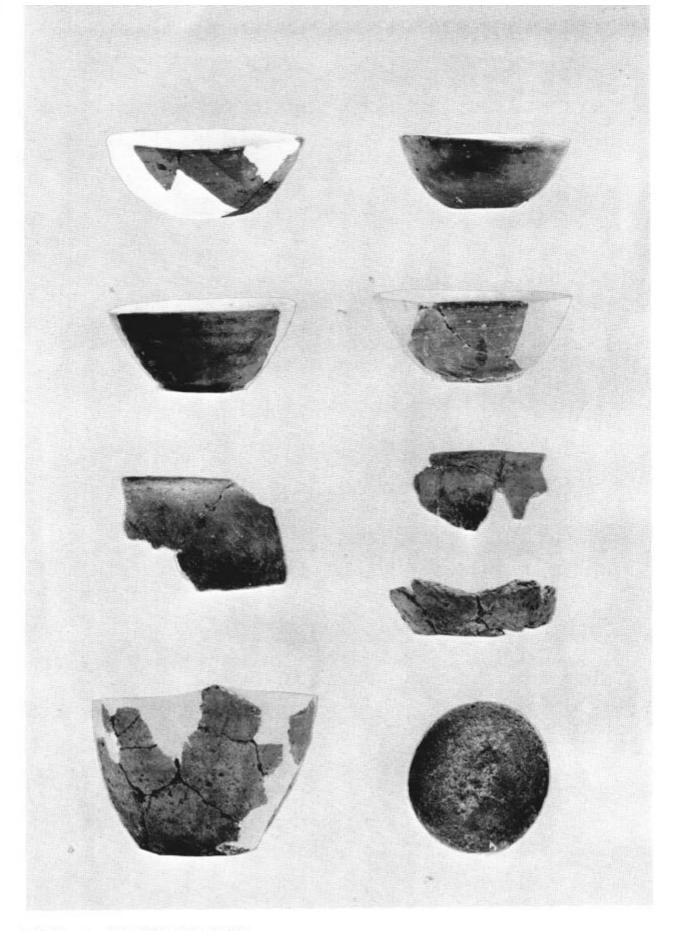
(上) 完据状態 (北▶南) (左下) カマド (北▶南) (右下) カマド内土器出土状態



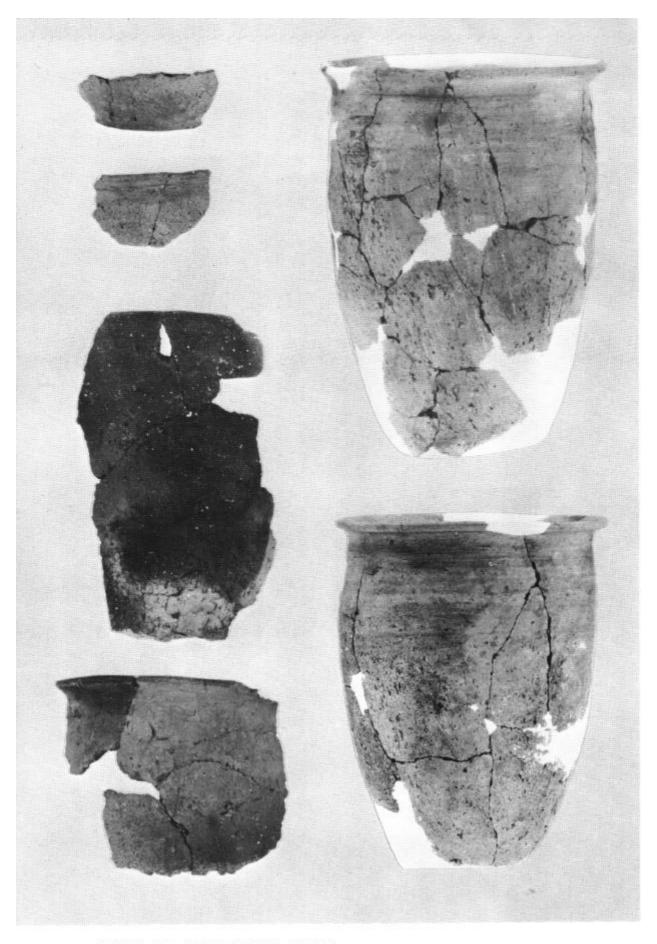
図版51 S I 001竪穴住居跡出土遺物(1)



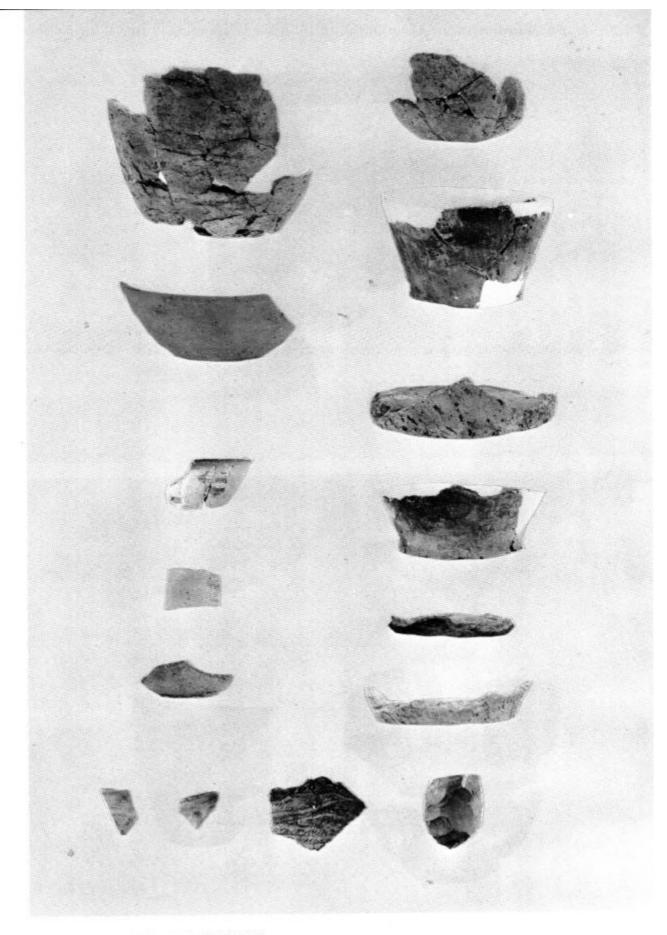
図版52 SI001竪穴住居跡出土遺物(2)



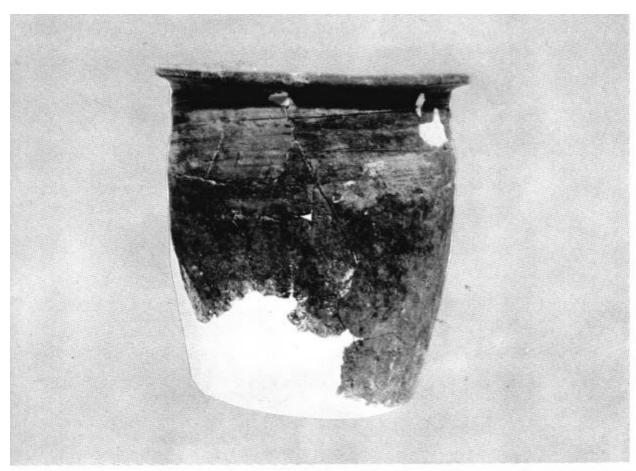
図版53 SI002竪穴住居跡出土遺物

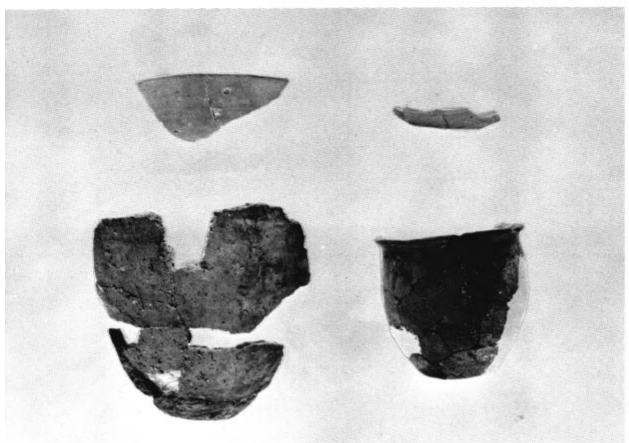


図版54 SI003竪穴住居跡出土遺物(1)

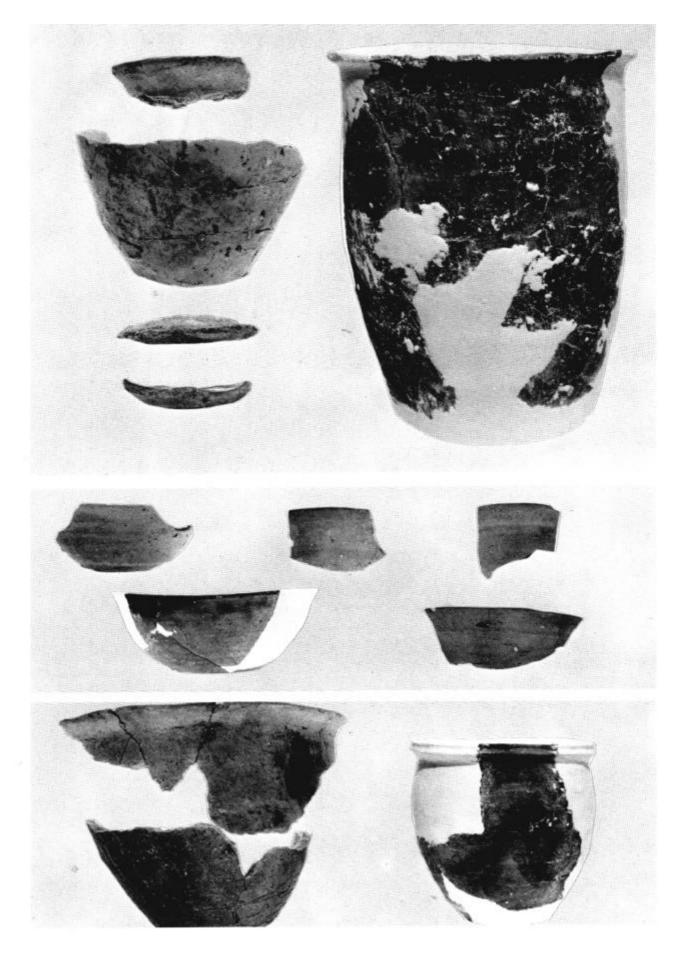


図版55 SI003竪穴住居跡出土遺物(2)

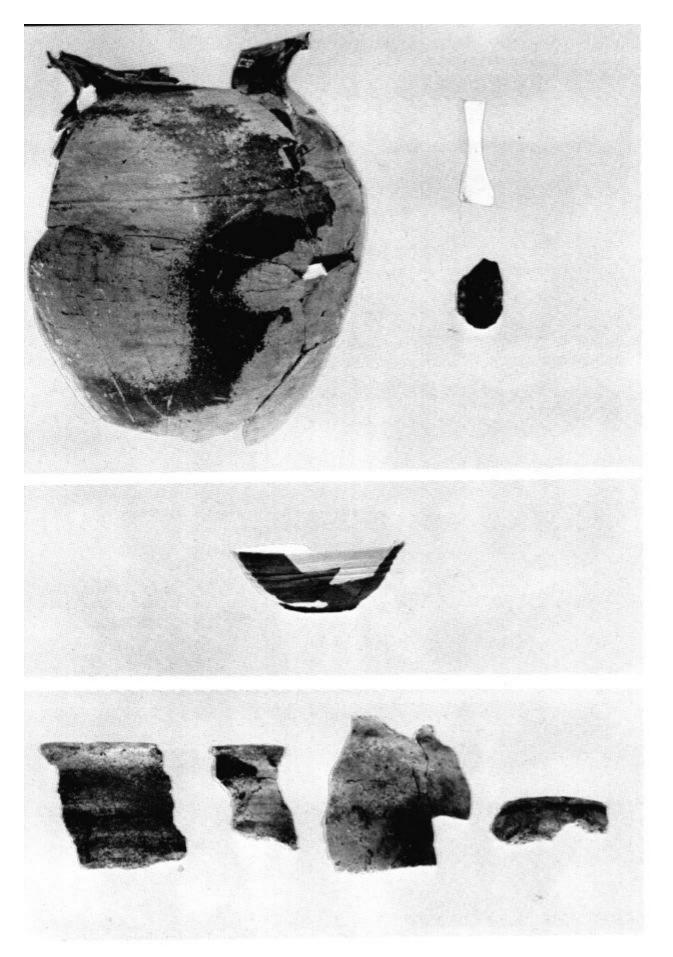




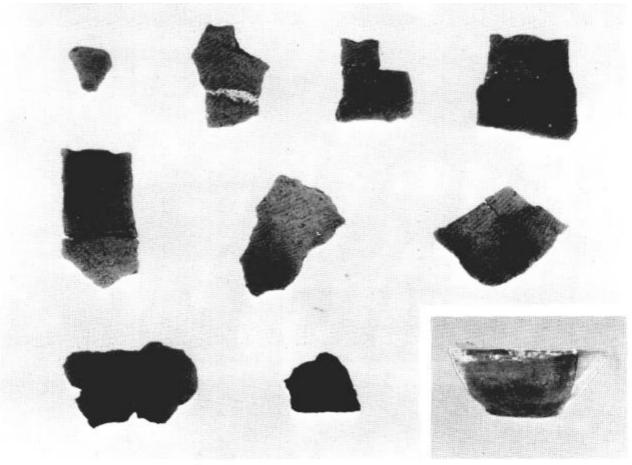
図版56 (上) SI 008竪穴住居跡出土遺物 (下) SI 009竪穴住居跡出土遺物



図版57 (上) SD 005溝状遺構出土遺物 (中) SI 012竪穴住居跡出土遺物(1) (下) SI 012竪穴住居跡出土遺物(2)

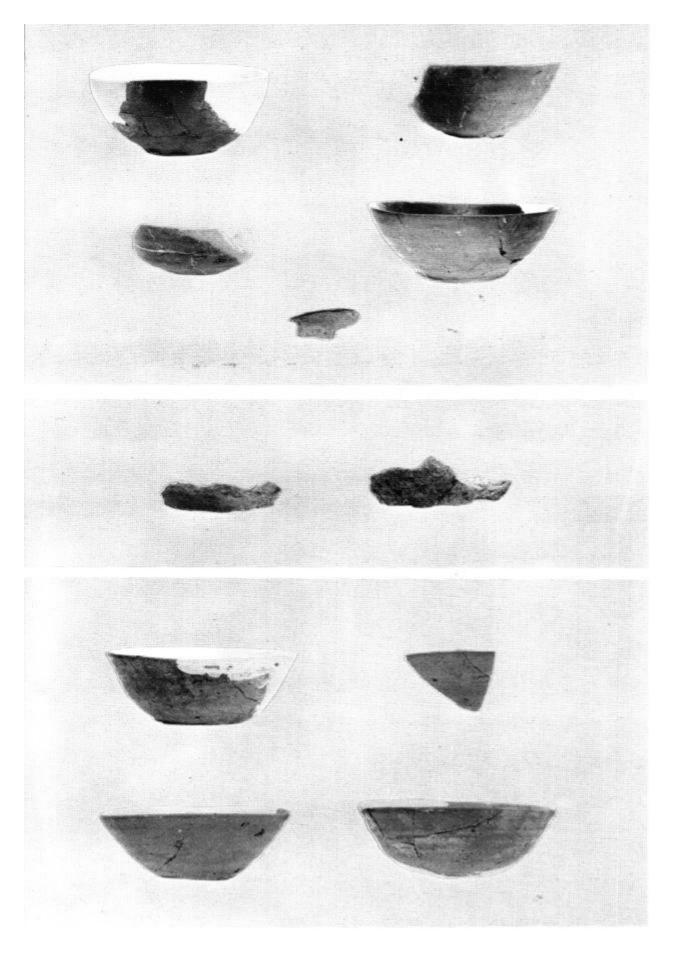


図版58 (上) SI 012竪穴住居跡出土遺物(3) (中) SI 018竪穴住居跡出土遺物 (下) SK 027土壙出土遺物

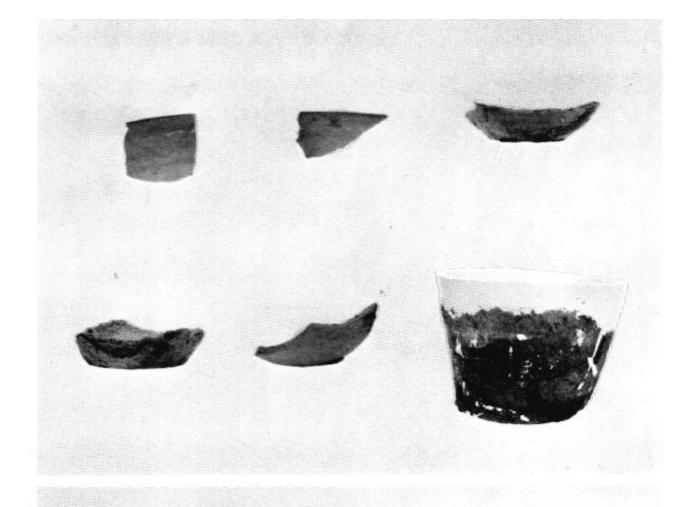


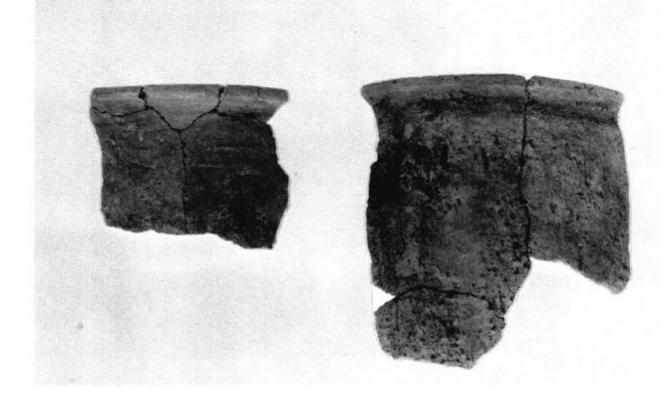


図版59 (上) S K 032土壙出土遺物 (右中) S K 033土壙出土遺物 (下) S X 011合口甕棺

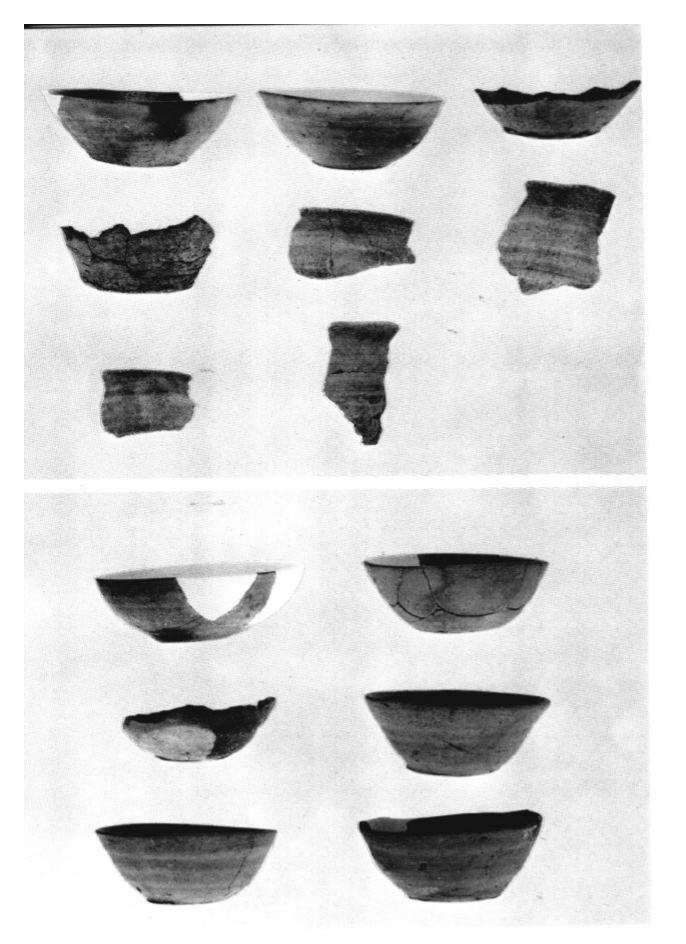


図版60 (上) SI 101竪穴住居跡出土遺物(1) (中) SI 101竪穴住居跡出土遺物(2) (下) SI 102竪穴住居跡出土遺物(1)

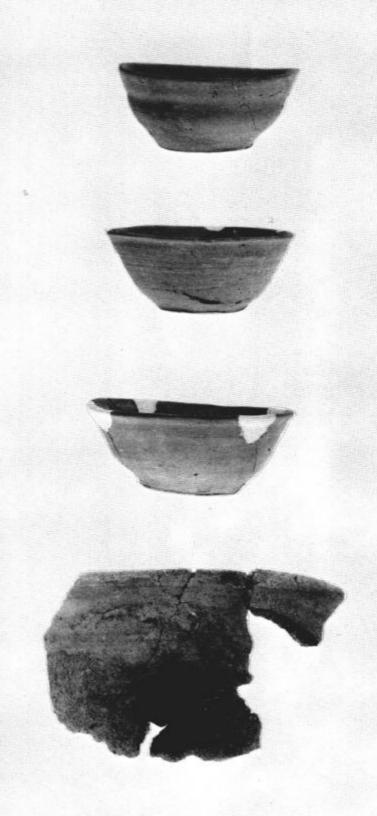




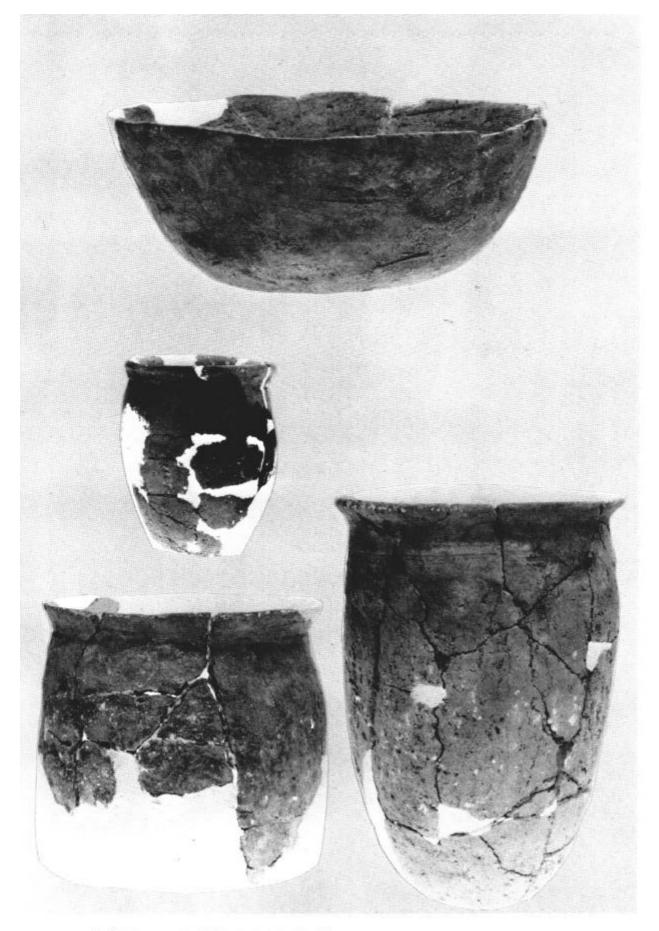
図版61 (上) SI 102竪穴住居跡出土遺物(2) (下) SI 102竪穴住居跡出土遺物(3)



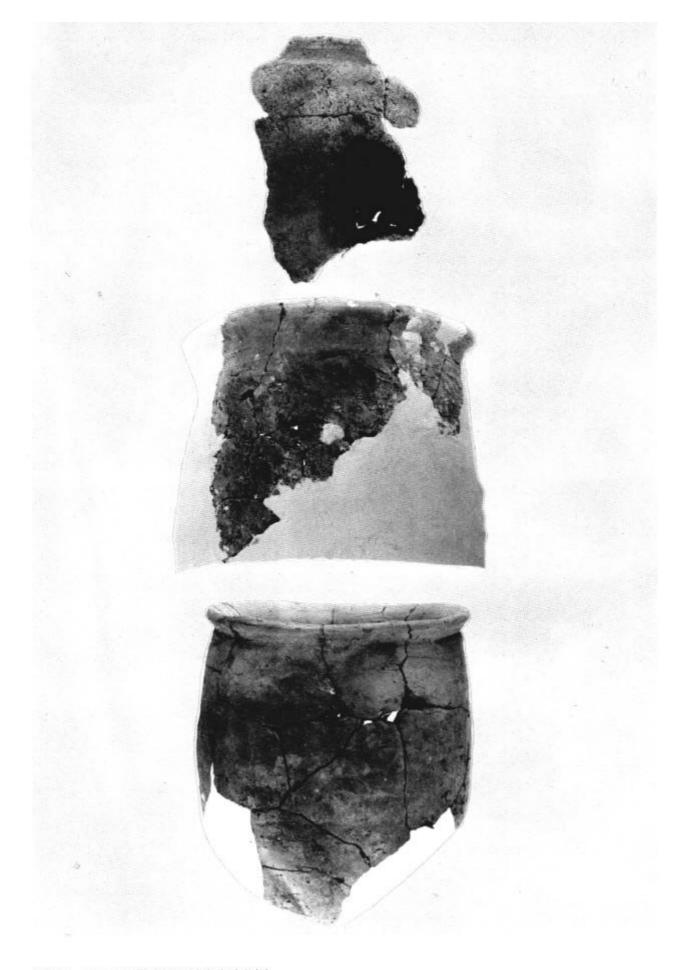
図版62 (上) SI 103竪穴住居跡出土遺物 (下) SI 104竪穴住居跡出土遺物(1)



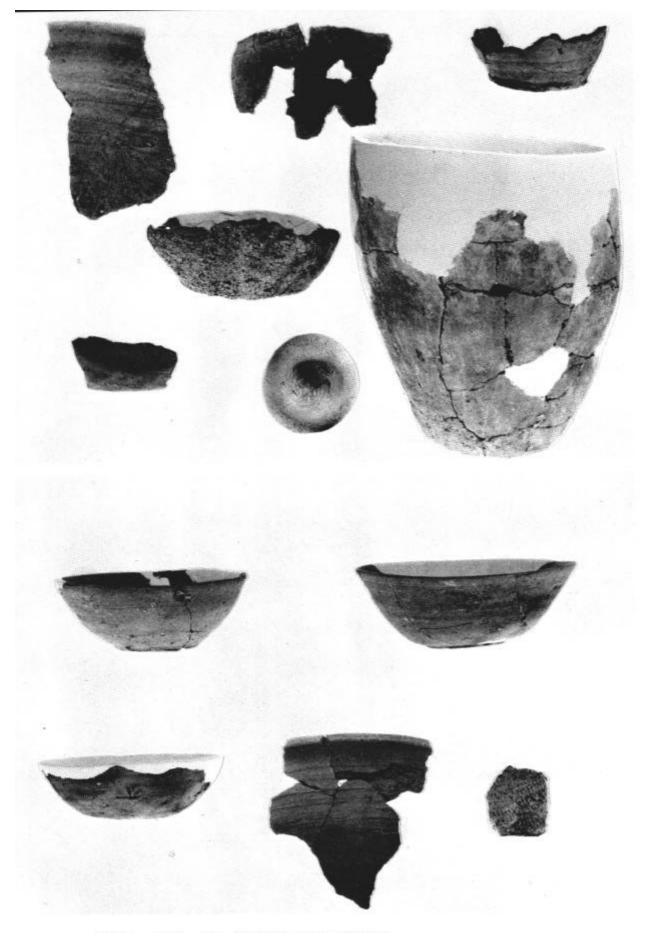
図版63 S I 104竪穴住居跡出土遺物(2)



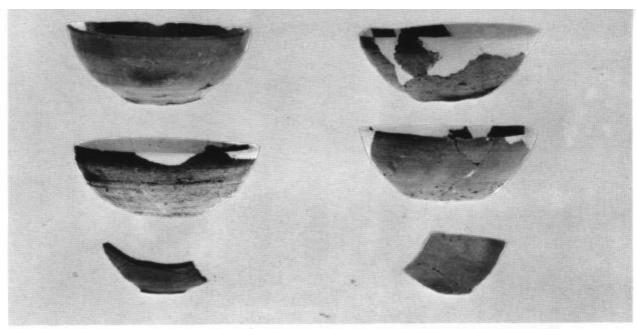
図版64 S I 104竪穴住居跡出土遺物(3)

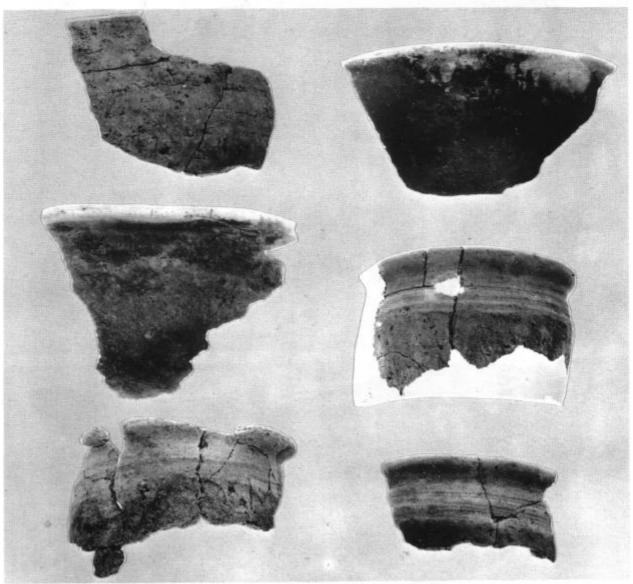


図版65 SI104竪穴住居跡出土遺物(4)

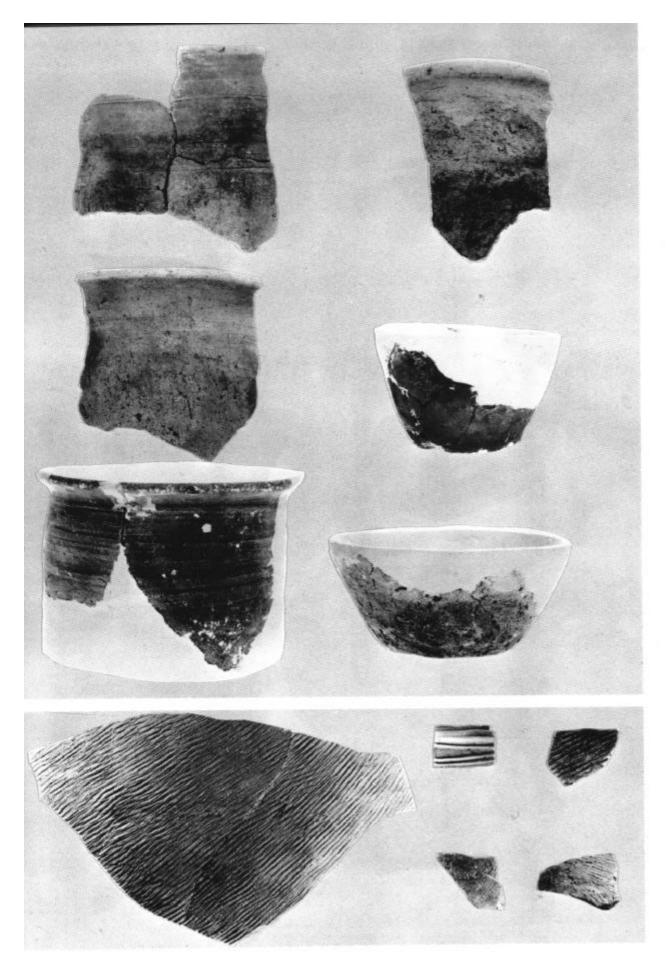


図版66 (上) SI 104竪穴住居跡出土遺物(5) (下) SI 106竪穴住居跡出土遺物

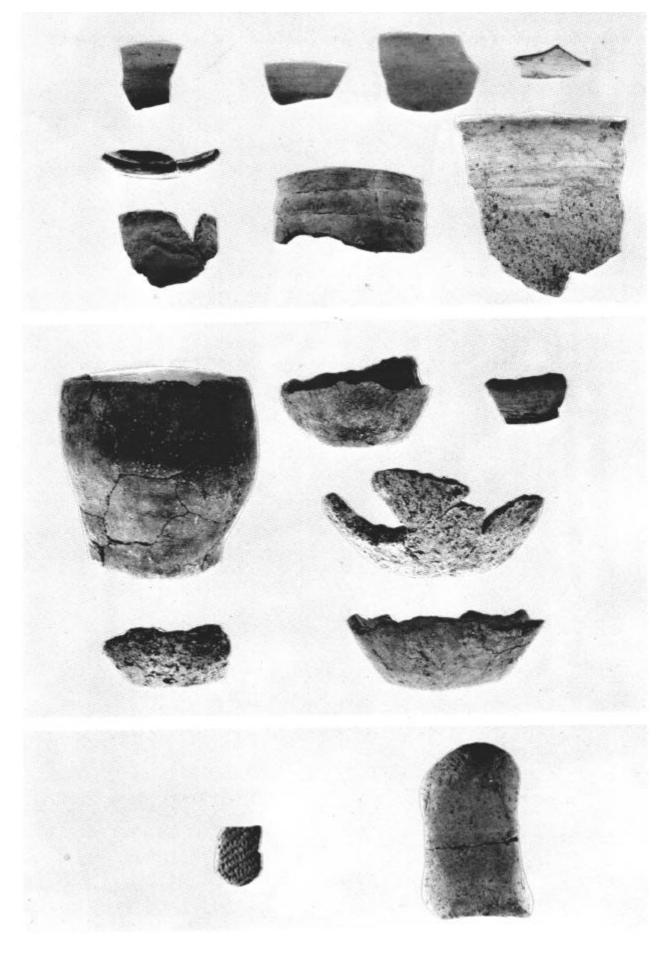




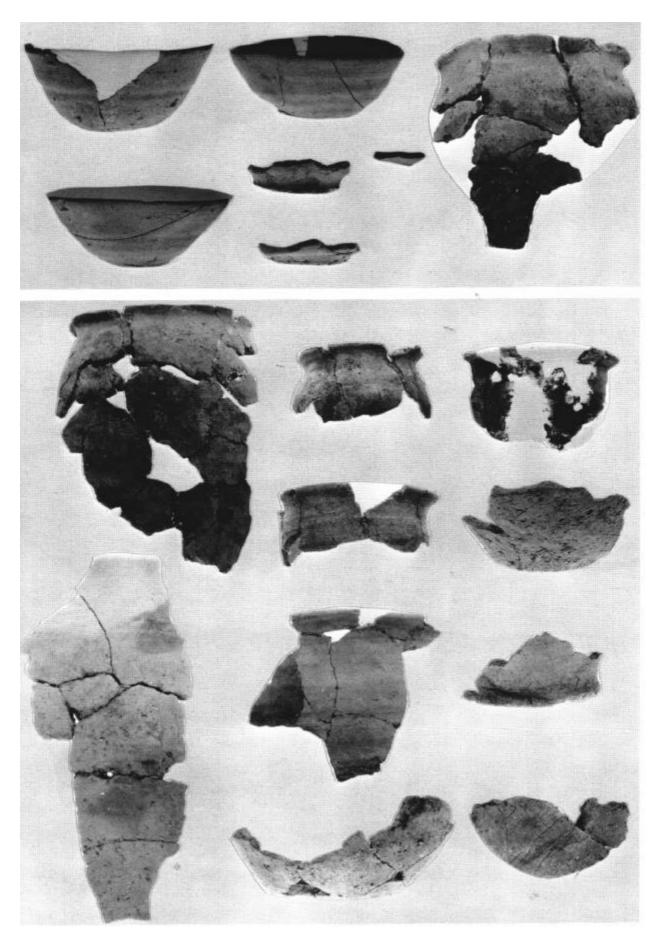
図版67 (上) SI 107竪穴住居跡出土遺物(1) (下) SI 107竪穴住居跡出土遺物(2)



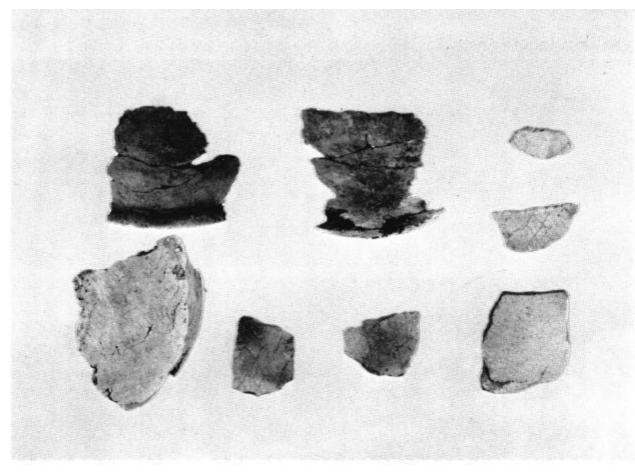
図版68 (上) SI 107竪穴住居跡出土遺物(3) (下) SI 107竪穴住居跡出土遺物(4)

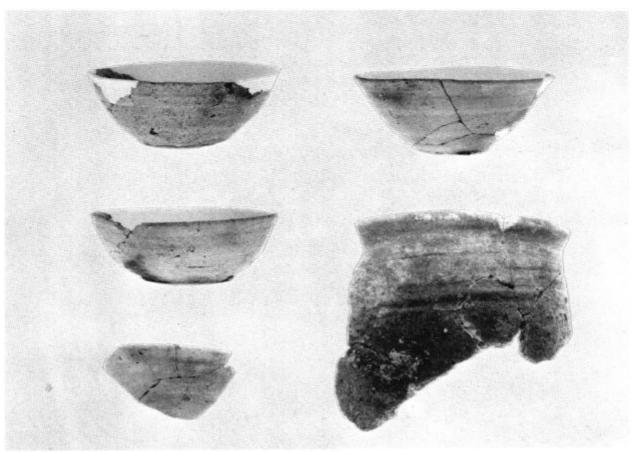


図版69 (上) S I 108竪穴住居跡出土遺物(1) (中) S I 108竪穴住居跡出土遺物(2) (下) S I 108竪穴住居跡出土遺物(3)

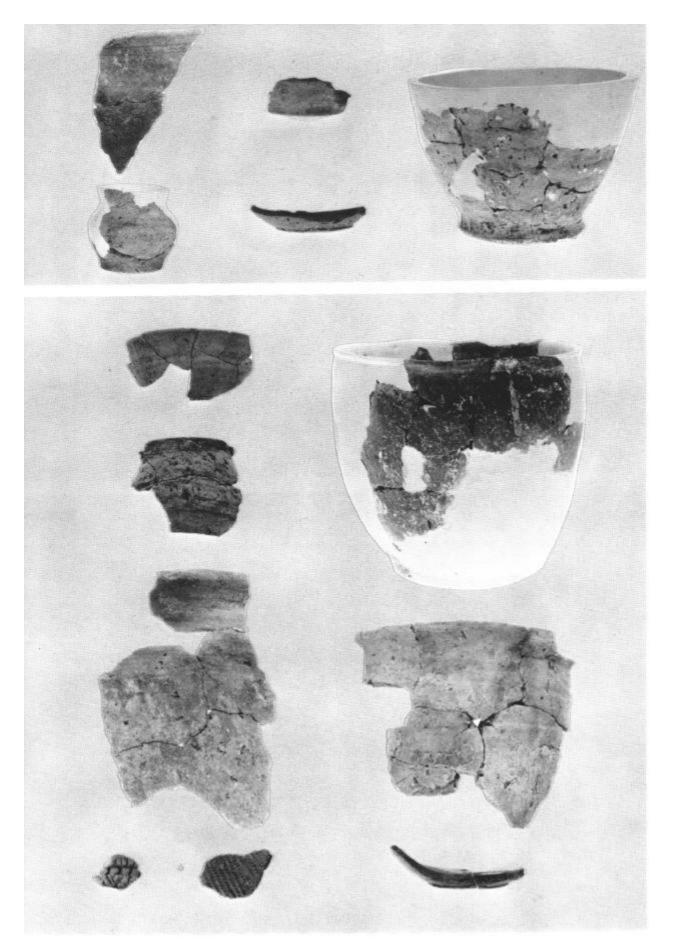


図版70 (上) SI 112竪穴住居跡出土遺物(1) (下) SI 112竪穴住居跡出土遺物(2)

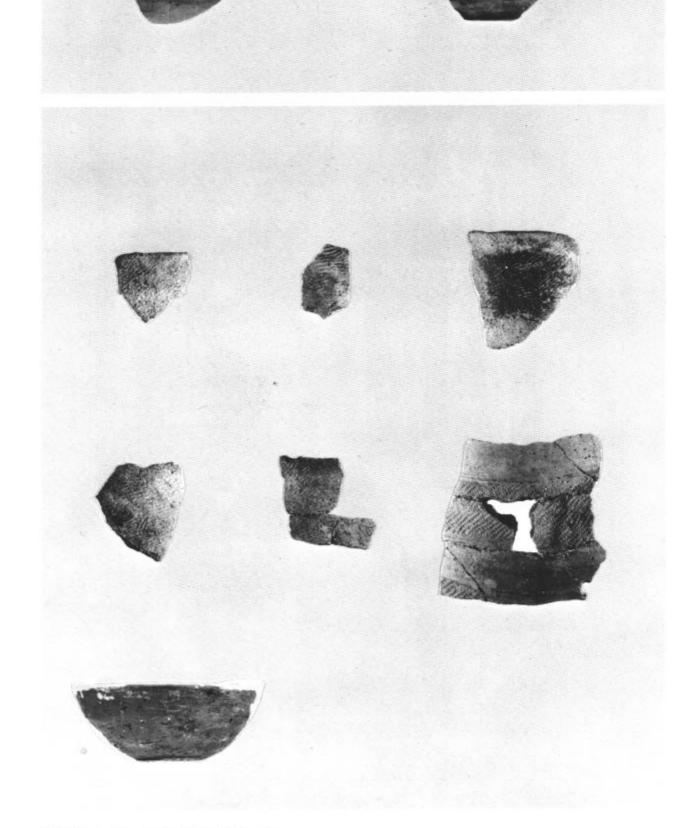




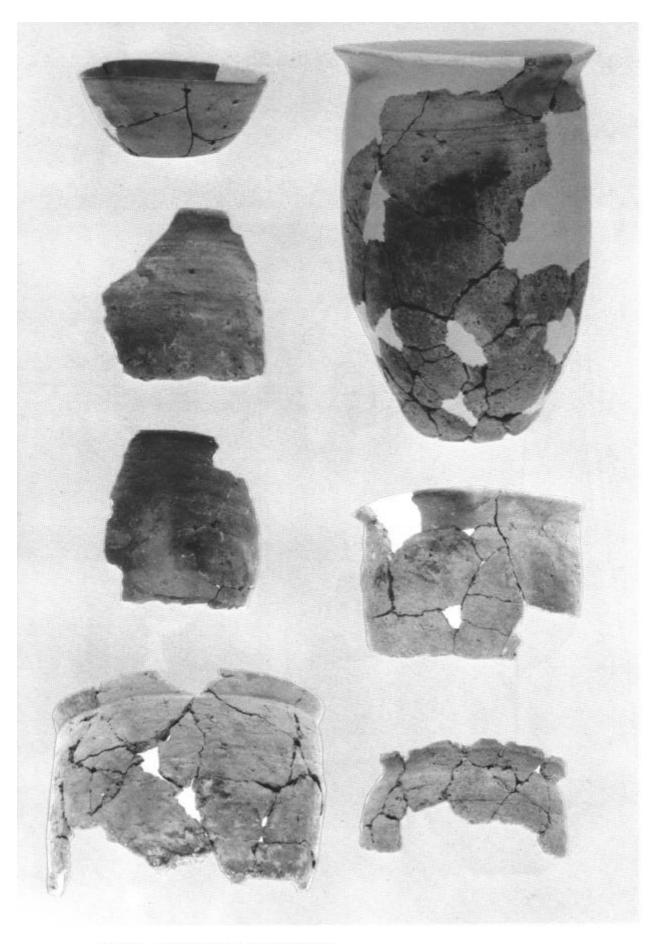
図版71 (上) SI112竪穴住居跡出土遺物(3) (下) SI113竪穴住居跡出土遺物(1)



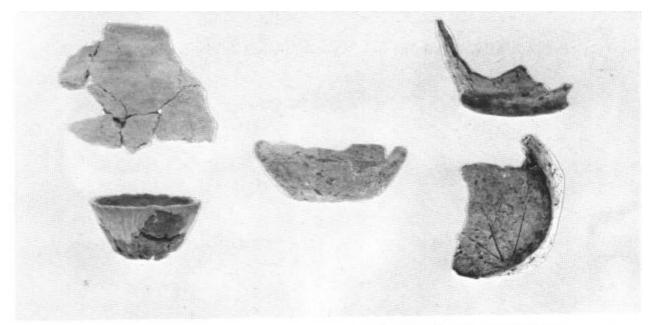
図版72 (上) SI 113竪穴住居跡出土遺物(2) (下) SI 117, 117′竪穴住居跡出土遺物

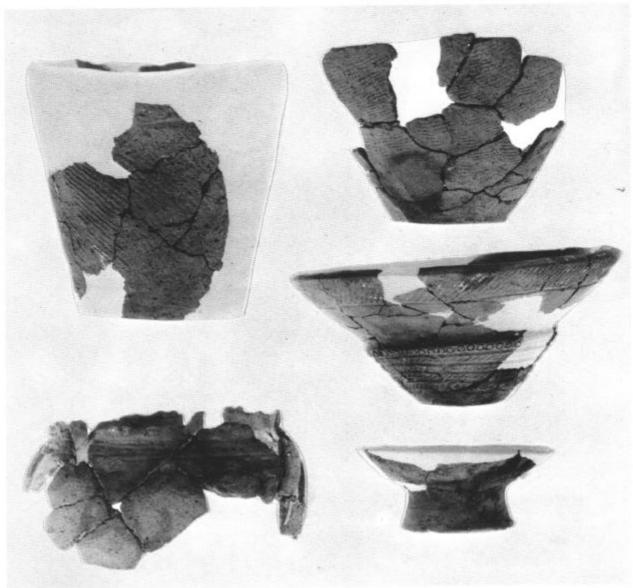


図版73 (上) S K 118土壙出土遺物 (下) S K 131, 135土壙出土遺物

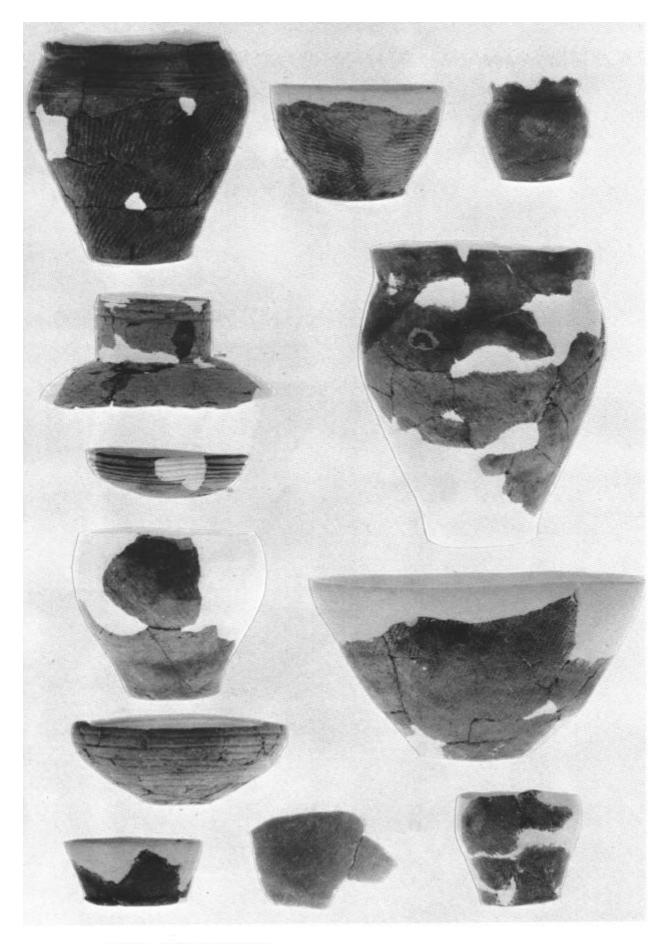


図版74 SI301竪穴住居跡出土遺物(1)

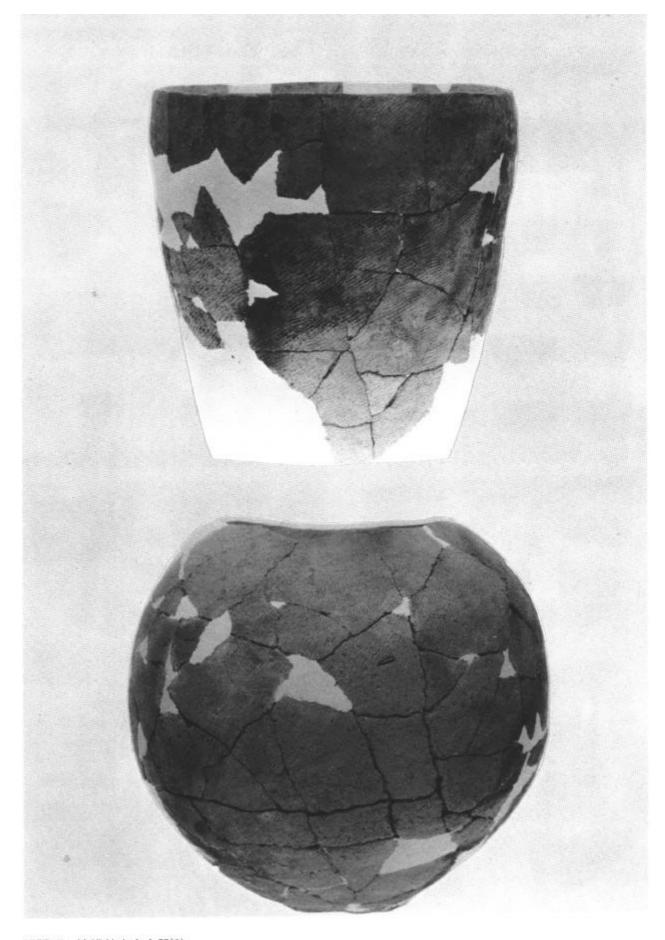




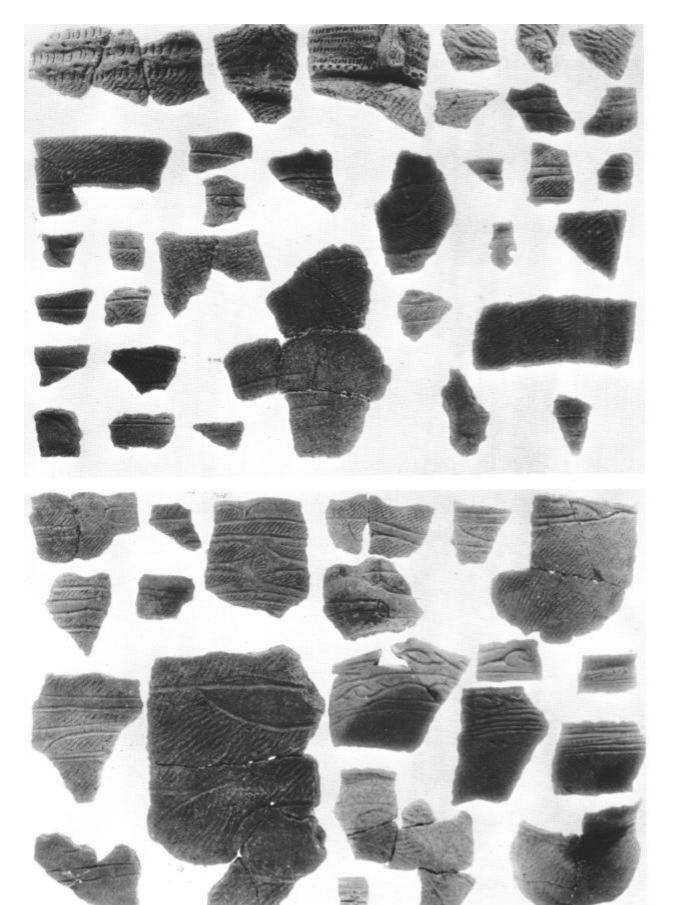
図版75 (上) SI 301竪穴住居跡出土遺物(2) (下) 遺構外出土土器(1)



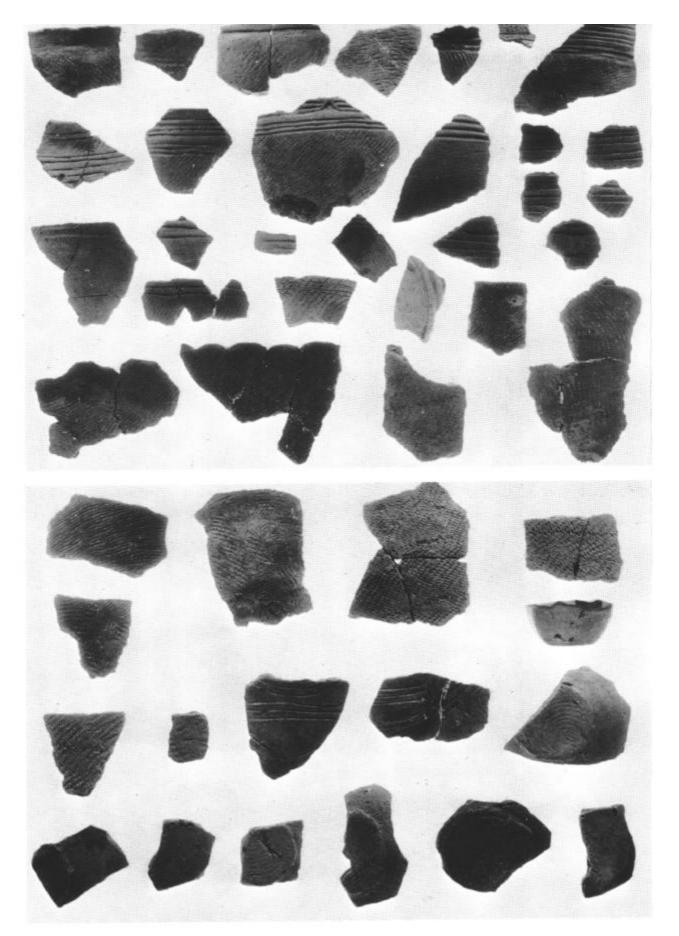
図版76 遺構外出土土器(2)



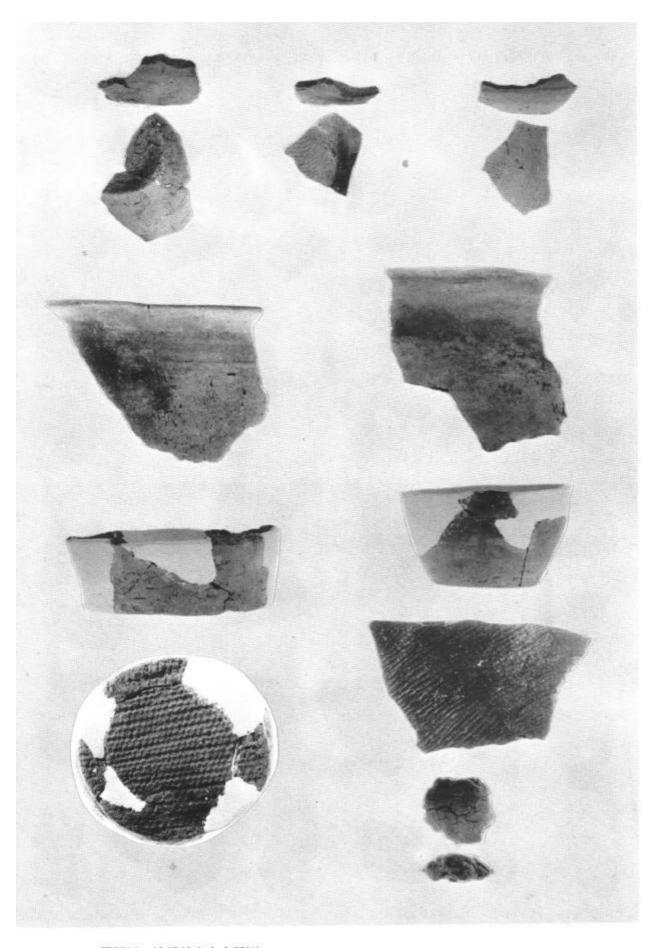
図版77 遺構外出土土器(3)



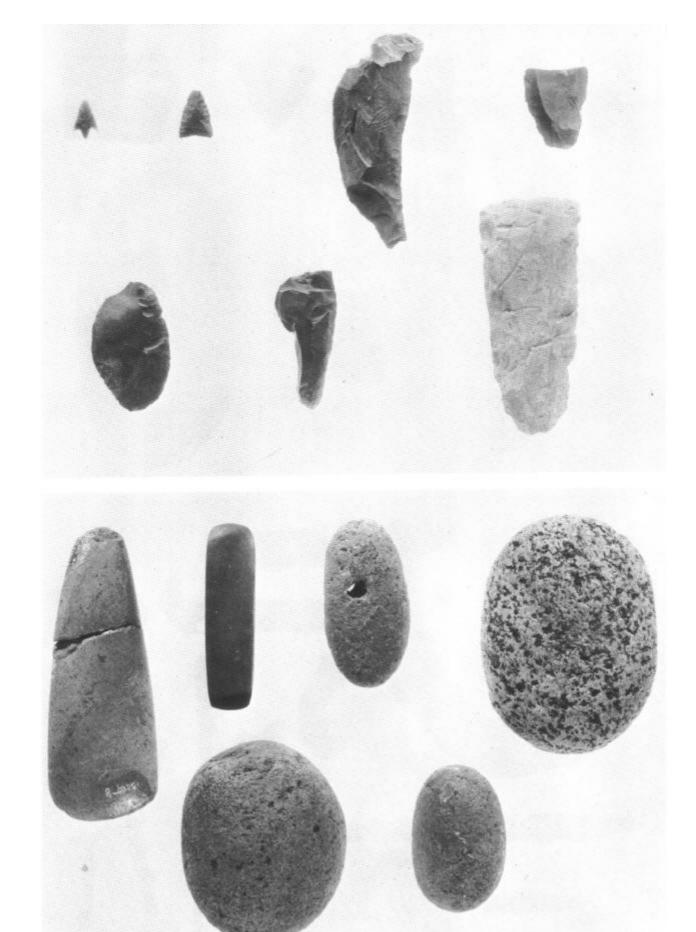
図版78 (上) 遺構外出土土器(4) (下) 遺構外出土土器(5)



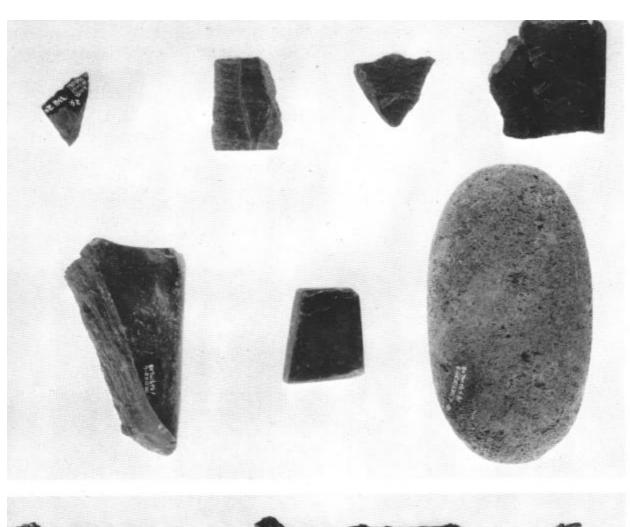
図版79 (上) 遺構外出土土器(6) (下) 遺構外出土土器(7)



図版80 遺構外出土土器(8)

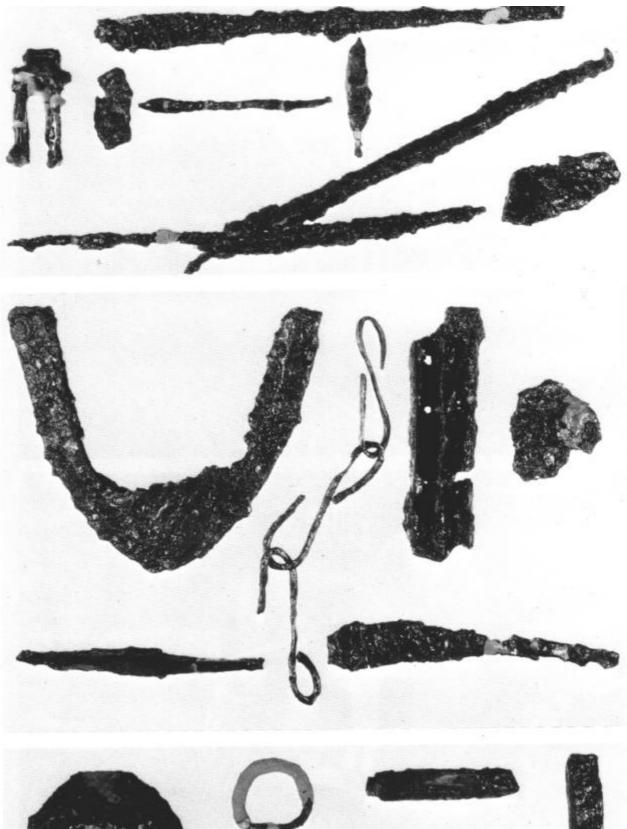


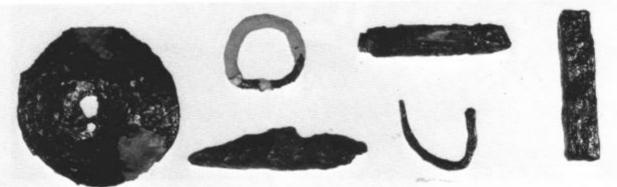
図版81 (上) 遺構外出土石器(1) (下) 遺構外出土石器(2)





図版82 (上) 遺構外出土石器(3) (下) 出土鉄器(1)

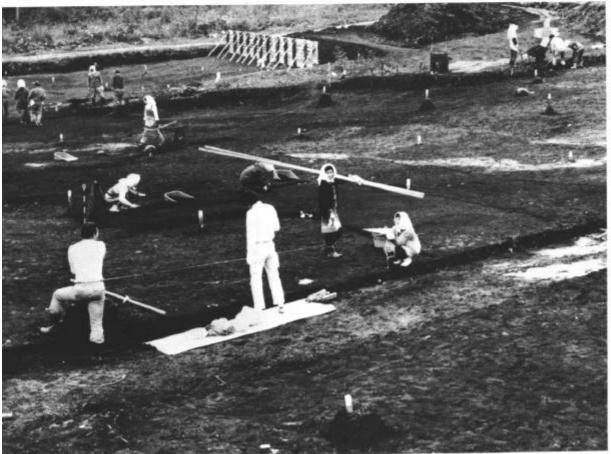




図版83

(上)





図版84 発掘調査風景 〈上〉 Ⅱ区

明堂長根遺跡

遺 跡 番 号 No. 31

所 在 地 鹿角市花輪字明堂長根1番地他

調 查 期 間 昭和56年7月2日~9月18日

発掘調查予定面積 5,194 m²

発掘調査面積 6,300 m²

1. 遺跡の概観

明堂長根遺跡は、秋田県鹿角市花輪字明堂長根1番地他に所在し、国鉄花輪線陸中花輪駅の南東1.7km、北緯40°10′30″、東経140°48′10″の地点に存在する。標高210~219mの西に向いた緩斜面にあり、眺望よく北方に毛馬内方面の山々を遠望する。

遺跡の北側には、柏木森遺跡(遺跡番号No.15)があり、明堂長根遺跡から発見された繩文時代晩期初頭のフラスコ状ピットが検出されており、連続する一遺跡と考えられる。南側には、主として平安時代の竪穴住居跡、中世の竪穴遺構などが検出された一本杉遺跡がある。

遺跡周辺は杉、アカシア等の林、水田、畑地あるいは荒地となっており、調査区域内も杉林または畑地であった。

2. 調査の方法

明堂長根遺跡は、緩斜面の東北縦貫自動車道建設予定地内を南東~北西方向に走る2本の市道に挟まれた区域が調査対象範囲であるため、この中の自動車道建設予定地内の中心杭STA 119+00とSTA 119+40を結ぶ線を南北の基線とし、この基線に対して直交するラインをもってグリッドを設定した。グリッドの東西ラインには南よりアラビア数字、また南北ラインには東からアルファベットを付し、両者を組み合わせて各グリッド東南隅の杭をグリッド呼称のために用いた(第1図)。

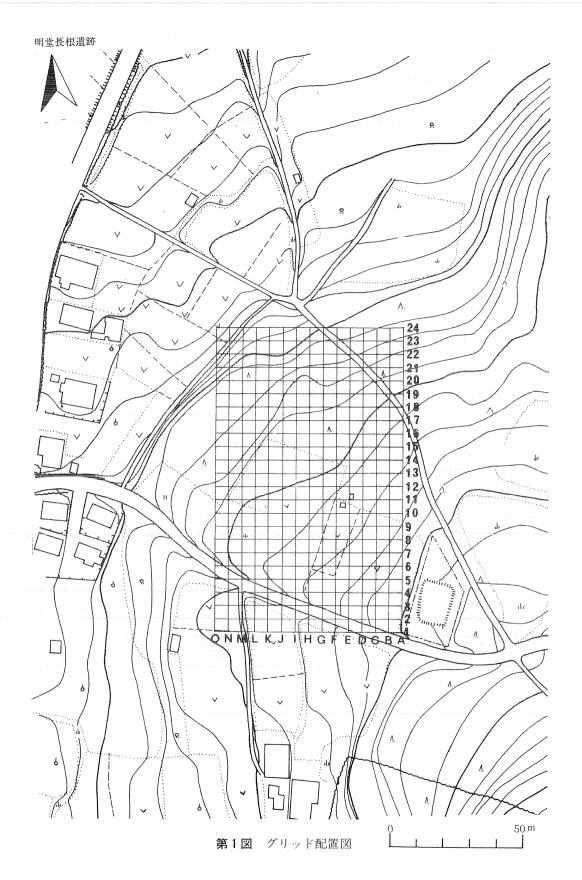
表土は部分的に2m近くに達する所があり、杉木立伐採後の抜根作業も含めて、表土の除去 は重機を用いて行った。

遺物は調査以前の表面採集でも全く検出されず、また表土除去作業時においても皆無であったので、遺構、遺物の発見はほとんどないものと予想されたため、表土除去作業後はベルトコンベヤーを使用して地山面を検出しながら遺構の確認に努めた。

遺構等は、各グリッドの隅の杭を利用して、簡易遣り方測量により実測した。また遺構の写真撮影は35ミリカメラを用い、モノクロ、カラーリバーサル写真を撮影した。最終的に遺跡全体を航空写真測量し、遺構配置図を含めての地形図を作成した。

3. 調査の経過

調査は昭和56年7月2日から9月18日まで行ったが、8月11日までは乳牛平遺跡の調査と並行した。調査経過の概略は以下のとおりである。



7月2日 調査開始,表土除去作業

7月17日 フラスコ状ピット検出

7月22日 重機による除土作業終了,以後,遺構検出,精査

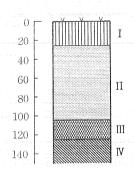
9月18日 調査終了

10月22日 航空写真撮影, 航空測量

4. 遺跡の層序

本遺跡の表土除去は、重機を用いて行ったが、道路センター杭周辺を残して土層観察を行った。土層は遺跡全体に単純な様相を示すが、第II層の層厚が地点によってかなりの開きが見られる。遺構は第IV層地山上面で確認された。

STA119+80における層序は以下の通りである。



第 I 層: 10 Y R ½ 黒褐色土 粘性弱,植物根,小石が含まれる。耕作土である。

第Ⅱ層:10YR外 黒色土 粘性中 層全体に径1㎜~5㎜大の浮石

が点在するが層下方ほど多く含まれている。

第Ⅲ層:10 Y R ¾ 黒褐色土 粘性強 第Ⅱ層下方よりも多くの浮石

粒を含んでいる。

第Ⅳ層:10 Y R % 褐色 粘性強 地山遺構はこの層上面で確認され

る。

第2図 土層柱状図

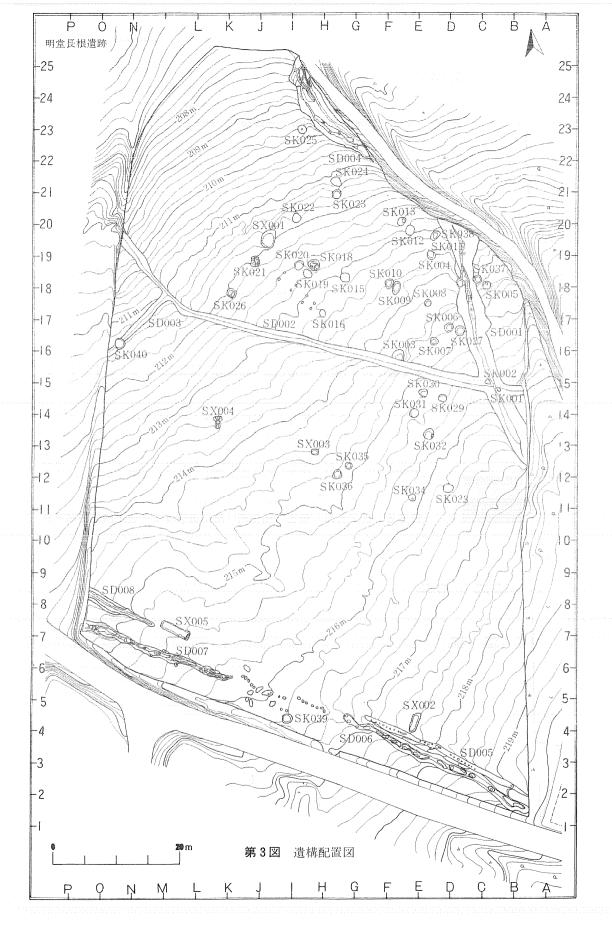
5. 遺構と遺物

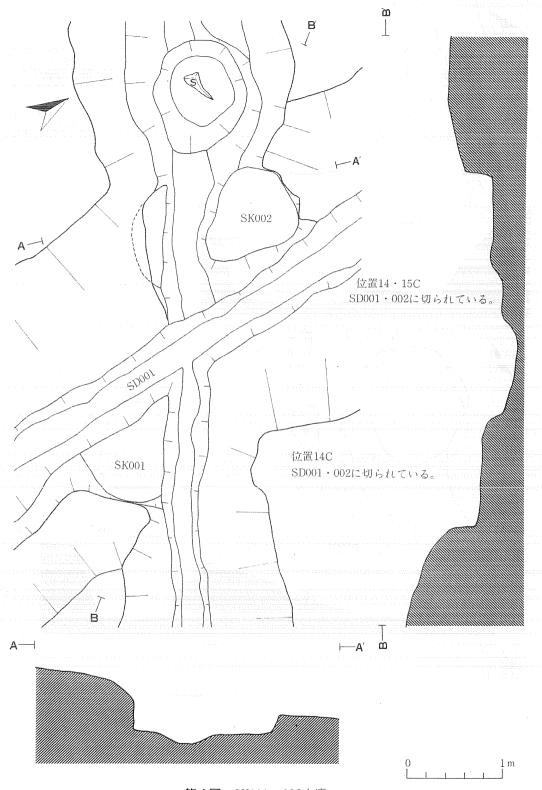
(1) 遺 構

明堂長根遺跡で検出された遺構は、土壙37基、溝8条、掘立柱建物跡1棟、その他の遺構5 基である。

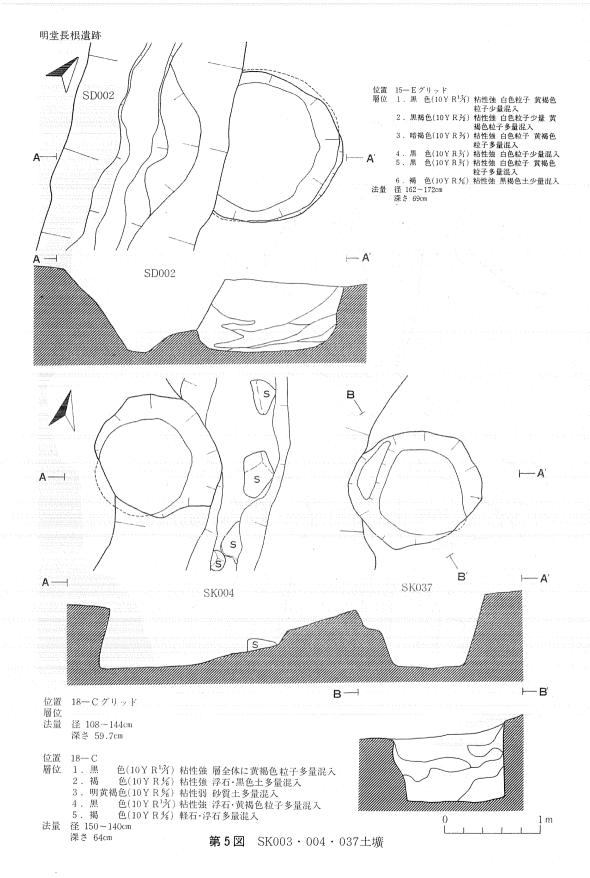
① 土 壙 (第4~16図 図版2~26,33)

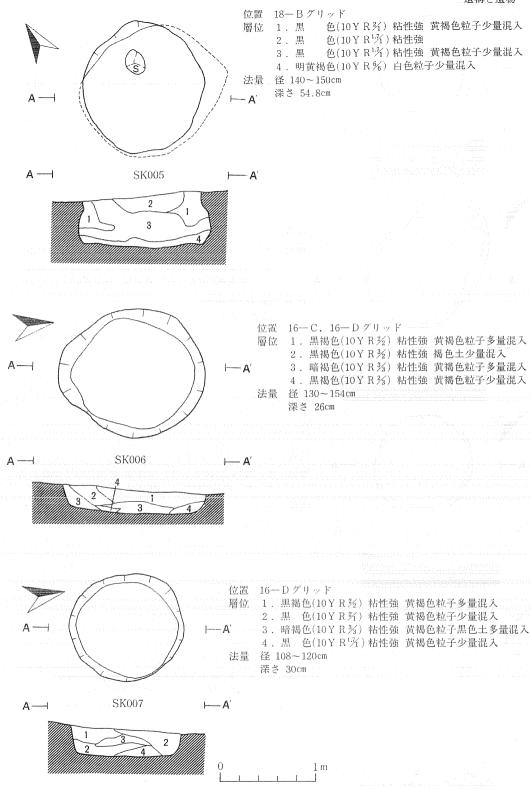
主として遺跡北半に集中的に分布し、南端のSK039は例外的存在である。北西端の急斜面には構築されていない。遺物はSK015底部からほぼ完形の台付深鉢形土器が2個体出土したが、他は土器破片のみか、あるいは全く検出されない。北方に連続する柏木森遺跡との関連が考えられる。





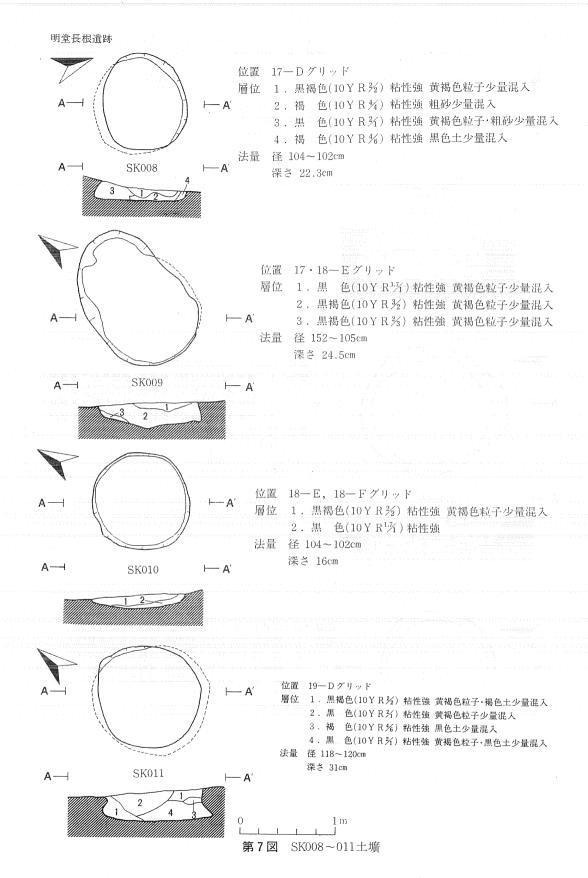
第4図 SK001 · 002土壙

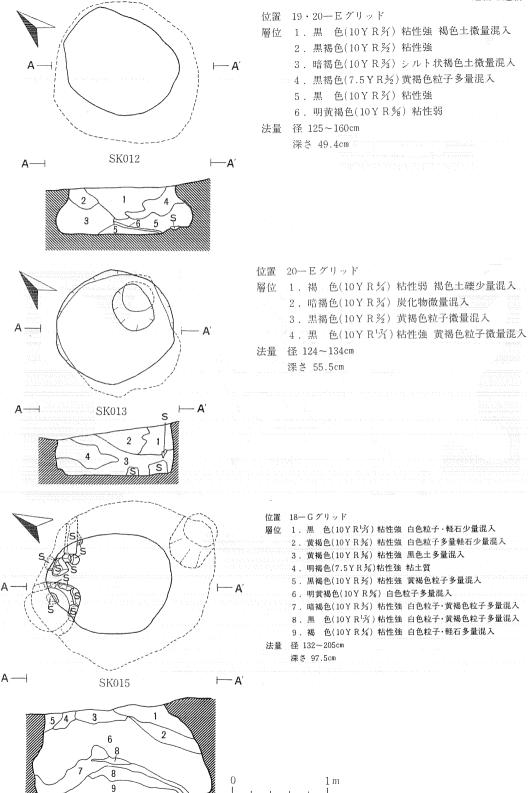




— 343 —

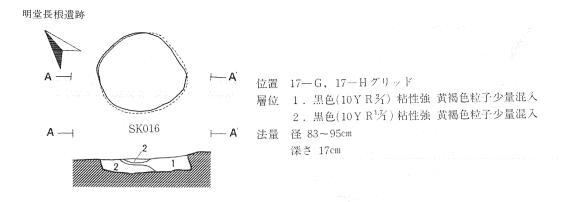
第6図 SK005~007土壙

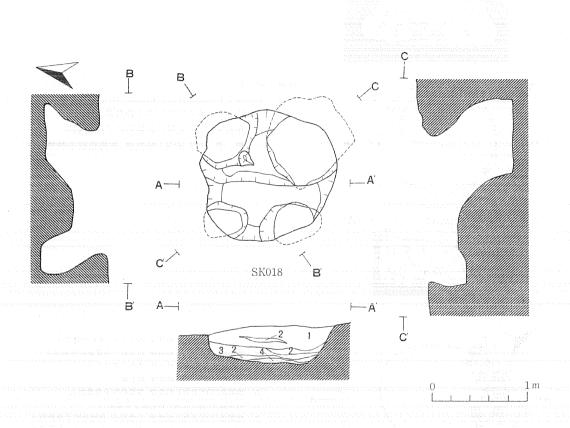




第8図

SK012 · 013 · 015土壙





位置 18-Hグリッド

層位 1. 黒 色(10 Y R ¾) 粘性強 白色粒子微量·黄褐色粒子多量混入

2. 褐 色(10YR¼) 白色粒子·黑色土少量混入

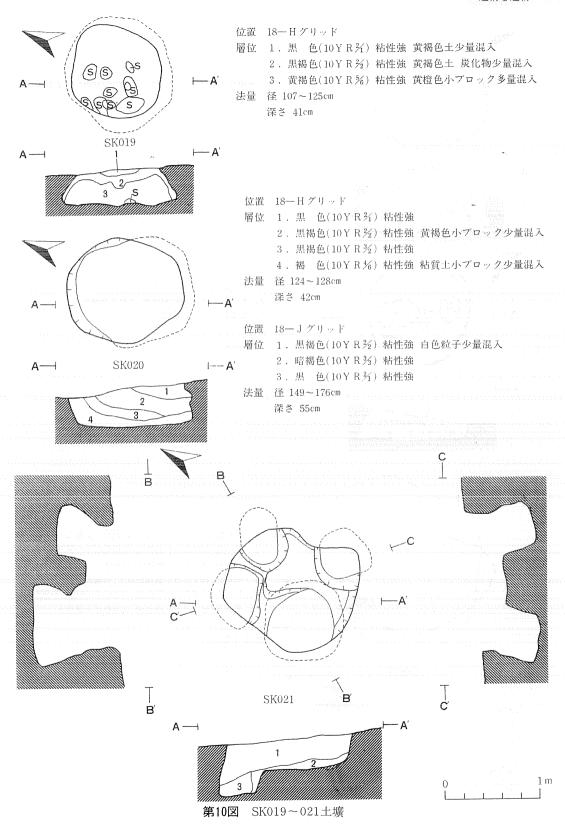
3. 黒褐色(10YR%) 黄褐色粒子多量·黒色土少量混入

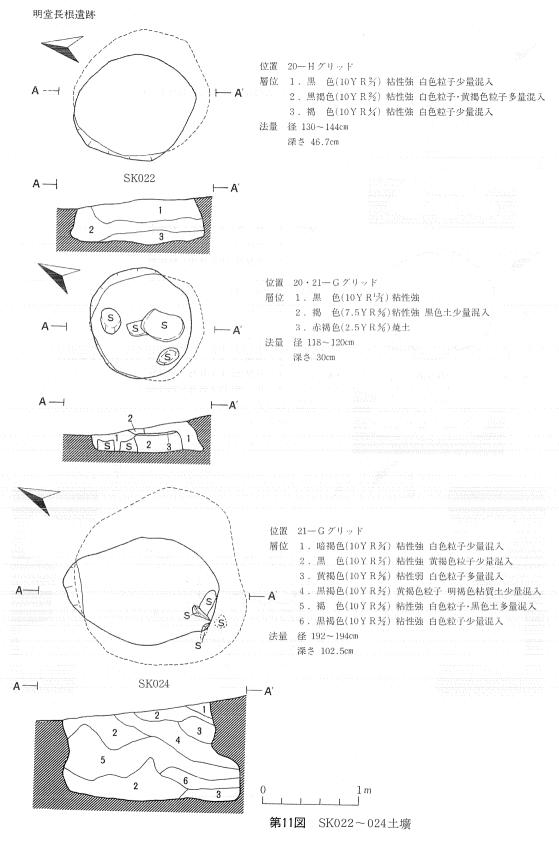
4 . 黒 色 $(10 \, Y \, R^{1} \%)$ 粘性強 黄褐色粒子少量混入

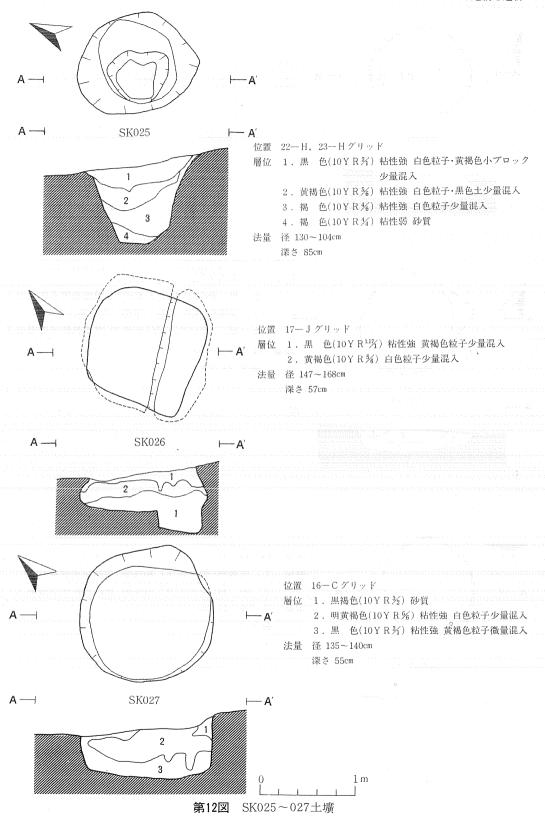
法量 径 152~188cm

深さ 102cm

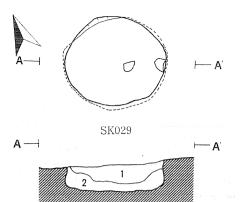
第9回 SK016 · 018土壙







明堂長根遺跡



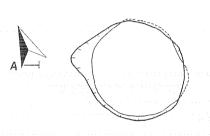
位置 14-Eグリッド

層位 1. 黑色(10 Y R Y) 粘性強 黄褐色粒子少量混入

2. 黒色(10Y R¹/₄) 粘性強

法量 径 98~106cm

深さ 29.5cm



位置 14-Eグリッド

層位 1. 黒褐色(10YR%) 粘性強

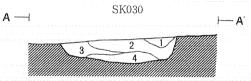
2. 黑 色(10YR) 粘性強 黄褐色粒子少量混入

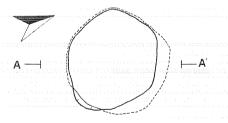
3. 黒褐色(10 Y R %) 下部に炭化物少量混入

4. 黑 色(10Y R¹Y) 粘性強 黄褐色粒子多量混入

法量 径 122~106cm

深さ 24.3cm





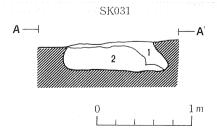
位置 13・14-Eグリッド

層位 1. 黑褐色(10YR%) 粘性強 白色粒子少量混入

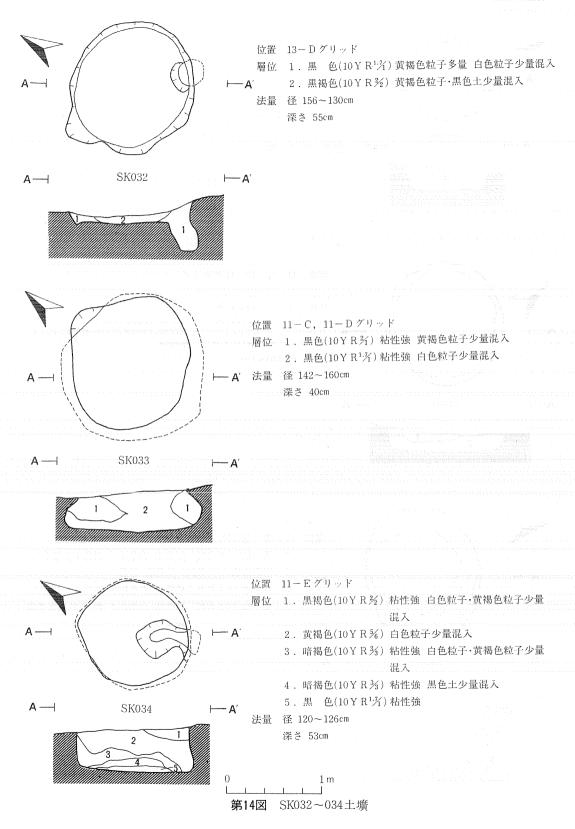
2. 黑 色(10Y R¹/_Y) 粘性強 黄褐色粒子少量混入

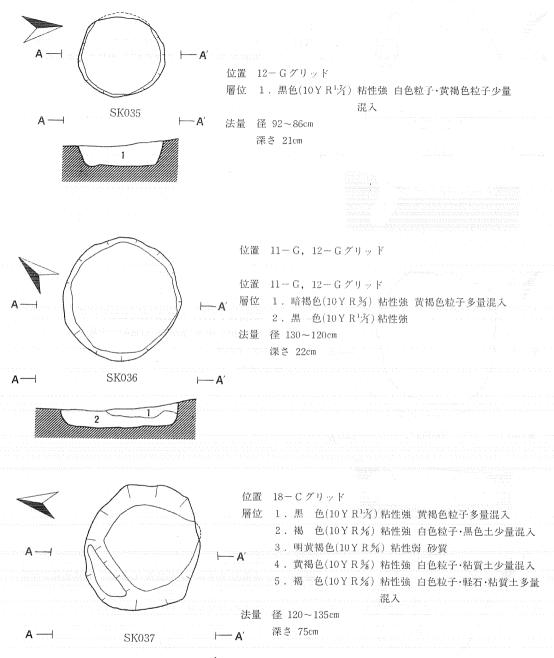
法量 径 108~112cm

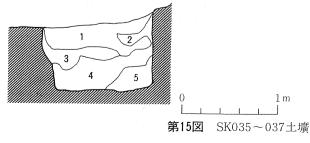
深さ 31.5cm

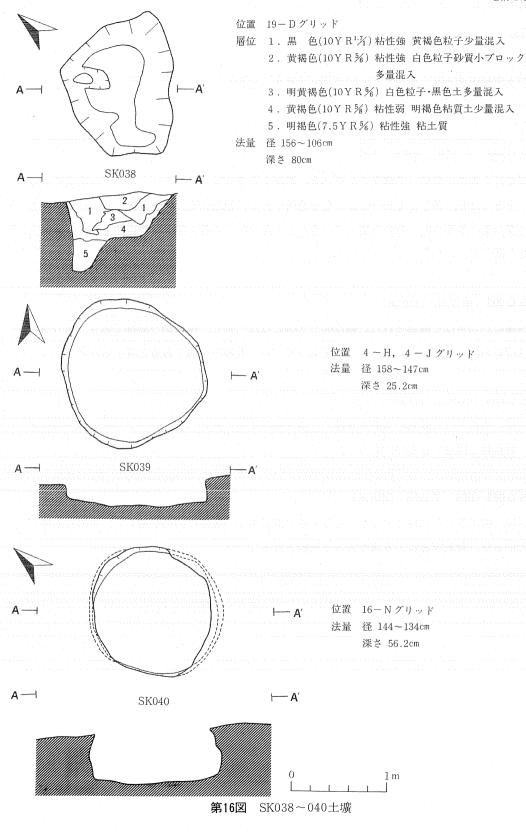


第13図 SK029~031土壙









明堂長根遺跡

②溝 跡

SD001 (第17図, 図版27)

調査区域内北東部に検出された幅約3 mの溝で、S K001・002・004・037を切っている。 柏木森遺跡で検出された市道沢口・甘蕗線に平行して走る廃止道路の延長である。

SD002 (第17図, 図版27·28)

調査区を東西に横切って構築されている。斜面上方では幅 $1.5 \sim 2$ m,深さ90cm前後であるが,下方では幅,深さとも40cmほどになる箇所がある。西端は北に向きを変え,SD003 がこれに変わる。 $SK001 \sim 003$ を切っているが,SK001 との新旧関係は把握できなかった。人為的な溝と考えられる。

SD003 (第17図, 図版28)

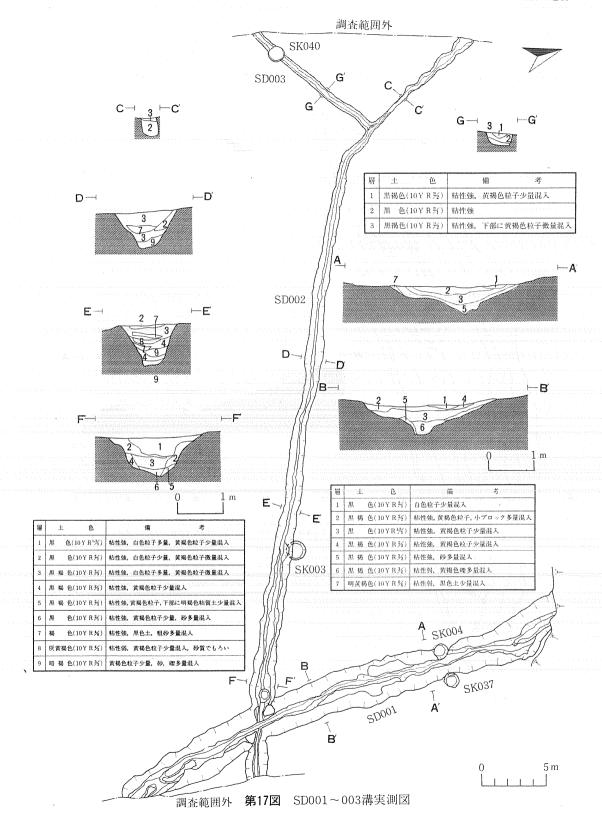
西端に11.5mほど確認された。幅は60~70cmにほぼ一定し、深さ25~35cmであり、SD002にほぼ直角に交わっている。SK040を切っている。人為的な溝であると考えられる。

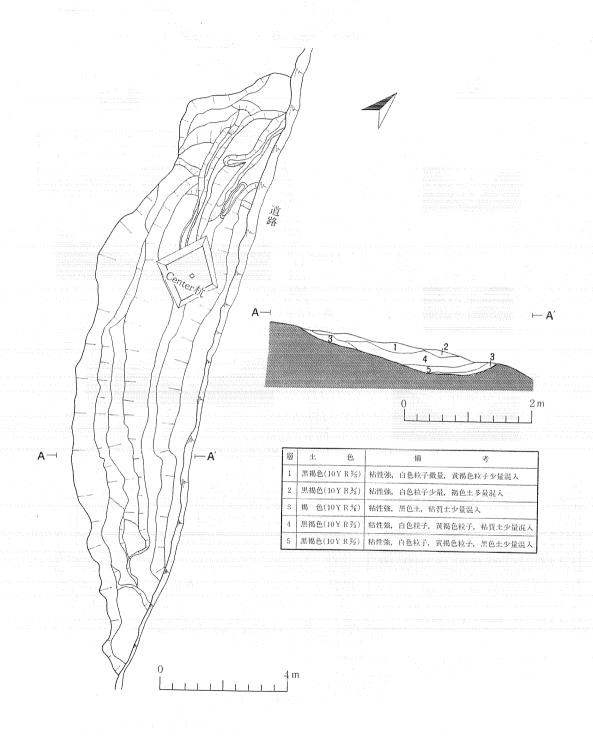
SD004 (第18図, 図版28・29)

北端に検出された弧状に湾曲する溝で、最大幅約4 mである。これも S D 001 同様、市道沢口・甘蕗線と関連するものであろう。

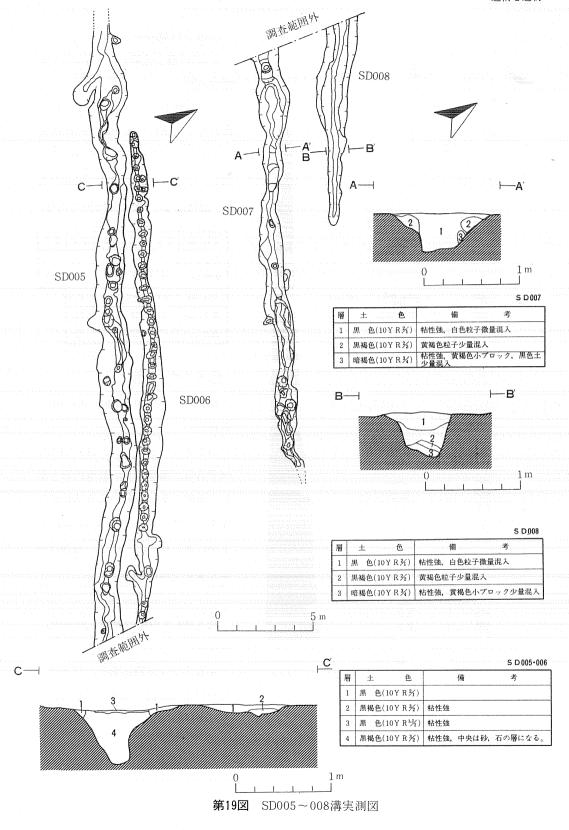
SD005~008(第19回, 図版29)

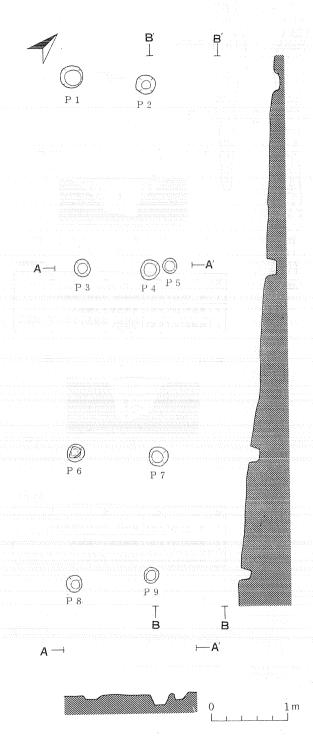
南端に検出された東西に平行して走る4条の溝である。底部に凹凸が激しく,中間郭が途切れているが、自然流水による溝であると判断される。





第18図 SD004溝実測図





第20図 SB001掘立柱建物跡実測図

③掘立柱建物跡

SB001掘立柱建物跡 (第20図,図 版32・33)

17日・18 I グリッドに検出された 桁行 3 間, 梁行 1 間の掘立柱建物跡 である。桁行柱間は北から246 cm, 245 cm, 163 cm, 梁行柱間は100 cmであ る。遺物はなく, 時期は不明である。

Pit No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
深さ(cm)	18	10	6	21	11
直径(cm)	26	25	24	25	24
Pit No.	P 6	P 7	P-8	P 9	
深さ(cm)	8	15	15	-16	
直径(cm)	22	22	21	20	

④その他の遺構

S X 001 その他の遺構 (第21図、

図版30)

19 I グリッドにあり、340 cm×217 cmである。南北に長い長楕円形を呈し、南側の壁は内側に入り込むが、北側には壁は存在しない。底面はわずかに北に傾斜している。遺物は出土しなかった。

SX002 その他の遺構 (第21図,

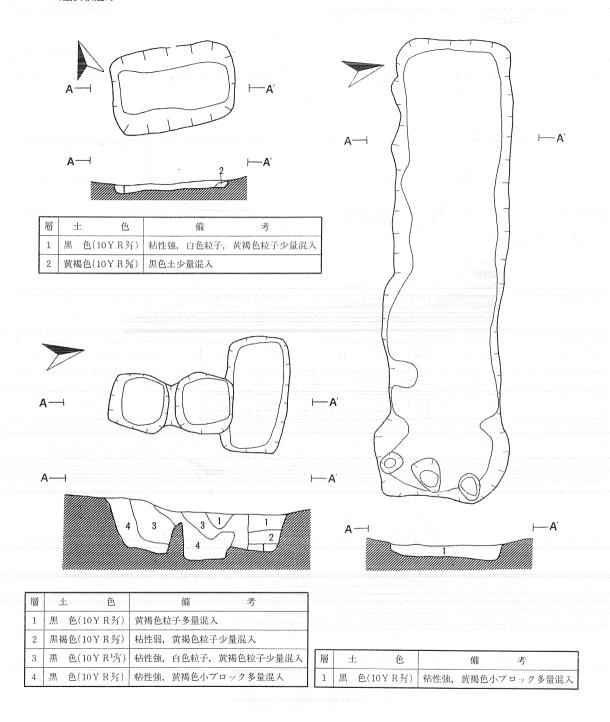
図版30)

4 Eグリッド内にあり、 275 cm× 88cmの南北に長い長楕円形を呈し、深さ17~35 cmである。遺物は出土しなかった。

第21図 SX001・SX002その他の遺構実測図

黄褐色粒子多量混入

黒褐色(10YR%)





SX003 その他の遺構(第22図, 図版31)

12Hグリッド内にあり、130 cm×90cmの方形を呈している。深さは10cmと浅く、壁も外方に緩やかに傾斜している。遺物は出土しなかった。

S X 004 その他の遺構 (第22図, 図版31・32)

13 K グリッドにあり、単一の振り込みではなく、3 部分に分かれている。南より、60cm四方、深さ50cmのピット状部分があり、その北側に125 cm×68cm、深さ40cmの長方形の掘り込みがある。壁の立ち上がりは垂直に近く、両端の掘り込みの底部は極めて堅くしまっている。遺物は出土しなかった。

S X 005 その他の遺構 (第22図, 図版32)

 $6 \cdot 7$ L グリッドにあり、 485×140 cmの長方形を呈している。深さ $10 \sim 15$ cmで、遺物は出土しなかった。

(2) 遺 物

①土 器 (第22~27図, 図版34~36)

明堂長根遺跡から出土した土器は極めて乏しいが、SK015からは完形土器が2個体出土している。出土土器のうち型式表徴の明確なものは、2のSK005出土土器、8・9のSK015出土土器、及び10のSK018出土土器があげられる。2は大洞BC式、他はB式である。

②石 器 (第27図, 図版36)

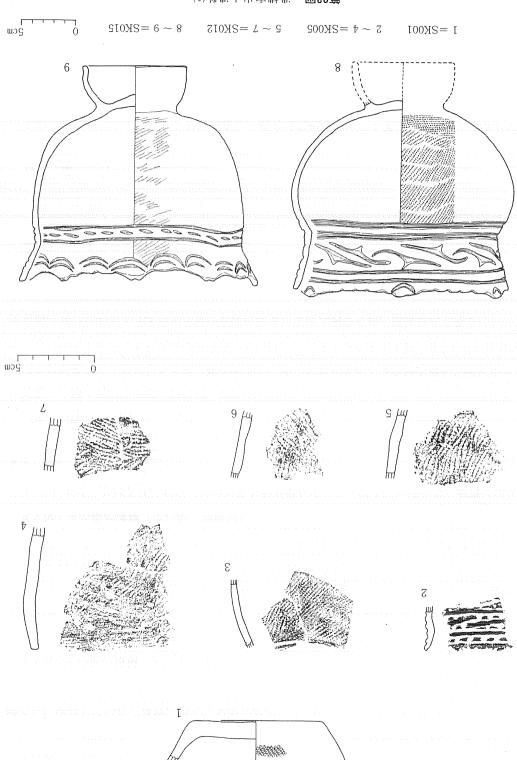
遺構外から2点出土している。

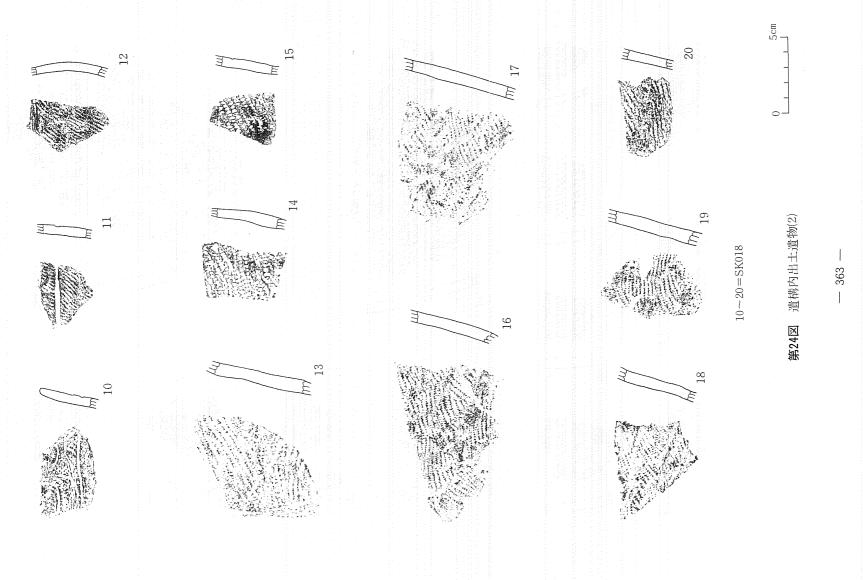
51は横型石匙である。52は1側辺に調整剝離が施されている。

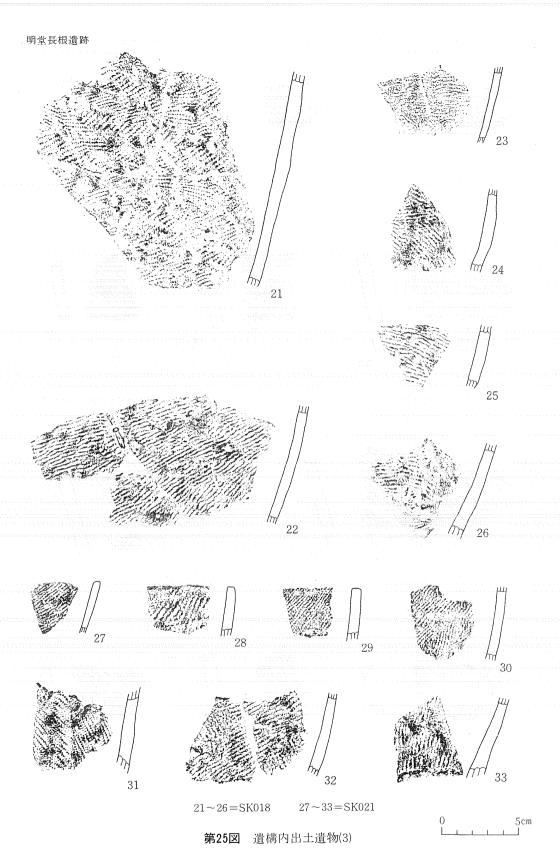
6.まとめ

明堂長根遺跡は約5.300㎡を発掘調査し、縄文時代晩期初頭の土壙を主体とする遺構が検出された。本遺跡の北方に地形的にも連続する形で柏木森遺跡があり、明堂長根遺跡と同時期の60基に及ぶ土壙が検出されている。その分布状態、堆積土の状態、完形土器の出土状態などはよく似ており、両遺跡は縄文晩期初頭の時期において土壙群の構築された同一の遺跡であると言えよう。土壙の性格はいかに考えるべきであろうか。秋田県内において縄文時代晩期の墓壙は数多く検出されているが、本遺跡の土壙からは土壙上面の配石や骨片なども確認されず、積

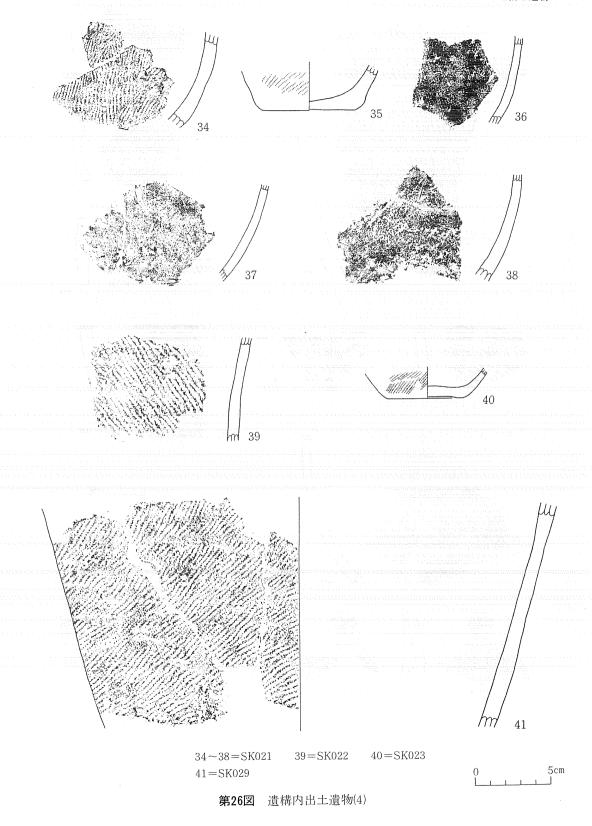
第23図 遺構内出土遺物(1)

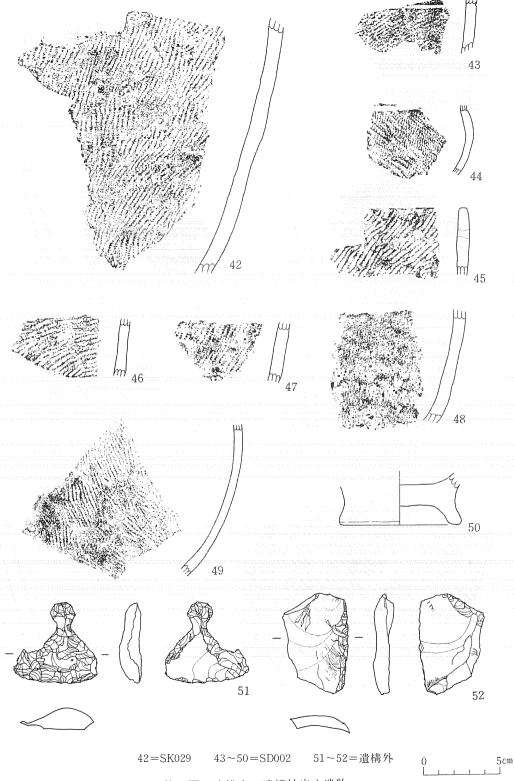






— 364 —





第27図 遺構内・遺構外出土遺物

第1表 遺 物 観 察 表 (1)

(土	器〕			売!	衣 退 物 慨	示 4	(1)				Manada a pagasa a a a a a a a a a a a a a a a a a
挿 図	図版	出土	部位	外	iti		内 面	器厚	胎土	焼成	備考
番号	番号	地点	HP 137	文	様	色調	色調	(mm)			
23 1	34-1	S K001	底 部	RL縄文		灰 褐 7.5YR%	にぶい褐 7.5YR%	11	細カ・しゝ	良好	
2	2	S K 005	口緣部	羊歯状文		橙 5 Y R %	明黄褐 10 Y R %	5	細カ・しょ	良好	
3	3	S K 005	胴 部	LR繩文→沈線		橙 7.5YR%	明黄褐 10YR%	4	細かい	良好	A CALLAGE TO SERVICE T
4	4	S K 005	口縁部	L 撚糸文, 擦痕		橙 7.5YR%	にぶい黄橙 10 Y R ¼	8	砂, 礫(1~2 mm)	良好	
5	5	S K012	胴 部	LR縄文		にぶい黄橙 10 Y R %	褐 灰 10 Y R タ	.7	砂, 礫(1~2 mm)	良好	外面煤少量付着
6	6	S K012	胴 部	LR縄文		にぶい橙 7.5 Y R ¾	にぶい橙 5 Y R 74	6	砂, 礫(1~2 mm)	良好	
7	7	S K012	胴 部	R上縄文		にぶい黄橙 10 Y R ¼	にぶい黄橙 10 Y R %	.7	砂	良好	
8	8	S K015	ほぼ完形	LR繩文, 平行沈線文,	三叉文, 弧線文	暗 褐 10 Y R ¾	暗 褐 10 Y R 秀	5	細かい	良好	台付鉢
9	9	S K 015	完 形	上撚糸文, 平行沈線文,	列点文, 弧線文	黒 褐 10 Y R ¾	黒 褐 10 Y R ¾	7	細かい	良好	台付鉢
24-10	10	S K018	口縁部	LR繩文, 沈線文, 弧線	1文	黒 7.5YR%	にぶい橙 7.5 Y R 34	6	砂	良好	外面煤付着
11	11	S K018	胴 部	L 撚糸文, 沈線文		にぶい橙 7.5 Y R 73	にぶい <u>黄橙</u> 10 Y R %	6	砂 礫(1~2 mm)	良好	外面煤付着
12	12	S K018	別问 部3	LR繩文		にぶい橙 7.5 Y R ¾	にぶい橙 7.5YR%	6	砂多量	良好	
13	13	S K018	胴 部	LR縄文		にぶい黄橙 10 Y R 写	にぶい橙 7.5 Y R 34	8	砂少量, 礫(2 mm) 細かい		
14	14	S K018	胴 部	LR繩文		浅黄橙 7.5YR%	にぶい橙 7.5 Y R ¾	8	砂	良好	
15	15	S K018	胴 部	LR縄文		にぶい黄褐 10 Y R ¾	にぶい橙 7.5 Y R ¼	7	砂細かい	良好	
16	16	S K018	胴 部	LR繩文	Notes that the second s	にぶい橙 7.5Y R ¾	にぶい黄橙 10 Y R X	7	砂 礫(2~3mm)	良好	
17	17	S K018	胴 部	LR繩文		にぶい黄橙 10 Y R 写	にぶい黄橙 10 Y R 写	8	砂 礫(1~3mm)	良好	
18	18	S K018	胴 部	LR細文		にぶい黄橙 10 Y R %	にぶい黄橙 10 Y R %	7	砂 礫(2~3 mm	良好	外面煤少量付着
19	19	S K018	胴 部	LR繩文		にぶい黄橙 10 Y R %	にぶい橙 7.5 Y R ¾	9	砂 礫(2~3 mm	良好	外面煤付着
20	20	S K018	胴 部	LR繩文		にぶい黄橙 10 Y R %	にぶい黄橙 10 Y R 万	6	砂少量,礫 (1~2 mm	良好	外面煤付着

第2表 遺物観察表(2)

	·		.,									
挿 図 番 号	図版番号	出土地点	部位	外		面	T	内面	器厚	胎土	焼成	備考
	н У	36 75%		文	様		色調	色調	(mm)	71G	MEIL	用 有
25-21	34-21	S K018	胴 剖	LR繩文			黑 7.5 Y R ¾	にぶい掲 7.5YR¾	8	砂 礫(1~2mm)	良好	外面煤付着
22	35-22	S K018	胴 部	L撚糸文			浅黄橙 7.5 Y R ¾	に ぷい橙 7.5YRダ	6	砂少量 細かい	良好	
23	23	S K018	胴 部	LR繩文			灰黄褐 10 Y R ½	褐 灰 5 Y R 屴	5	砂少量	良好	
24	24	S K018	胴部	L撚糸文			にぶい橙 7.5YR%	黒 褐 10 Y R ¾	8	砂少量	良好	内面煤付着
25	25	S K018	胴 部	L撚糸文			浅黄橙 10 Y R %	浅黄橙 7.5 Y R ¾	. 7	細かい	良好	
26	26	S K018	胴部	L撚糸文			にぶい橙 7.5Y R ¾	にぶい黄橙 10Y R 74	. 8	砂少量 細かい	良好	
27	27	S K021	口線部	L撚糸文			黒 10 Y R ¾	灰 褐 7.5 Y R ½	5	砂少量 細かい	良好	外面煤付着
28	28	S K021	口線部	LR繩文			にぶい黄橙 10 Y R %	灰黄褐 10 Y R ½	7	砂少量 細かい	良好	THE WAS ARRESTED AND A CONTROL OF THE PARTY
29	29	S K021	口線部	LR繩文·			無 褐 7.5YR¾	浅黄橙 10 Y R %	7	砂少量 細かい	良好	-
30		S K021	胴 部	LR繩文			にぶい褐 7.5YR%	褐 7.5YR%	6	砂 礫(1~2mm)	良好	
31	30	S K021	胴 部	LR繩文			にぶい黄橙 10Y R %	におい稿 7.5YR%	8	砂 礫(1~2mm)	良好	
32	31	S K021	胴 部	LR繩文			灰黄褐 10YR%	黒 褐 10Y R 昇	7	砂少量	良好	外面煤付着
33	32	S K021	胴 部	上撚糸文			にぶい橙 7.5 Y R ¾	明赤褐 5 Y R %	9	砂 碟(2~3 mm)	良好	アスファルト付着
41-34	33	S K021	胴 部	L撚糸文			橙 7.5YR%	黒 褐 5 Y R ¾	10	砂 礫(2~3 mm)	良好	内·外面炭化物付着
35	34	S K021	胴一底部	LR縄文			灰 揭 7.5 Y R ½	にぶい橙 7.5YR%	. 8	荒い	良好	
36	35	S K021	胴 部	無 文			にぶい黄橙 10 Y R 3	浅黄橙 10 Y R %	: 6	砂多量 細かい	良好	内・外面煤少量付着
37	36	S K 021	胴 音区	無文			淡 黄 2.5 Y ¾	にぶい黄橙 10 Y R %	6	砂細かい	良好	
38	37	S K021	胴 部	無文			淡 黄 2.5 Y ¾	浅黄橙 10 Y R %	9	砂 礫 (2 mm)	良好	
39	38	S K 022	胂 部	LR繩文			にぶい橙 7.5Y R ¼	にぶい橙 7.5Y R ¾	7	砂少量, 碟(2mm)	普通	
40	36—39	S K 023	胴~底部	LR縄文			にぶい橙 7.5 Y R ¾	灰 褐 7.5Y R ½	7	細かい	良好	

					-							
	77	, m			内面炭化物付着					内面炭化物少量付着		
	40 44	795711	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好
	+	i .	震(2~3 mm)	檗(1~3mm)	·通, 雅 (1~2 mm)	細かい	縣 (1~2 mm)	(mm	f, (1~2 mm)	碳(2~3mm)	! 細かい	細かい
	i	E	虚	抽例		一個小哥	一 世	(S mm)	即少量,	金	砂少量	
	宣 器	(шш)	10	10	L	ı,	∞	1-		50 .	D.	14
(3)	四面	明	淡 <u>軟機</u> 10 Y R %	にぶい黄檀 10YRX	福 7.5 Y R %	位 2.5YR%	黑 10 Y R ' X	黑 褐 7.5YR劣	に3:1、橋7.5 Y R 名	淡黄橙 10 Y R %	極暗赤褐 5 Y R ½	に3354借 7.5YR¼
観察表		印麗	浅黄橙 10 Y R %	黒 褐 10Y R ¾	にぶい橙 7.5YR%	橙 5YR%	黒 褐 10 Y R ¾	に 3:い稿 7.5 Y R %	にぶい禍 7.5Y R %	黄 橙 10YR%	(こぶい褐 7.5Y R Á	にぶい億 7.5Y R X
柳	逼							, -				
舸		類										
第3表	1787000			1 1 2								10, 17, 17
無	本	¥		AND A SECOND SEC	光線文	沈線文						
			LR繩文	LR欄文	LR韞文→沈線文	R L 繩文→沈線文	LR繼文	LR鶴文	LR繼文	無人	LR繼次	単
	47 44	i i	毙	泉	第	始	韓	1992	岩	題	貓	強
		<u>+</u> 0{	023 順	N29	005 團	002 順	200	002 順	200	002 順	002 順	002 中
		型	S K023	S K029	S D 002	S D 002	S D 002	S D 002	S D 002	S D 002	S D 002	S D 002
器〕	ı	番号	40	41	42	43	44	45	46	47	48	
\pm		番号	2641	2742	43	44	45	46	47	48	49	20

	松		
***************************************	籗	-	***************************************
	\$E(ΨE	Ψ
	Ā	亙	K
	重(8)	25	28
	最大厚 (cm)	1.4	9.0
	最大體 (g)	5.4	4.3
	最大長 (cm)	5.3	9.9
	出地	16 H	表
	名称	石匙	
\ H	田田 田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	11	50
Į	権 番 号		52

	重 (g)	25	
	最大厚 (cm)	1.4	_
	最大幅 (cm)	5.4	
	最大長 (cm)	5.3	
	出事 十区	16 H	
	茶	温	
	夲	冶	
器〕	番級	36—49	
里)	本 图 号	27—51	

極的に墓壙であることを想定することはできない。柏木森遺跡の報告では居住地から離れた堅果 類の仮貯蔵穴と見なしているが、こうした見解の方がより実態に適合した解釈であると考える。

調査参加者

浅石 清一 浅石林一郎 大信田 学 川又 康彦 木村 留吉 木村 善男 佐藤 由嚴 関本 芳雄 田中 敬二 田中権四郎 奈良正次郎 畠山 市助 浅石 イソ 浅石 ヒサ 浅石 ミョ 浅石 ヨエ 阿部 妙子 安保 カヨ 安保ハルエ 安保ユキ子 大森 栄子 川又 千代 久慈 チヤ 児玉ハツエ 斉藤 金沢実津子 川又 スエ 川又 ソヨ 久子 豊田 コヨ 苗代沢良子 中村 陽子 根本 キワ 佐藤 トシ 佐藤フミエ 高橋 ミワ 根本 シエ 橋場 トシ 古家カツ子 古家・一子・村木・茂子 米田 フリ 宮沢 カヨ 柳沢 光子 山口チョ子



1 遺跡遠景



図版1 遺 跡

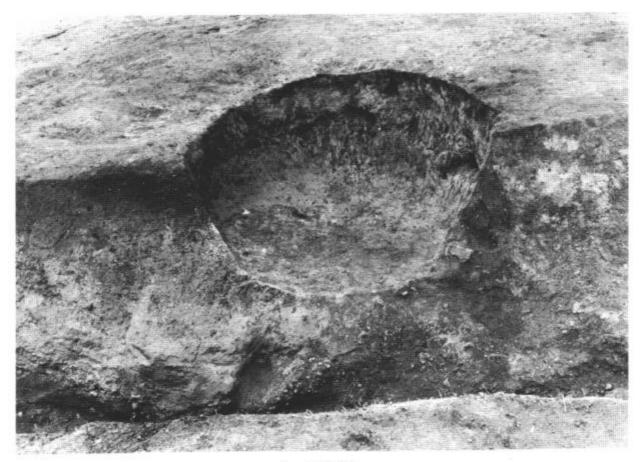
2 遺跡全景



1 S K 001, 002



図版2 遺 跡



1 S K 003



図版3 遺跡

2 S K 003

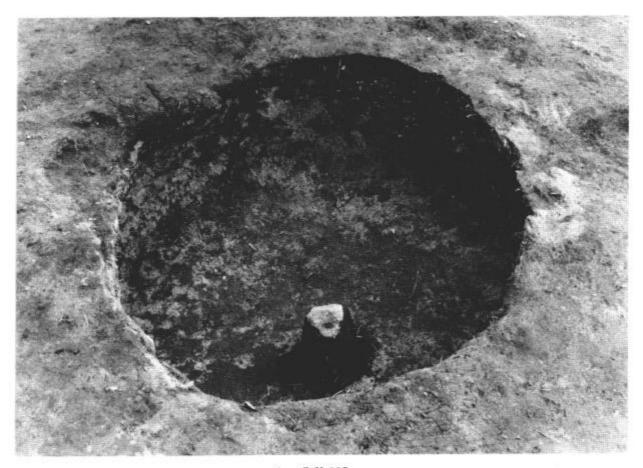


1 S K 004

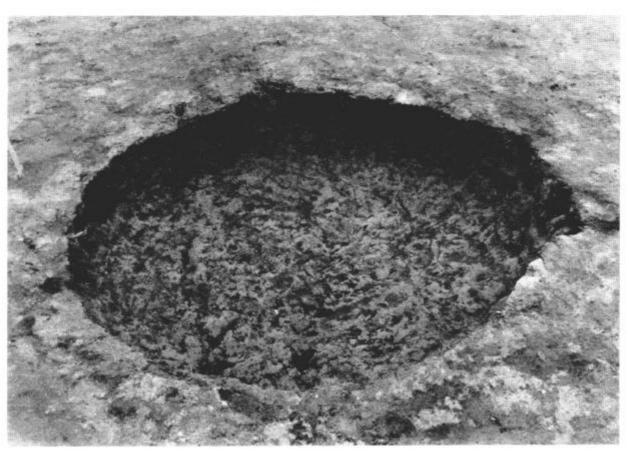


図版4 遺 跡

2 S K 004



1 S K 005



図版5 遺 跡

2 S K 006

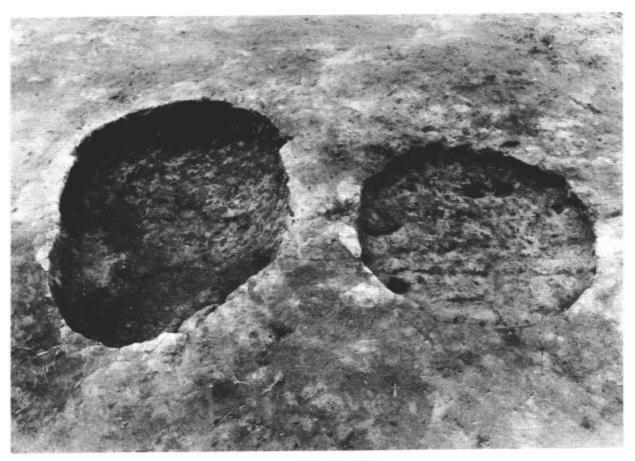


1 SK 007

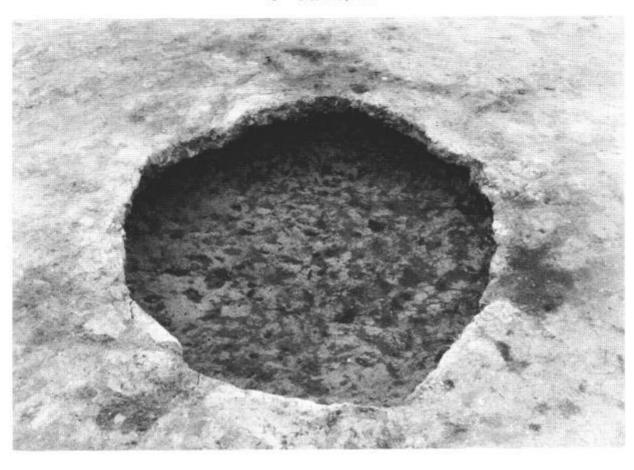


図版6 遺 跡

2 SK 008

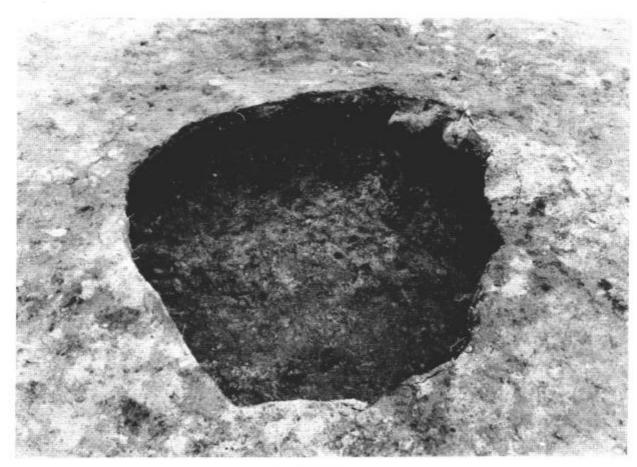


1 S K 009, 010



図版7 遺 跡

2 S K 011



1 S K 012

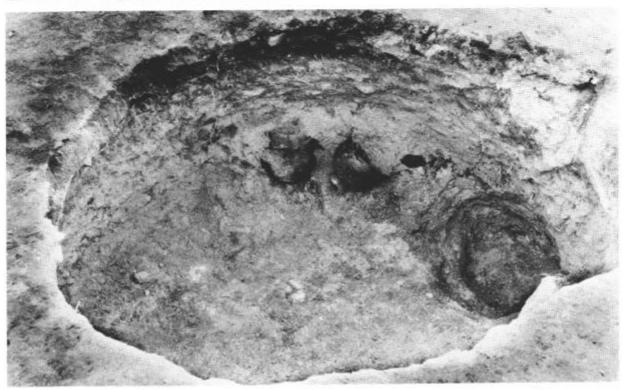


図版8 遺 跡

2 S K 013



1 S K 013



図版9 遺 跡

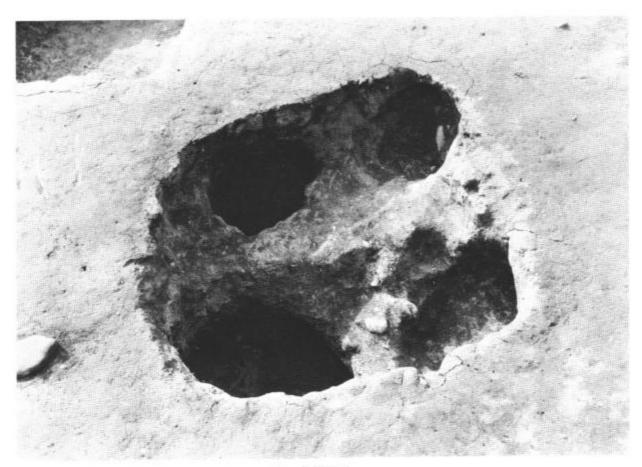
2 S K 015



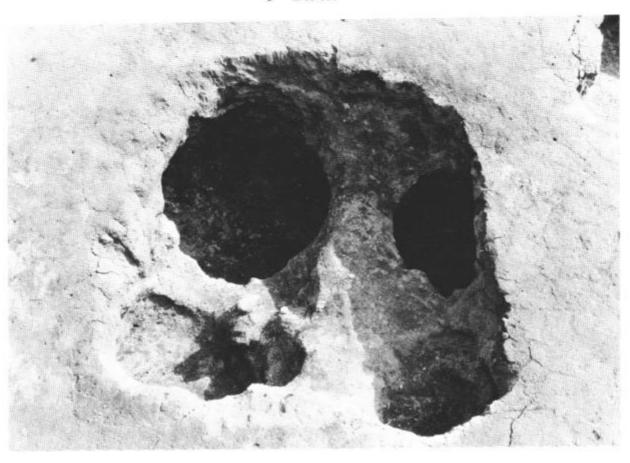
1 SK 015



図版10 遺 跡



1 S K 018



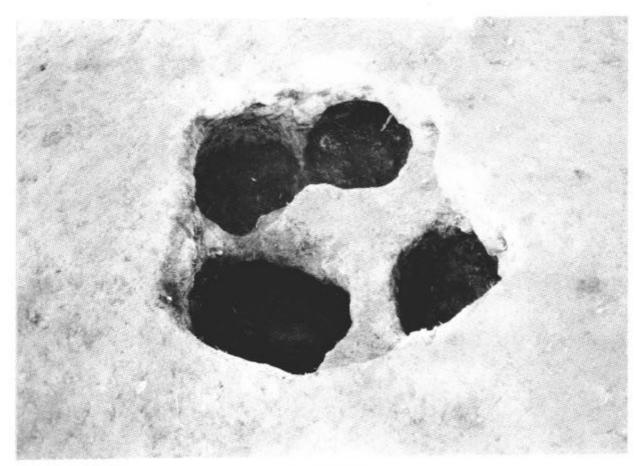


1 S K 019



図版12 遺 跡

2 S K 020



1 S K 021



図版13 遺 跡

2 S K 022

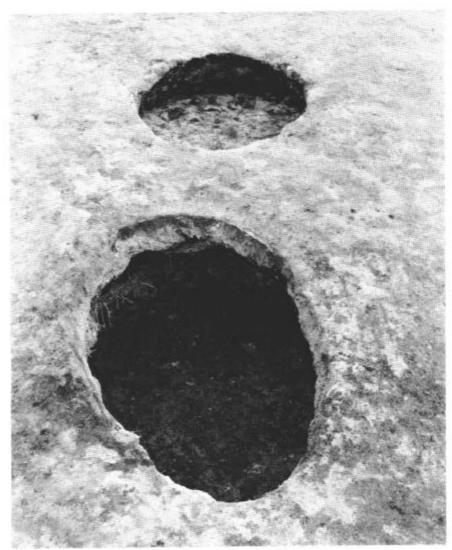


1 S K 023

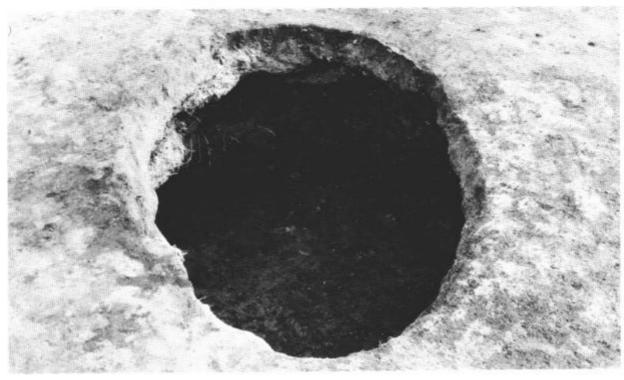


図版14 遺 跡

2 SK 023



1 S K 023, 024

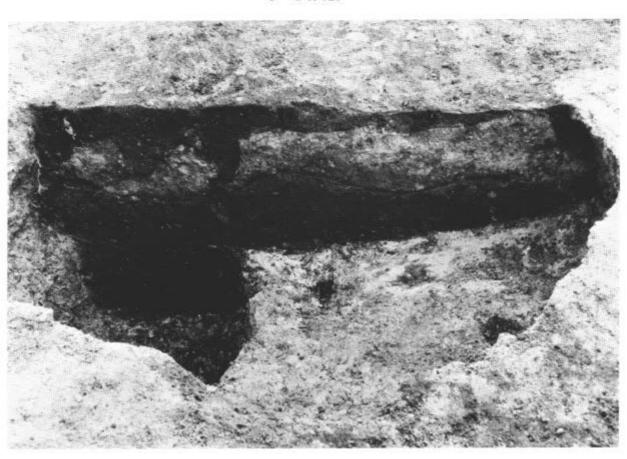


図版15 遺 跡

2 S K 024

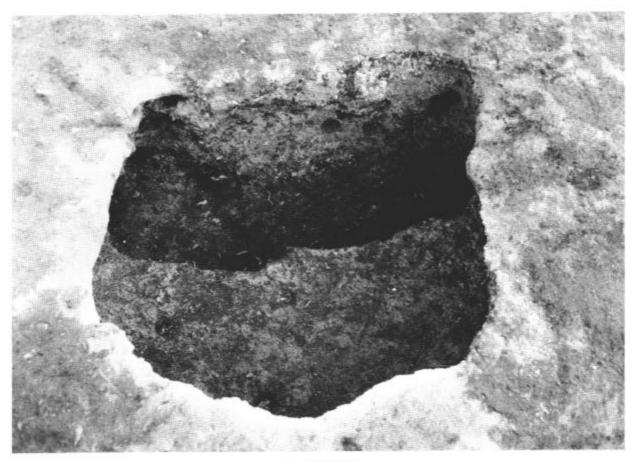


1 S K 025

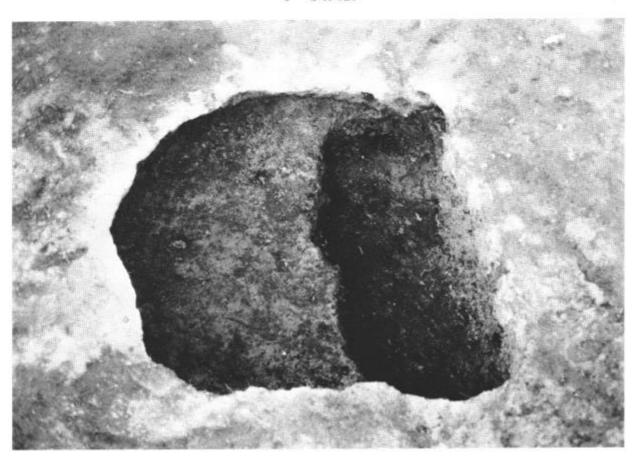


図版16 遺 跡

2 S K 026

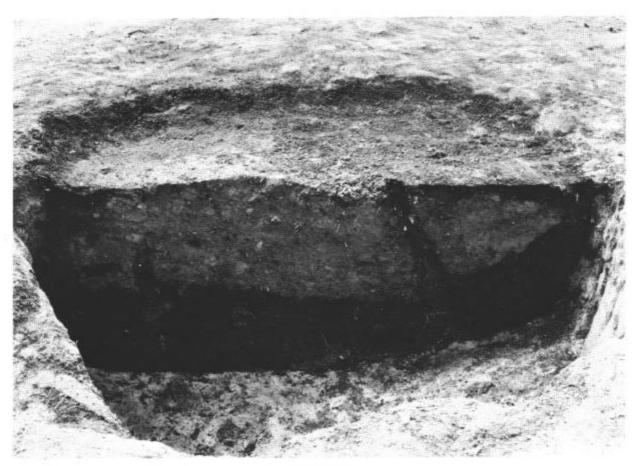


1 S K 026



図版17 遺 跡

2 S K 026

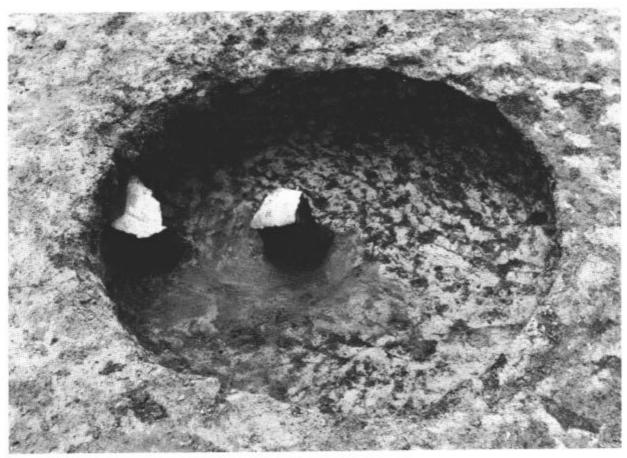


1 S K 027

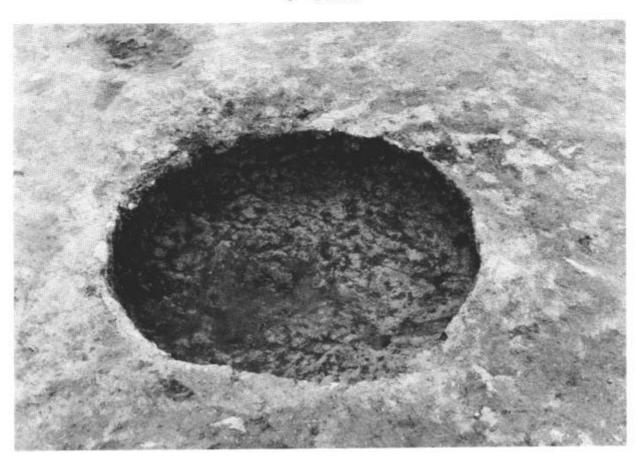


図版18 遺 跡

2 S K 027



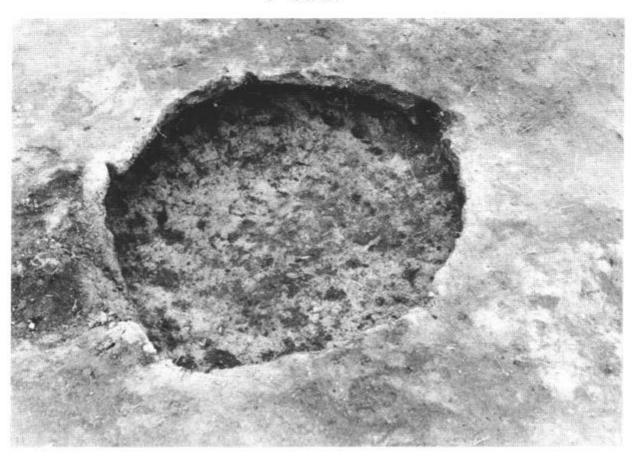
1 S K 029



2 S K 029

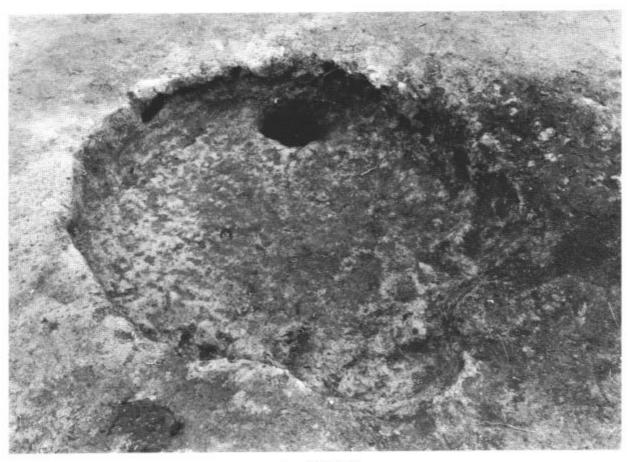


1 S K 030



図版20 遺 跡

2 S K 031



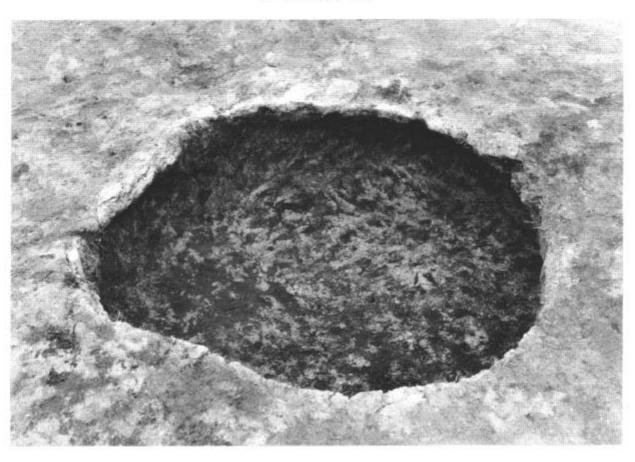
1 S K 032



図版21 遺 跡

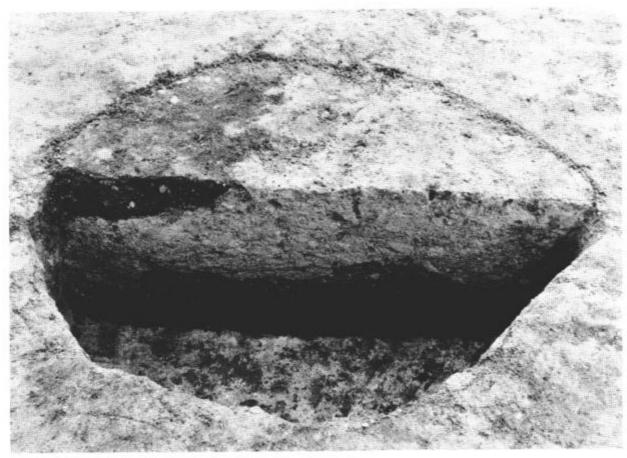


1 S K 030~032

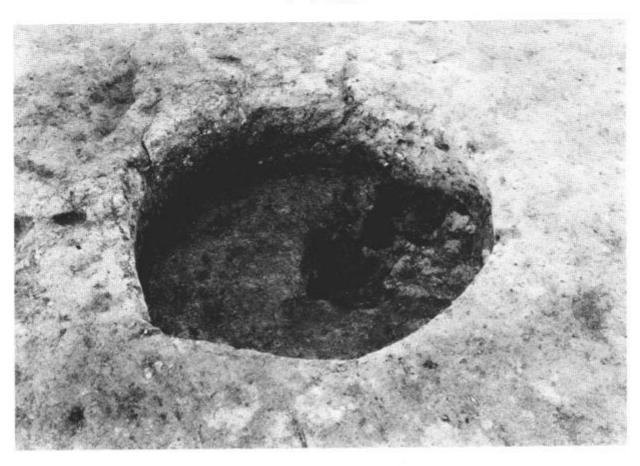


図版22 遺 跡

2 S K 033



1 S K 034



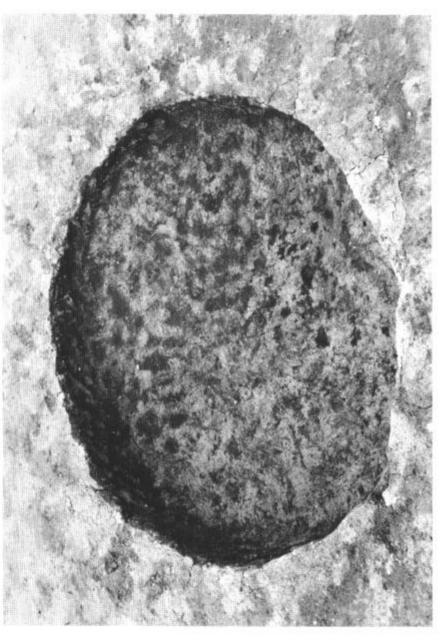
図版23 遺 跡

2 S K 034



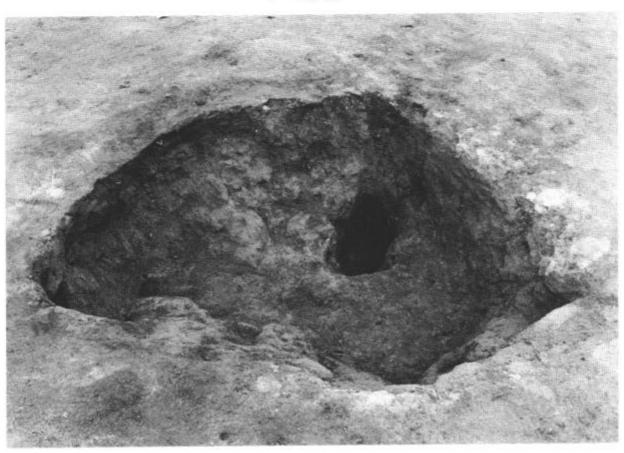








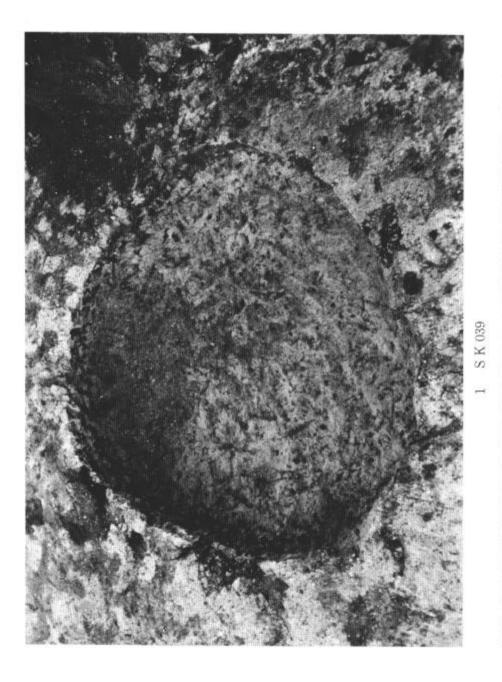
1 S K 037



図版25 遺 跡

2 S K 038













2 S D 001

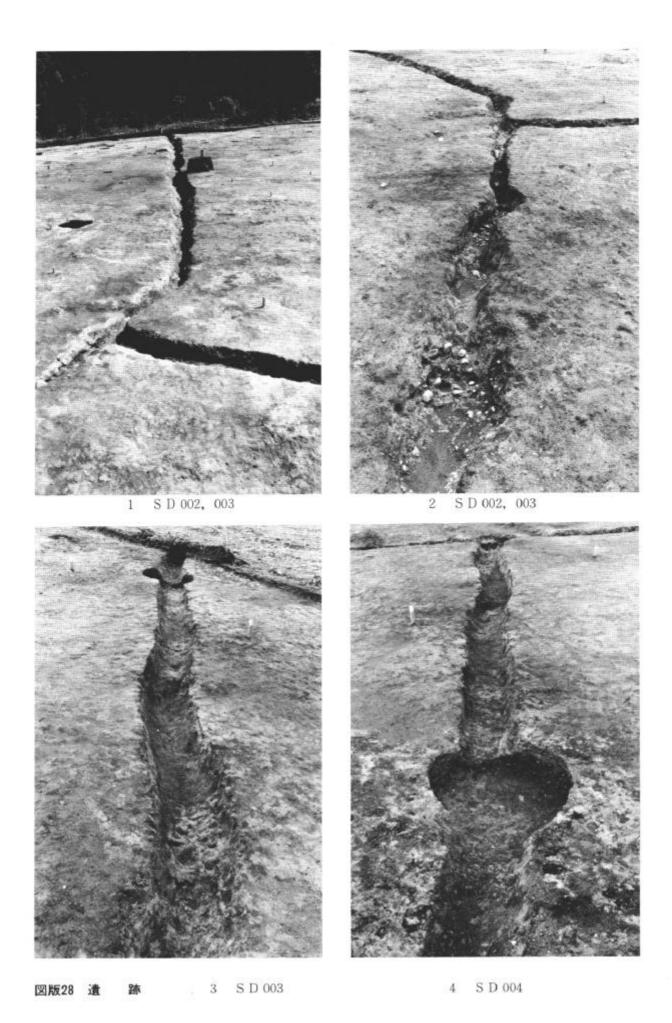


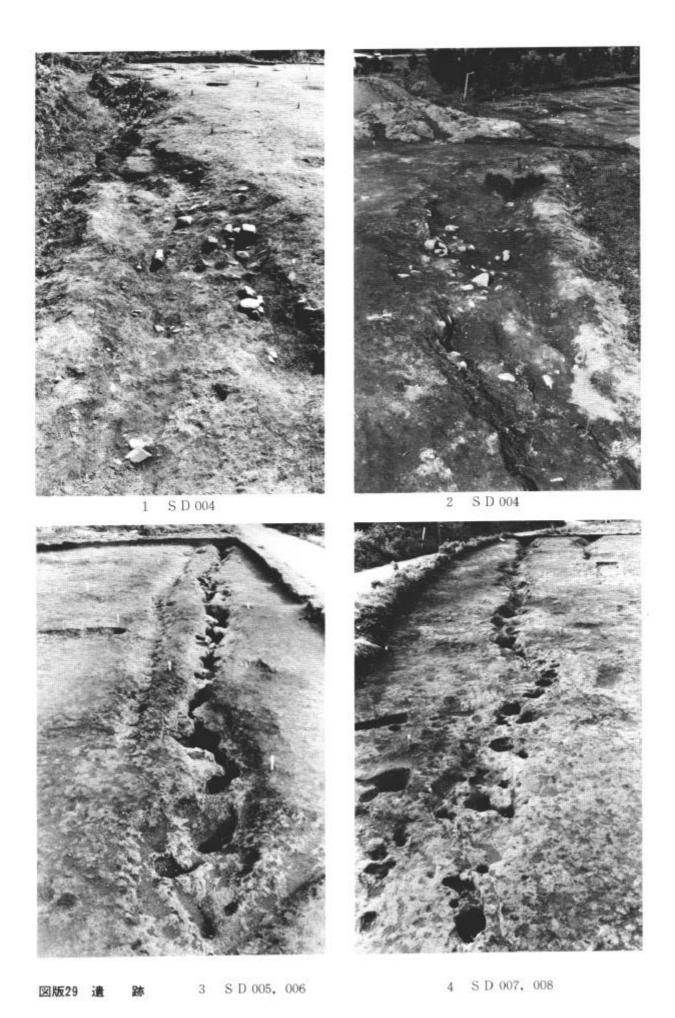
図版27 遺





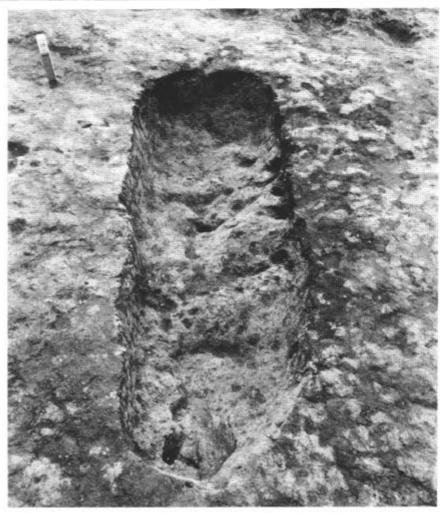
4 S D 001, 002



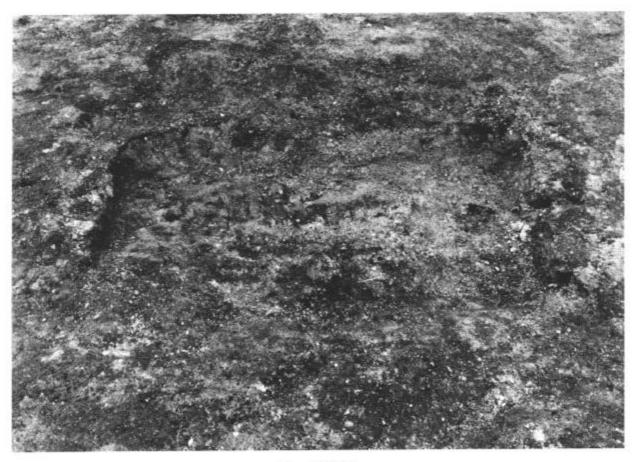




1 S X 001



2 S X 002



1 S X 003



★ 3 S X 005 4 S B 001

図版32

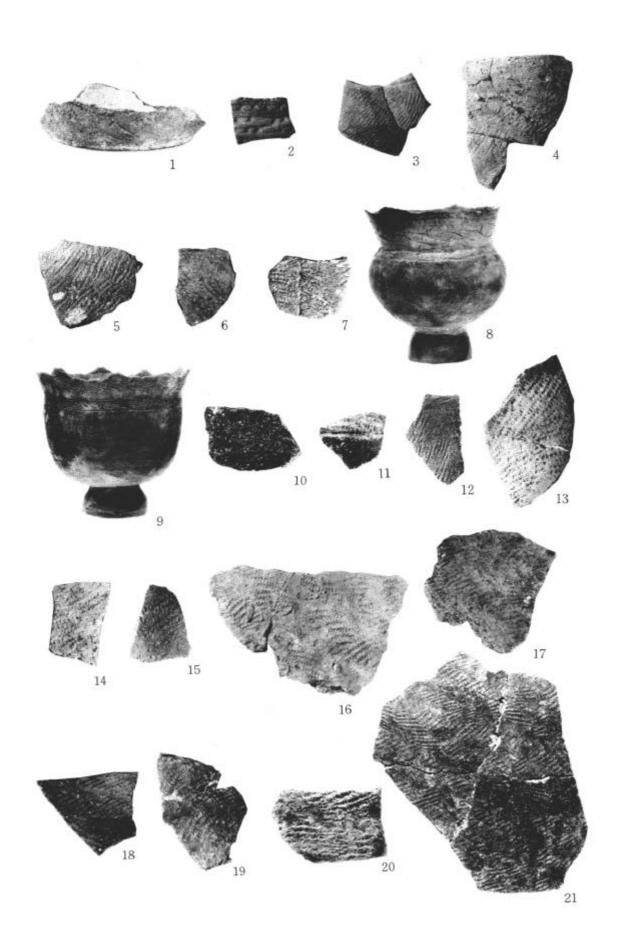


1 SK 015, 018~020, SB 001

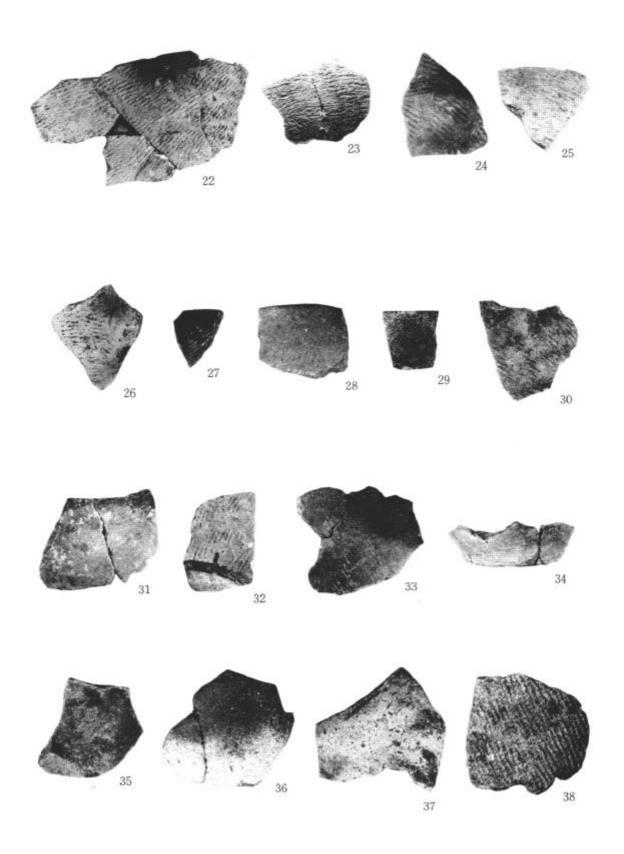


図版33 遺 跡

2 作 業 風 景



図版34 遺 物 1:SK001, 2~4:SK005, 5~7:SK012, 8·9:SK015, 20~21:SK018



図版35 遺 物 22~26: S K 018, 27~37: S K 021, 38: S K 022

